

男女共同参画に関する町民意識調査

令和2年度

宝達志水町

目 次

I	男女の地位の平等	1
1	男女平等についての現在の状況	1
II	家庭生活等	11
1	家庭における役割	11
2	「男は仕事、女は家庭」という考え方	24
3	「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由	25
4	「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由	26
5	男性が家事・育児を行うことのイメージ	27
6	男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて	29
7	男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと	31
8	子どもの教育方針	33
9	親の介護における役割分担	37
III	職業	41
1	職場での男女平等について	41
2	女性が管理職に昇進することについて	43
3	管理職に昇進することについてのイメージ	44
4	女性のリーダーを増やす上での障害	47
5	女性が働き続ける上での障害	49
6	女性の再就職に必要なこと	51
7	男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと	53
IV	女性の社会参画	55
1	女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか	55
2	女性が方針決定の場に参画するために必要なこと	57
V	ドメスティック・バイオレンス(DV)等	59
1	配偶者からのこれまでの被害経験の有無	59
2	配偶者からのこの1年間の被害経験の有無	64
3	交際相手からの被害経験の有無	69
4	同居の際の交際相手からの被害経験の有無	74
5	相談機関・関係者の周知状況	79
6	DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと	81
VI	男女共同参画社会の実現に向けて	83
1	用語の周知度	83
2	事業の周知度	100
3	男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと	106

I 男女の地位の平等

1 男女平等についての現在の状況

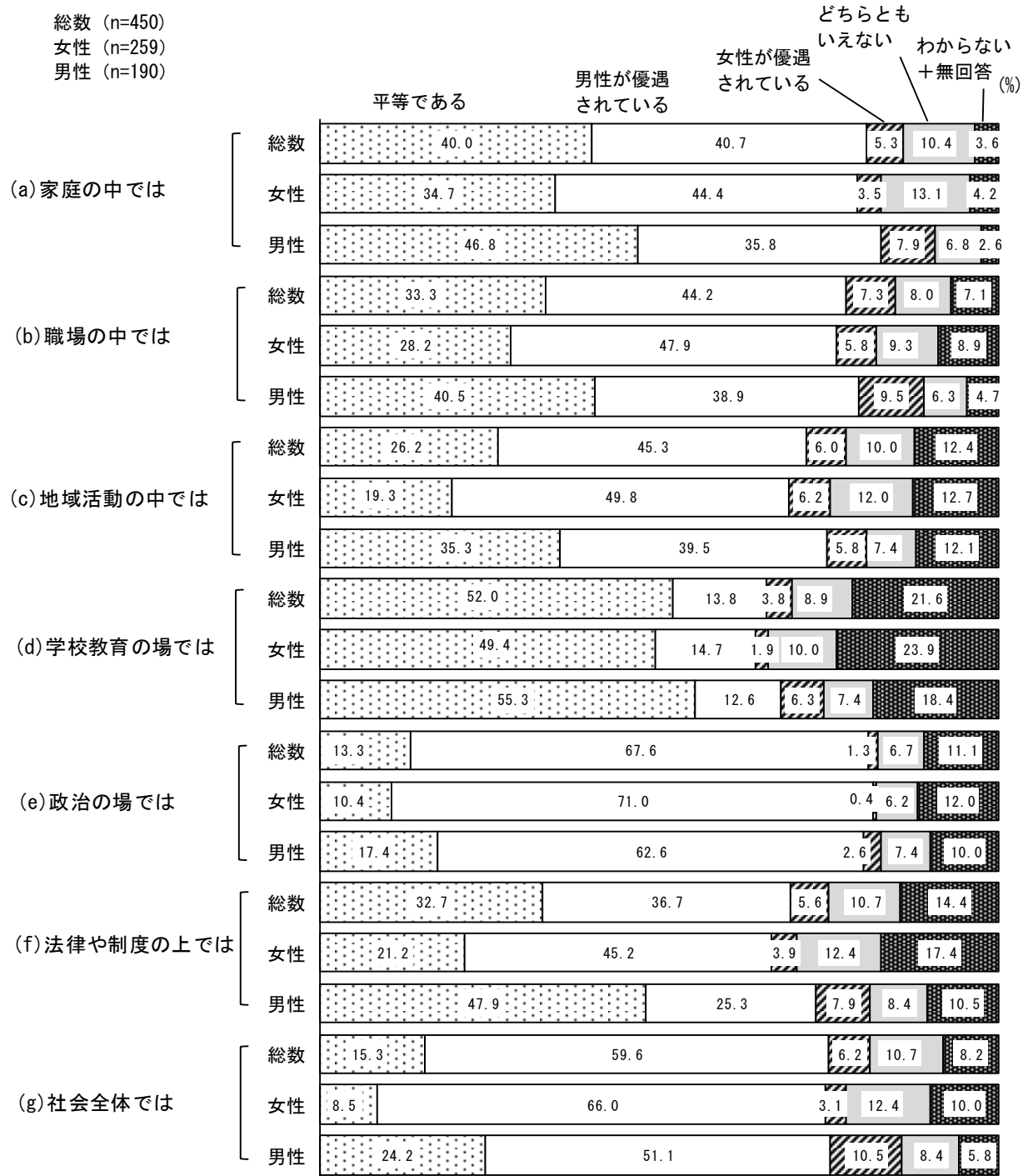
問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(a)～(g)の各分野について、あなたの考えに近いものの番号に1つ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

全体では「平等である」と考える人が、“(d)学校教育の場では”(52.0%)、“(a)家庭の中では”(40.0%)、“(b)職場の中では”(33.3%)“(f)法律や制度の上では”(32.7%)の順に多くなっている。「平等である」と考える人が最も少ないのは“政治の場では”(13.3%)である。

女性では、“(g)社会全体では”(8.5%)で、「平等である」が1割未満になっており、また、すべての項目で男性よりも「平等である」と考える人が少なくなっている。

男性では、“(e)政治の場では”(17.4%)では1割台となっているが、すべての項目で女性よりも、「平等である」と考える人が多くなっている。特に差が大きいのは“(f)法律や制度の上では”(47.9%)で、女性を26.7ポイント上回っている。

図1-1 男女平等についての現在の状況 項目別一覧（性別）



※『男性が優遇されている』は、調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。

『女性が優遇されている』は、調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。以降の頁も同様。

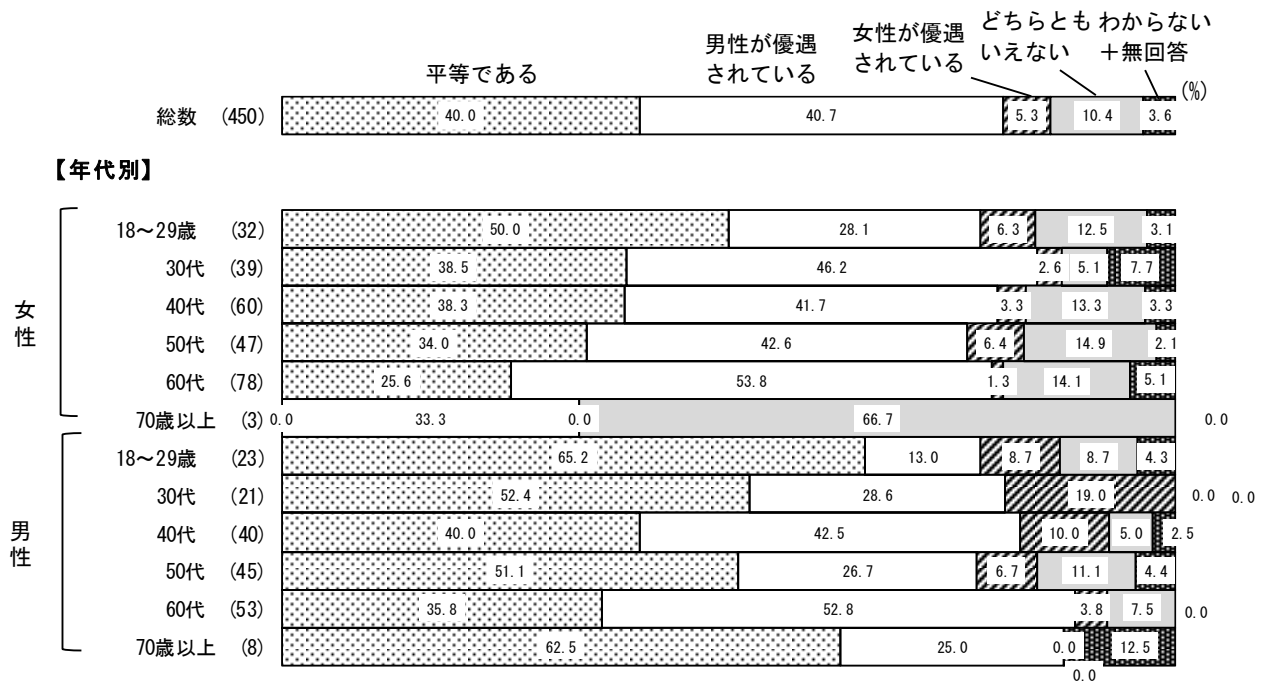
男女平等についての現在の状況（a）家庭の中では

【年代別】

女性では、「平等である」が18～29歳（50.0%）で最も多くなったが、60代では25.6%にとどまり、年代が高くなるにつれ少なくなる傾向がある。また『男性が優遇されている』は18～29歳（28.1%）で最も少なくなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（65.2%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は60代（52.8%）で5割を超えている。

図1-2 男女平等についての現在の状況（a）家庭の中では（年代別）



男女平等についての現在の状況

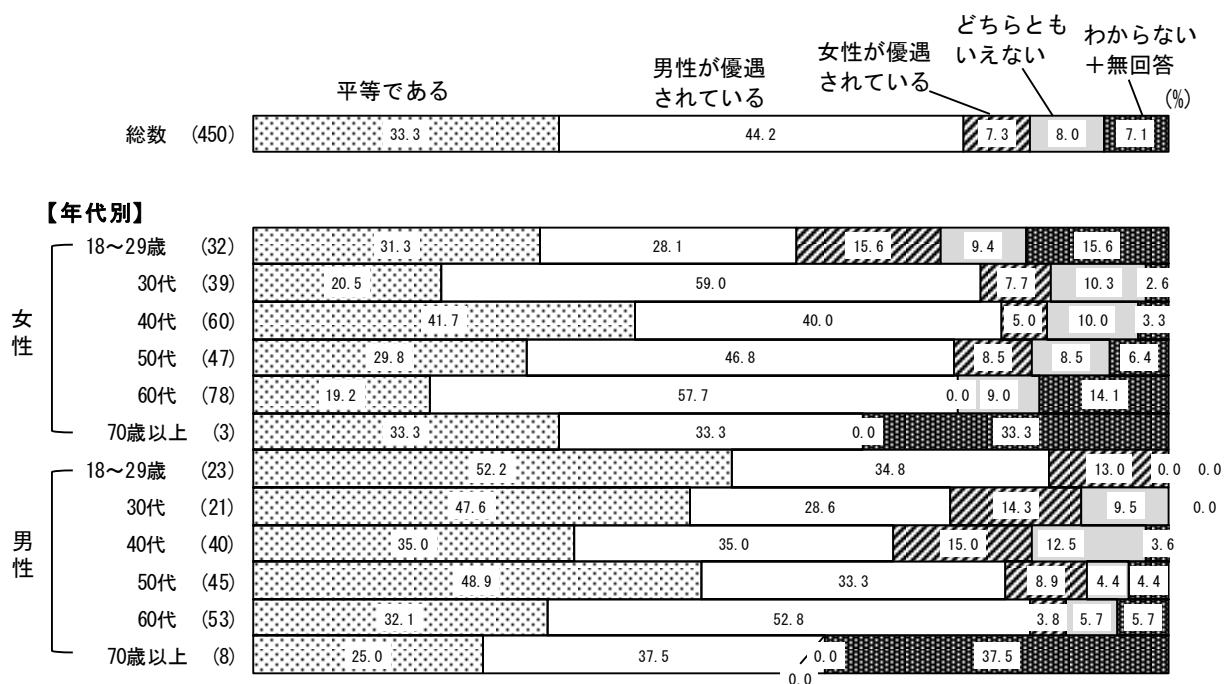
(b) 職場の中では

【年代別】

女性では、「平等である」が40代（41.7%）で最も多く、60代では19.2%と最も少ない。『男性が優遇されている』は、30代（ともに59.0%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」が18～29歳（52.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は60代（52.8%）で最も多くなっている。

図1-3 男女平等についての現在の状況 (b) 職場の中では (年代別)



男女平等についての現在の状況

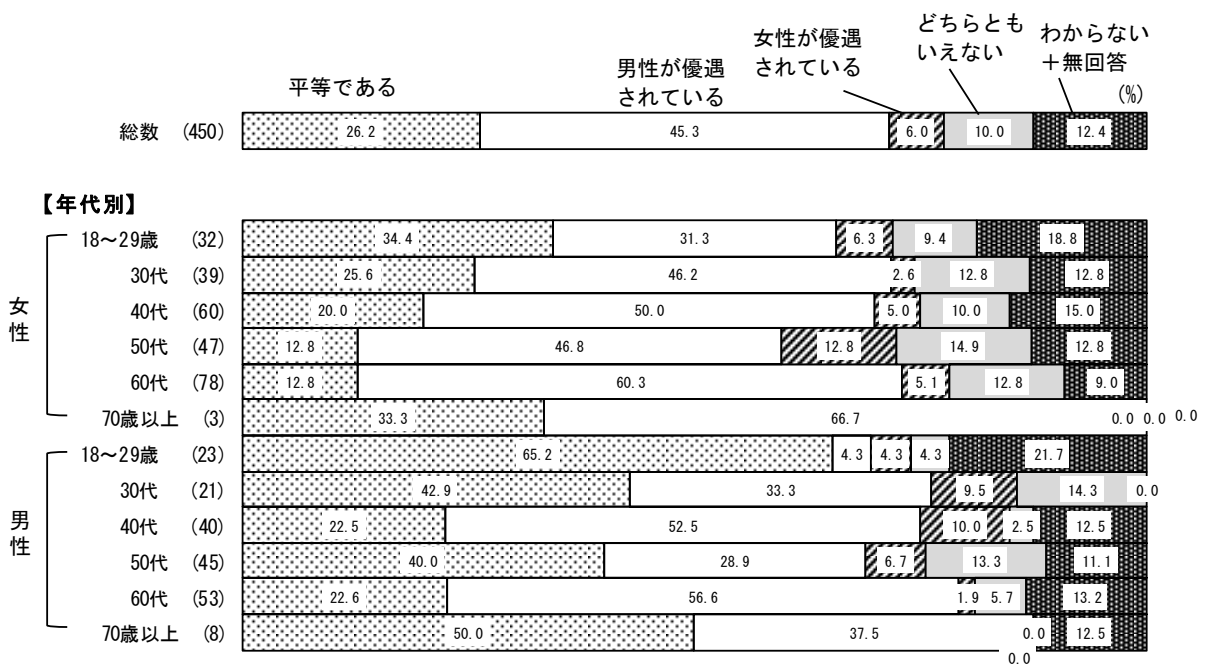
(c) 地域活動の中では

【年代別】

女性では、「平等である」が18～29歳（34.4%）で最も多く、50代と60代（ともに12.8%）が最も少なく、年代が高くなるにつれて減少する傾向にある。

男性では、「平等である」が18～29歳（65.2%）で半数を超えている。『男性が優遇されている』は40代（52.5%）、60代（56.6%）で半数を超えている。

図1-4 男女平等についての現在の状況 (c) 地域活動の中では (年代別)



男女平等についての現在の状況

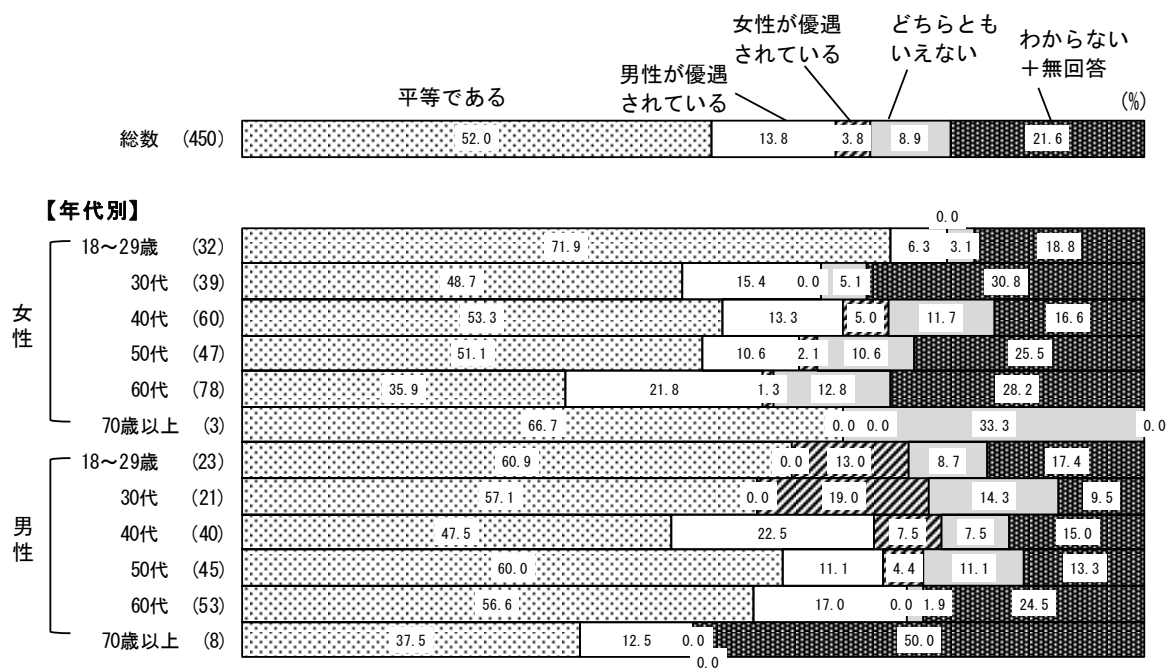
(d) 学校教育の場では

【年代別】

女性では、「平等である」が18～29歳（71.9%）で最も多く、60代（35.9%）で最も少なくなっている。『男性が優遇されている』は60代（21.8%）で最も多い。

男性では、「平等である」が18～29歳（60.9%）で6割を超え最も多い。『男性が優遇されている』は、40代（22.5%）で最も多くなっている。

図 1-5 男女平等についての現在の状況 (d) 学校教育の場では (年代別)



男女平等についての現在の状況

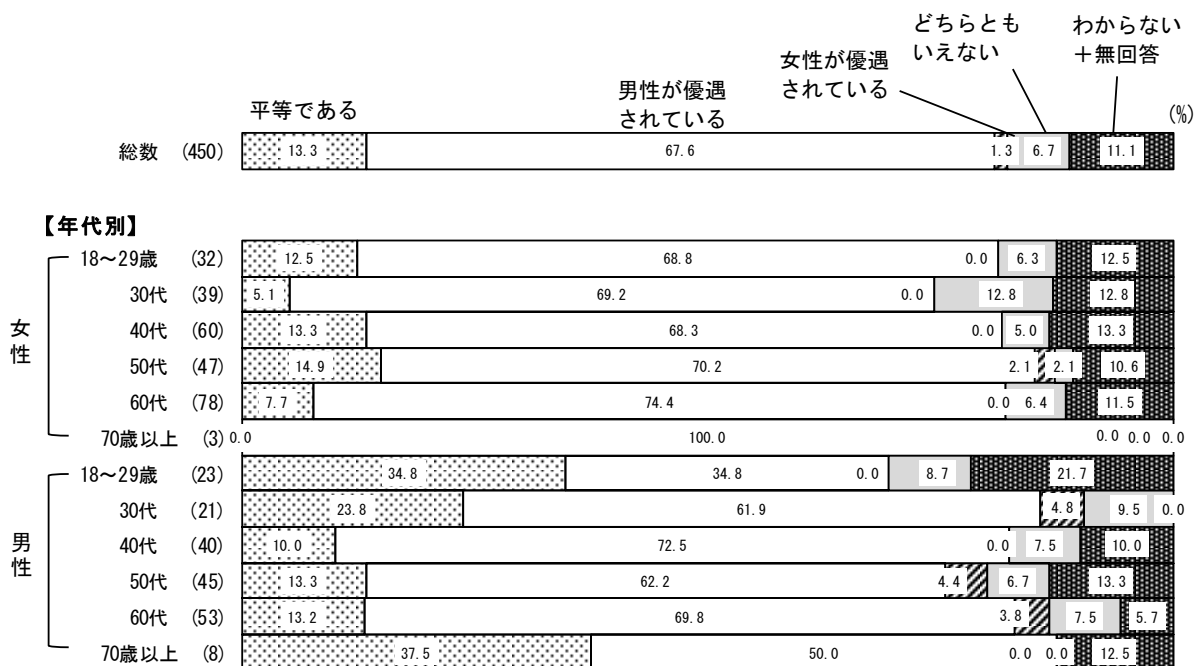
(e) 政治の場では

【年代別】

女性では、「平等である」が30代と60代で1割以下となっている。『男性が優遇されている』はいずれの年代でも6割を超えている。

男性では、「平等である」が40代（10.0%）で最も少なく、60代（37.5%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は18～29歳（34.8%）で最も少ない。

図1-6 男女平等についての現在の状況 (e) 政治の場では(年代別)



男女平等についての現在の状況

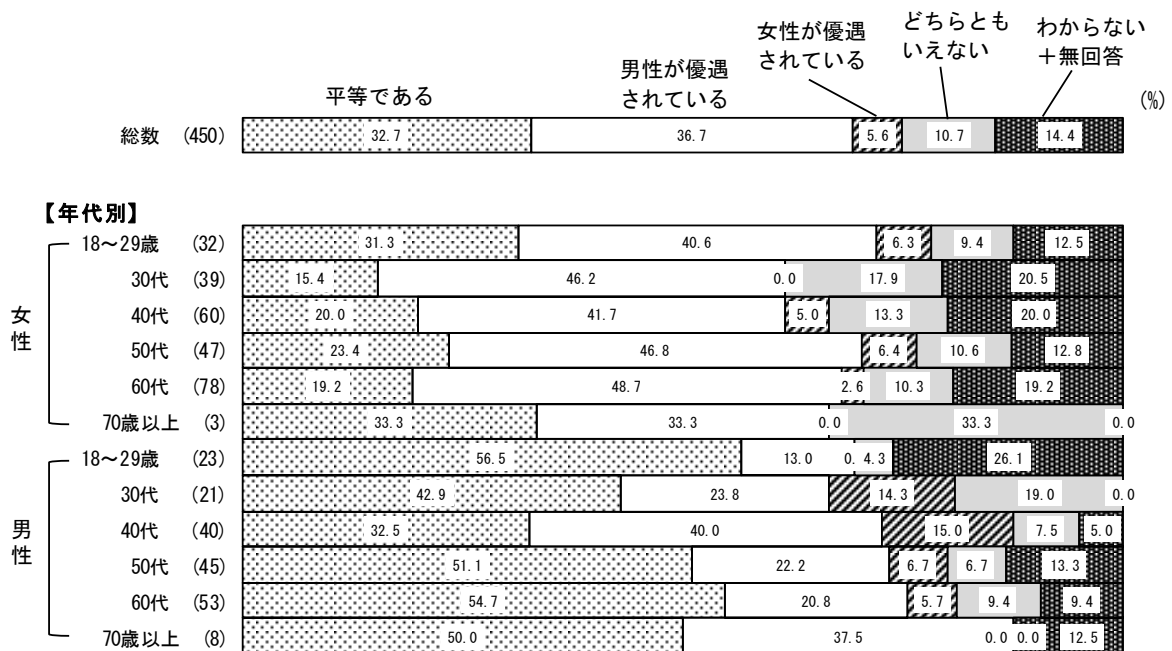
(f) 法律や制度の上では

【年代別】

女性では、「平等である」が50代（23.4%）で最も多く、30代（15.4%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は60代（48.7%）で最も多く、18～29歳（40.6%）で最も少なくなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（56.5%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は40代（40.0%）で最も多く、18～29歳（13.0%）で最も少ない。

図 1-7 男女平等についての現在の状況 (f) 法律や制度の上では (年代別)



男女平等についての現在の状況

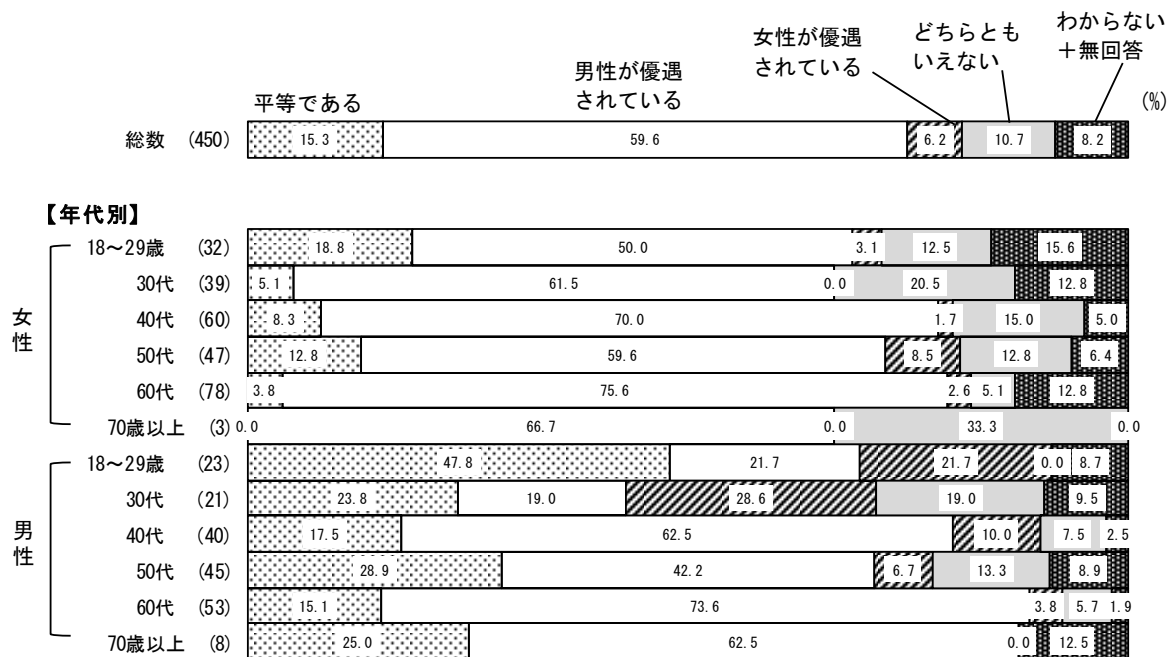
(g) 社会全体では

【年代別】

女性では、「平等である」が18～29歳（18.8%）で最も多い。『男性が優遇されている』は60代（75.6%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（47.8%）で最も多い。『男性が優遇されている』は60代（73.6%）が最も多くなった。

図 1-8 男女平等についての現在の状況 (g) 社会全体では (年代別)



Ⅱ 家庭生活

1 家庭における役割

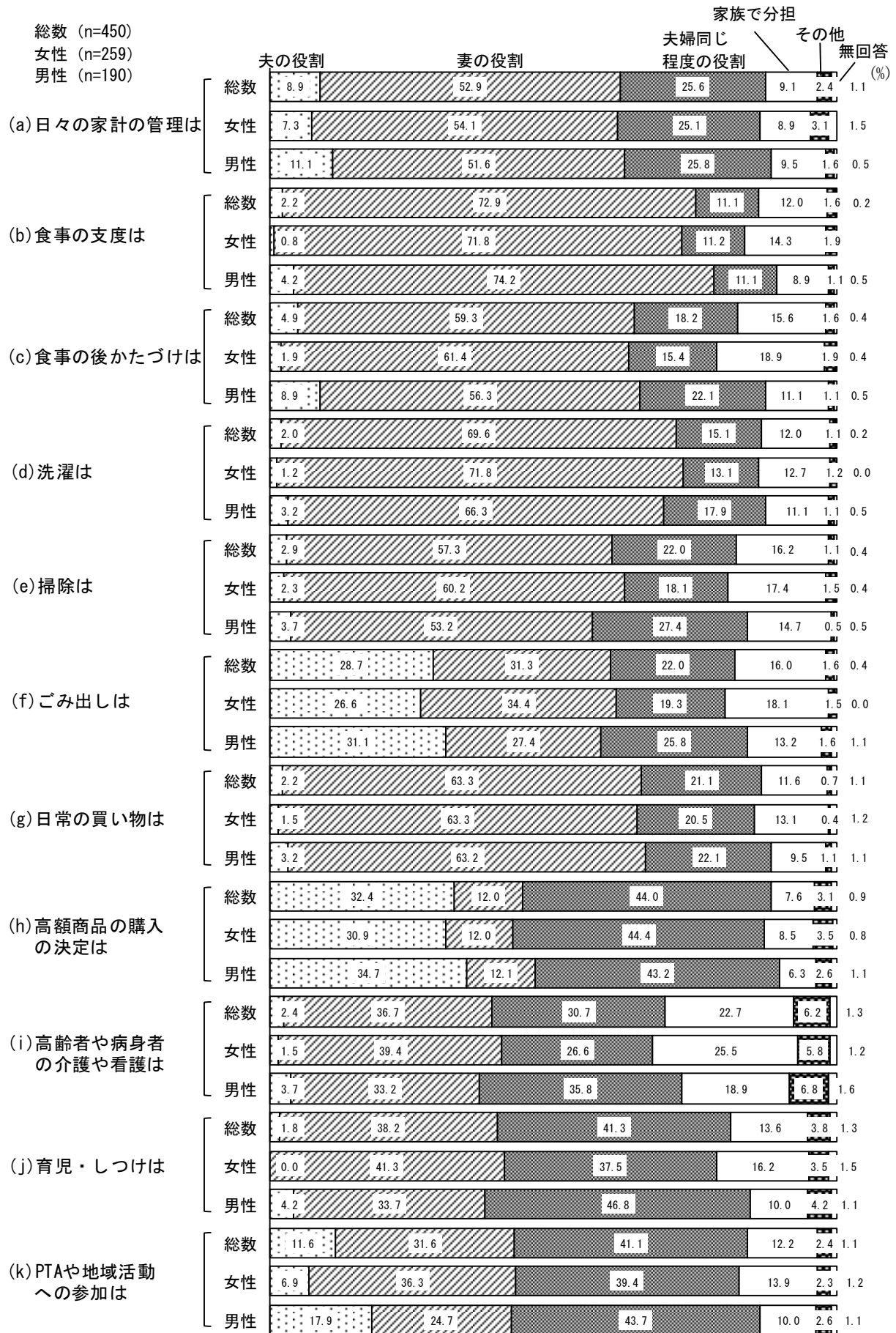
問2 次にあげる（a）～（k）の家庭の仕事は誰の役割だと思いますか。あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。配偶者のいない方もお答えください。（○はそれぞれ1つ）

家庭の仕事は誰の役割だと思うかについて、『妻の役割』と回答した割合が多いのは、“（b）食事の支度”（女性71.8%、男性74.2%）、次いで“（d）洗濯”（女性71.8%、男性66.3%）、“（g）日常の買い物”（女性63.3%、男性63.2%）の順となった。

「夫婦同じ程度の役割」の割合が高いのは、“（h）高額商品の購入の決定”（女性44.4%、男性43.2%）、“（j）育児・しつけ”（女性37.5%、男性46.8%）、“（k）PTAや地域活動への参加”（女性39.4%、男性43.7%）の順となっている。

※『夫の役割』は、調査票選択肢の「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合計したもの。『妻の役割』は、調査票選択肢の「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合計したもの。以降の頁も同様。

図2-1 家庭における役割 項目別一覧（性別）



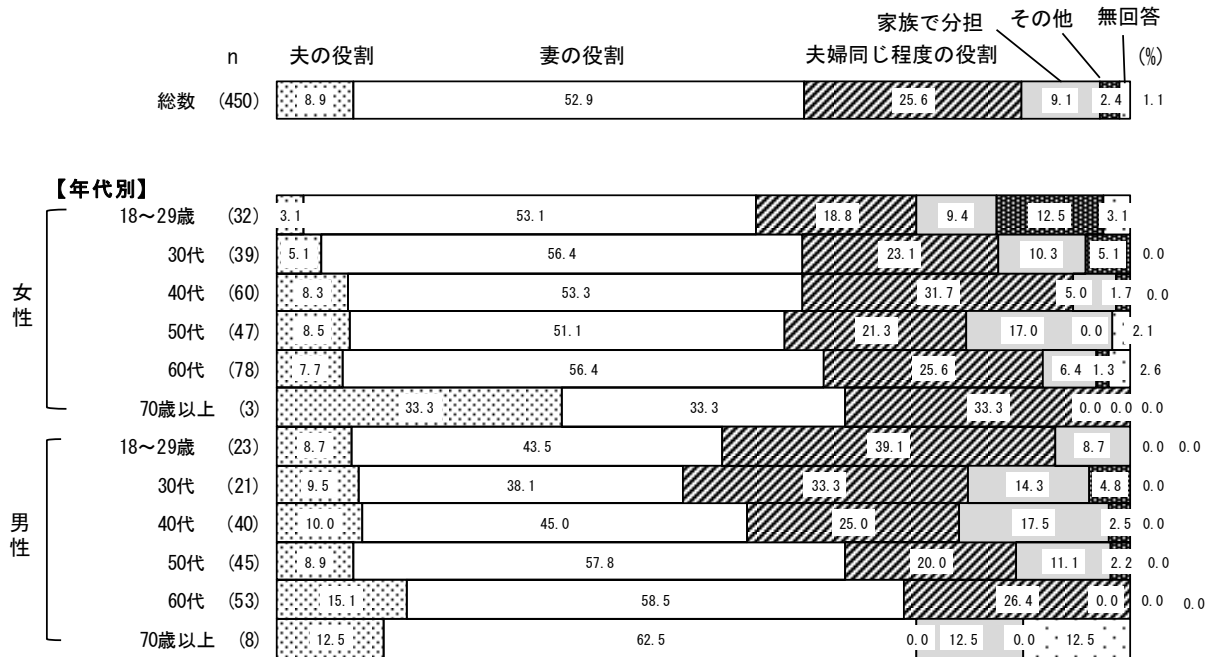
家庭における役割 (a) 日々の家計の管理は

【年代別】

女性では、『夫の役割』は1割未満となった年代が多い。

男性では、『夫の役割』は60代 (15.1%) で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、18~29歳 (39.1%) で最も多くなった。

図 2-2 家庭における役割 (a) 日々の家計の管理は (年代別)



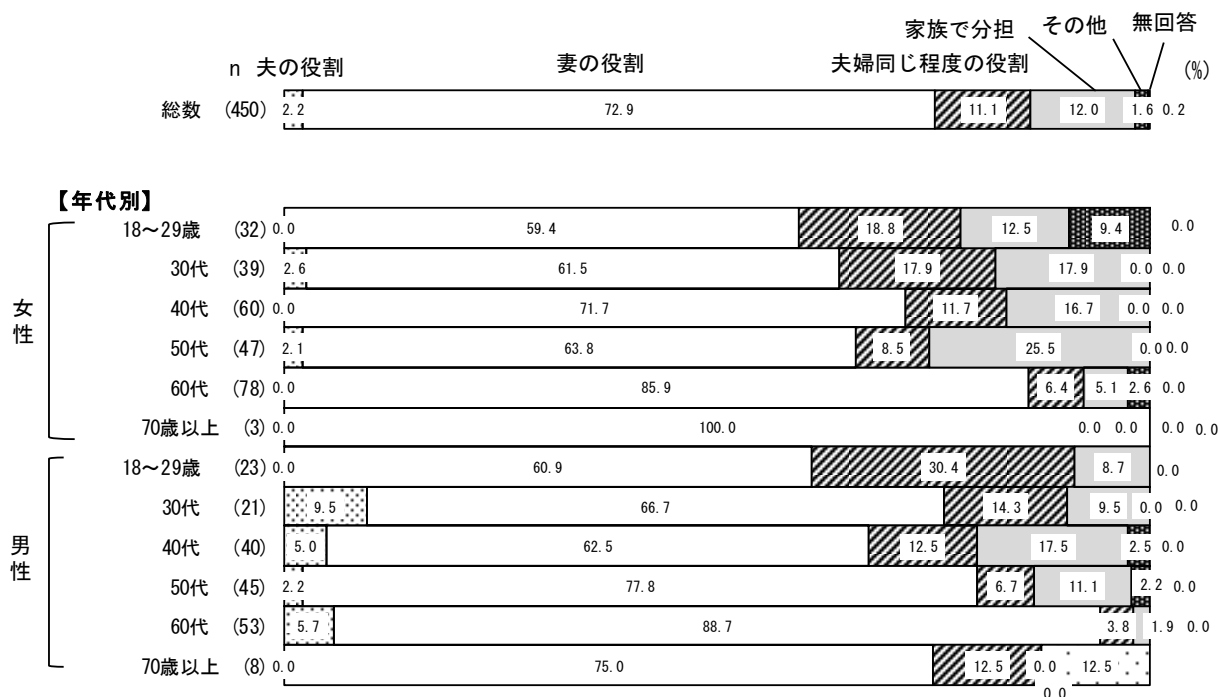
家庭における役割 (b) 食事の支度は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代以上（85.9%）で最も多くなった。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（18.8%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は60代（88.7%）が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（30.4%）で最も多くなっている。

図 2-3 家庭における役割 (b) 食事の支度は (年代別)

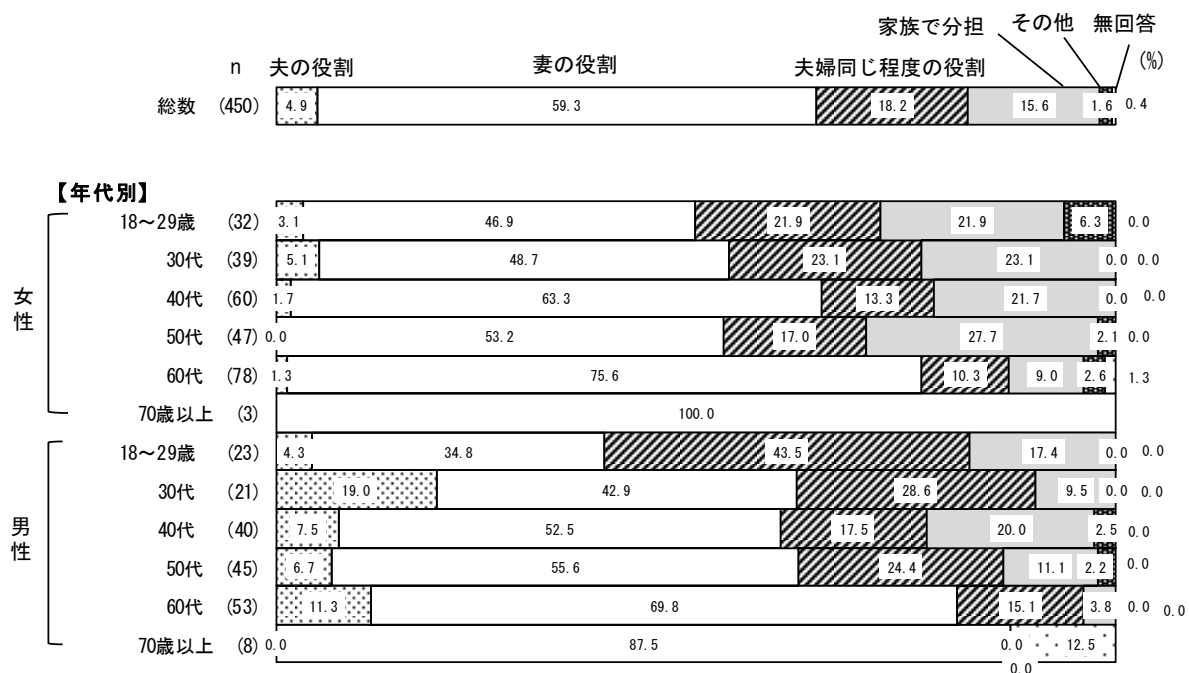


家庭における役割 (c) 食後の後かたづけは

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代 (75.6%) で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。
 「夫婦同じ程度の役割」は30代 (23.1%) で最も多く、年代とともに減少する傾向にある。
 男性では、『妻の役割』は60代 (69.8%) で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。
 「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳 (43.5%) で最も多くなった。

図 2-4 家庭における役割 (c) 食後の後かたづけは (年代別)

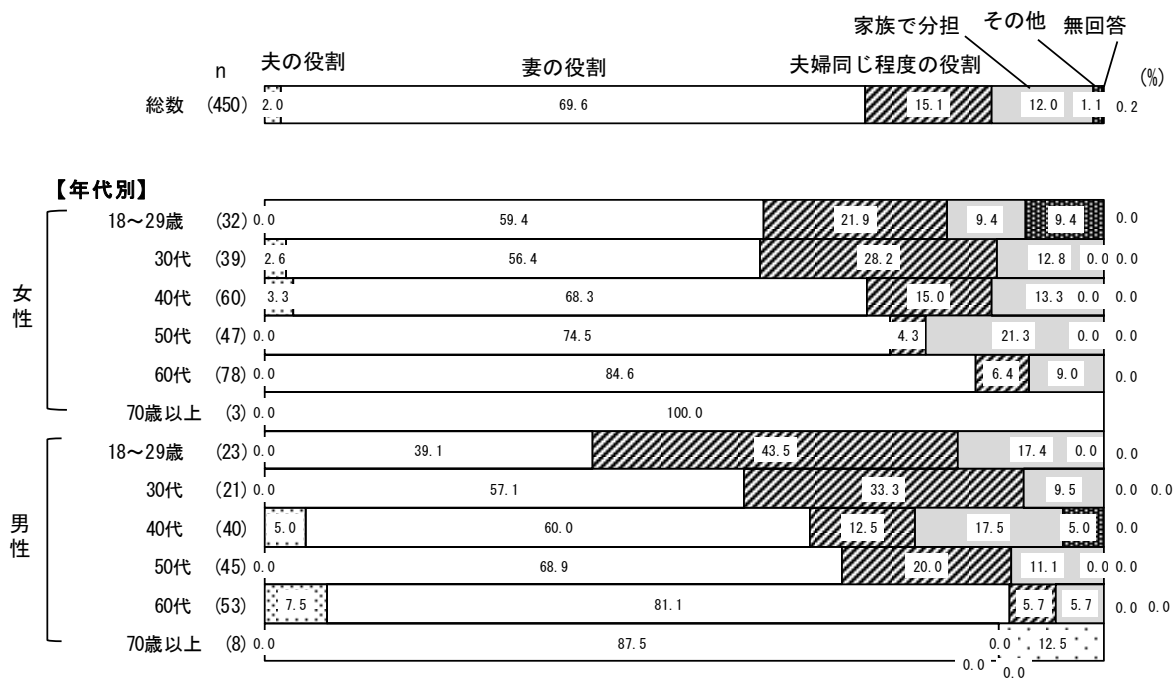


家庭における役割 (d) 洗濯は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代 (84.6%) で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は30代 (28.2%) で最も多く、年代とともに減少する傾向にある。
 男性では、『妻の役割』は60代 (81.1%) で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18~29歳 (43.5%) で最も多くなっている。

図2-5 家庭における役割 (d) 洗濯は (年代別)



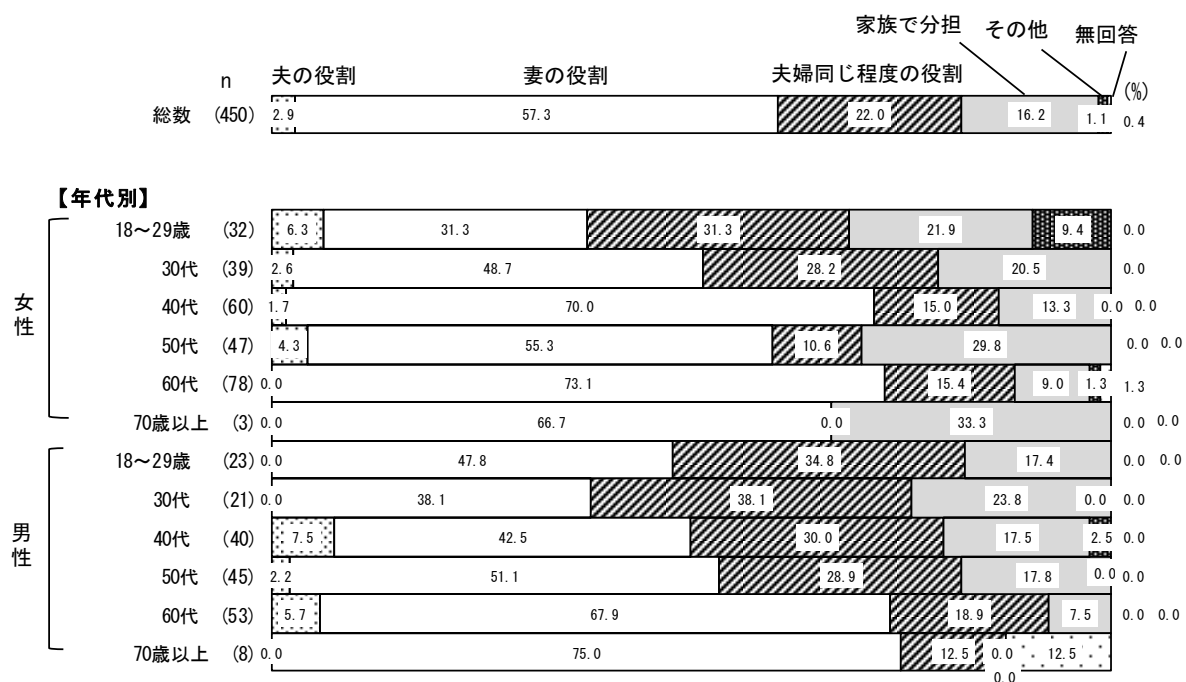
家庭における役割 (e) 掃除は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代 (73.1%) で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳 (31.3%) で最も多くなっている。

男性においても、『妻の役割』は60代 (67.9%) で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代 (38.1%) で最も多くなっている。

図2-6 家庭における役割 (e) 掃除は (年代別)



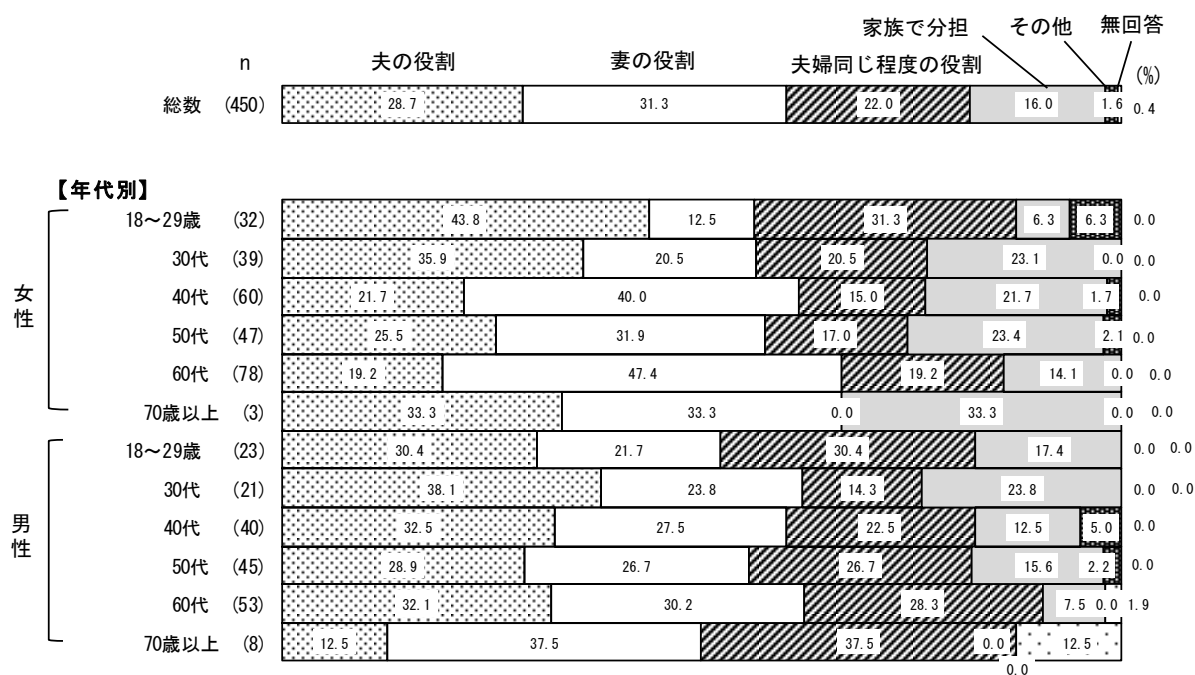
家庭における役割 (f) ごみ出しは

【年代別】

女性では、『夫の役割』は18～29歳（43.8%）で最も多くなっている。『妻の役割』は60代（47.4%）が最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（31.3%）で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は30代（38.1%）で最も多く、『妻の役割』は60代（30.2%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（30.4%）で最も多くなっている。

図2-7 家庭における役割 (f) ごみ出しは（年代別）



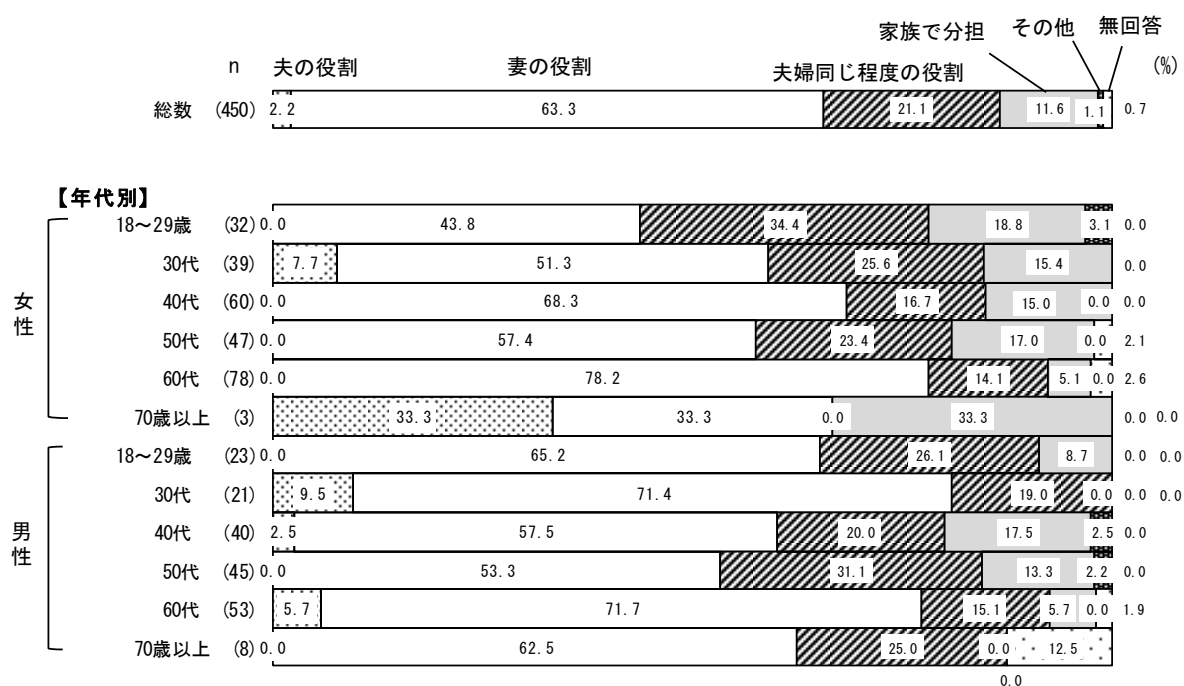
家庭における役割 (g) 日常の買い物は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代(78.2%)が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18~29歳(34.4%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は60代(71.7%)が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は50代(31.1%)が最も多くなっている。

図2-8 家庭における役割 (g) 日常の買い物は (年代別)



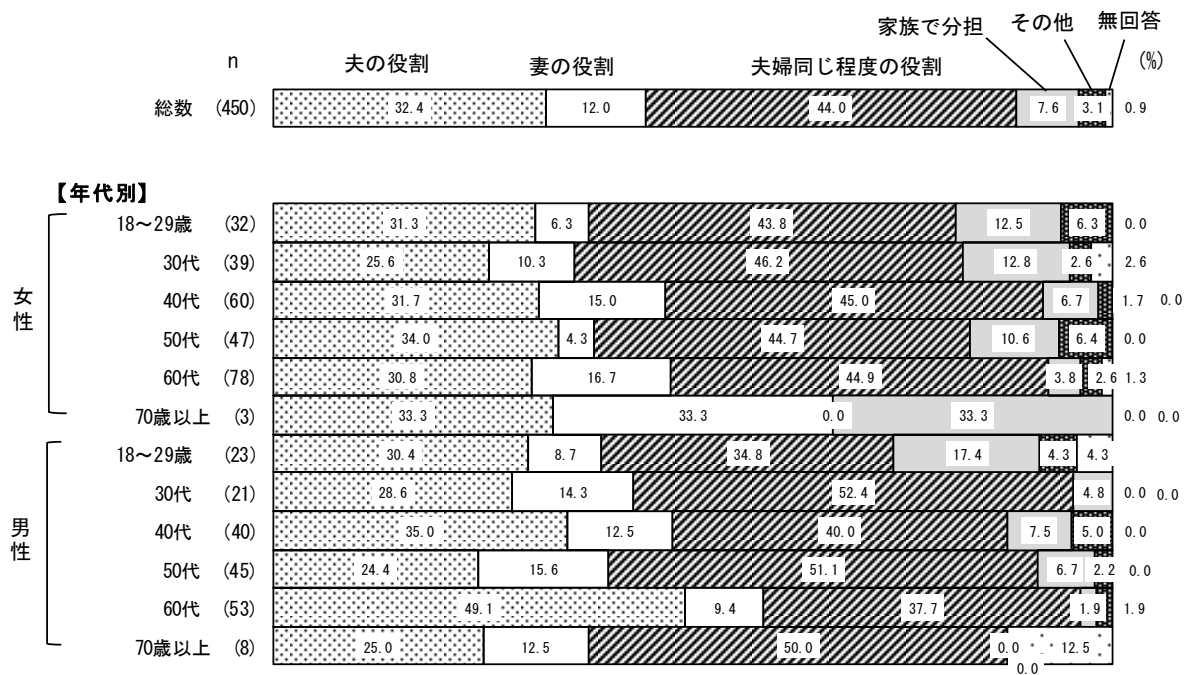
家庭における役割 (h) 高額商品の購入の決定は

【年代別】

女性では、『夫の役割』は50代(34.0%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代(46.2%)で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は60代(49.1%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は50代(51.1%)で最も多くなっている。

図2-9 家庭における役割 (h) 高額商品の購入の決定は (年代別)



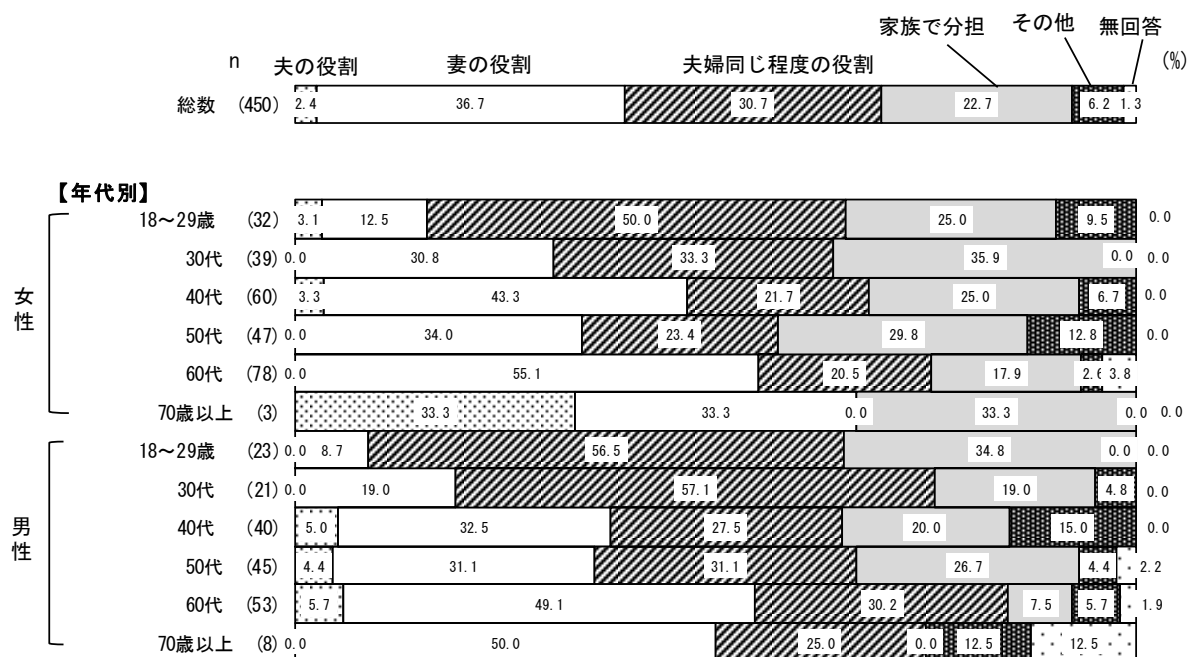
家庭における役割 (i) 高齢者や病身者の介護や看護は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代 (55.1%) で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳 (50.0%) が最も多くなっている。

男性においても、『妻の役割』は60代 (49.1%) で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代 (57.1%) が最も多くなっている。

図2-10 家庭における役割 (i) 高齢者や病身者の介護や看護は (年代別)



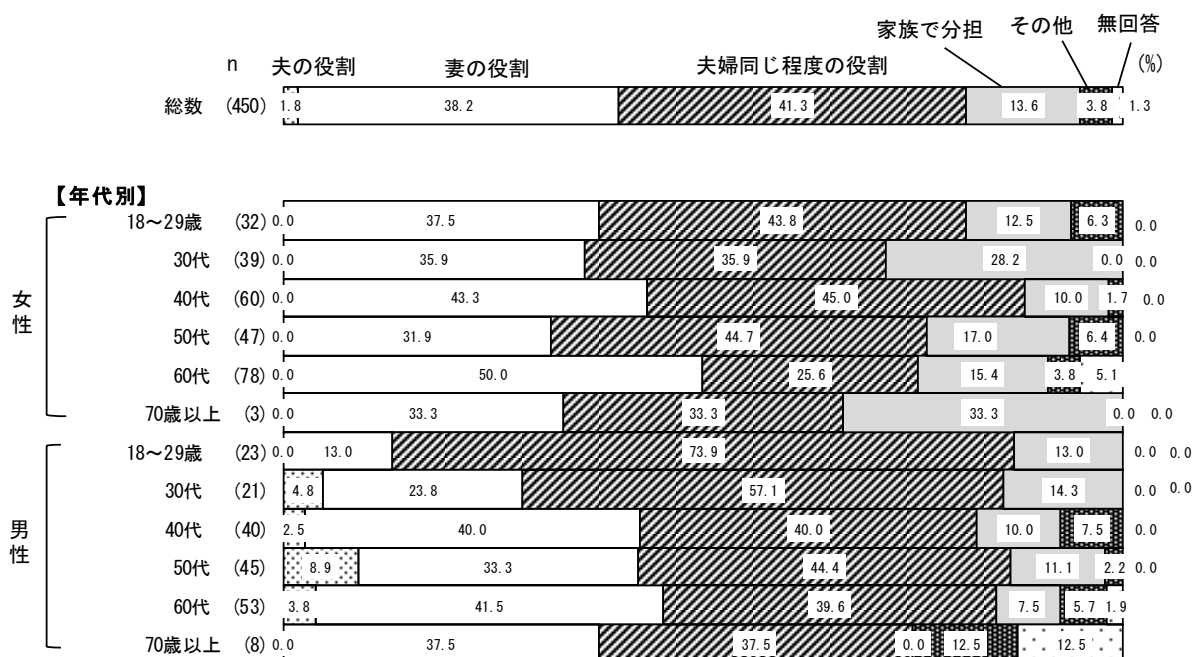
家庭における役割 (j) 育児・しつけは

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代(50.0%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は40代(45.0%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は60代(41.5%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18~29歳(73.9%)で最も多くなっている。

図2-11 家庭における役割 (j) 育児・しつけは (年代別)



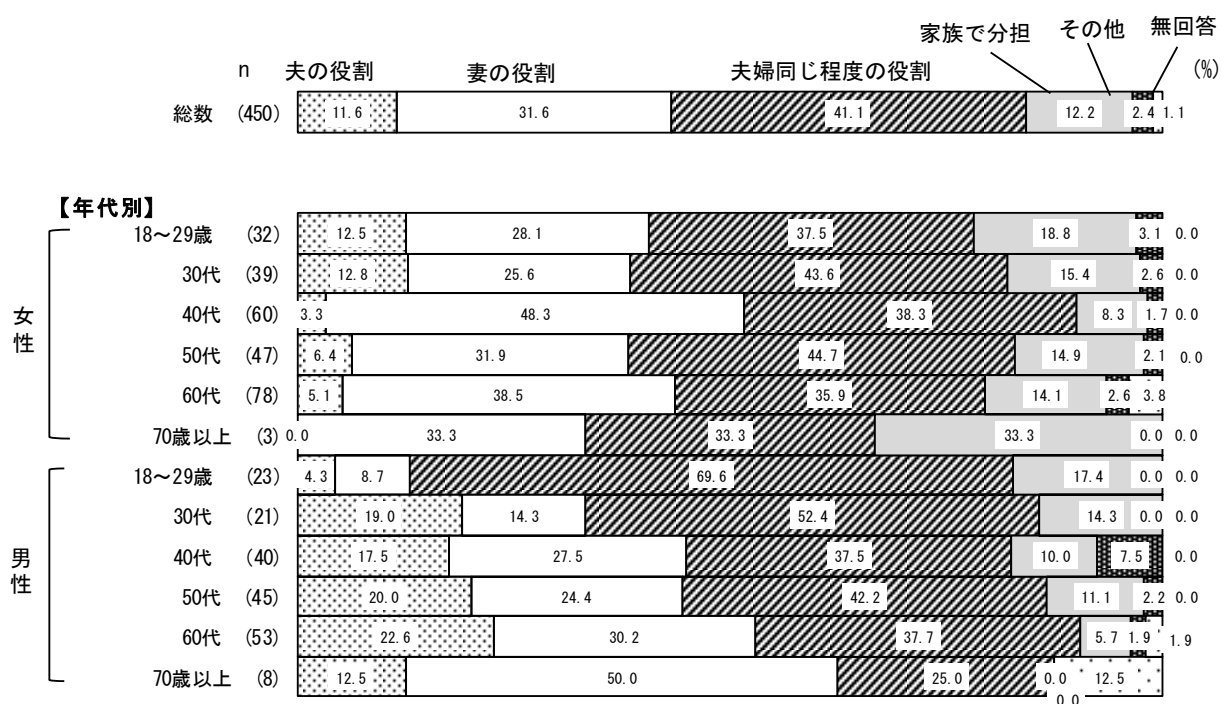
家庭における役割 (k) P T Aや地域活動への参加は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は30代(25.6%)で最も低く、『夫婦同じ程度の役割』は50代(44.7%)が最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は60代(22.6%)で最も多く、『妻の役割』は60代(30.2%)で、『夫婦同じ程度の役割』は18~29歳(69.6%)が最も多くなっている。

図2-12 家庭における役割 (k) P T Aや地域活動への参加は (年代別)



2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

全体では、「賛成」(3.6%)、「やや賛成」(11.6%)を合わせて『賛成である(計)』は15.2%となっている。一方、「あまり賛成しない」(23.6%)、「賛成しない」(27.6%)を合わせた『賛成しない(計)』は51.2%となり『賛成である(計)』が『賛成しない(計)』を36.0ポイント上回っている。「どちらともいえない」は31.3%となっている。

【性別】

女性では、『賛成である(計)』は12.0%、『賛成しない(計)』は58.7%となり、『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を46.7ポイント上回った。

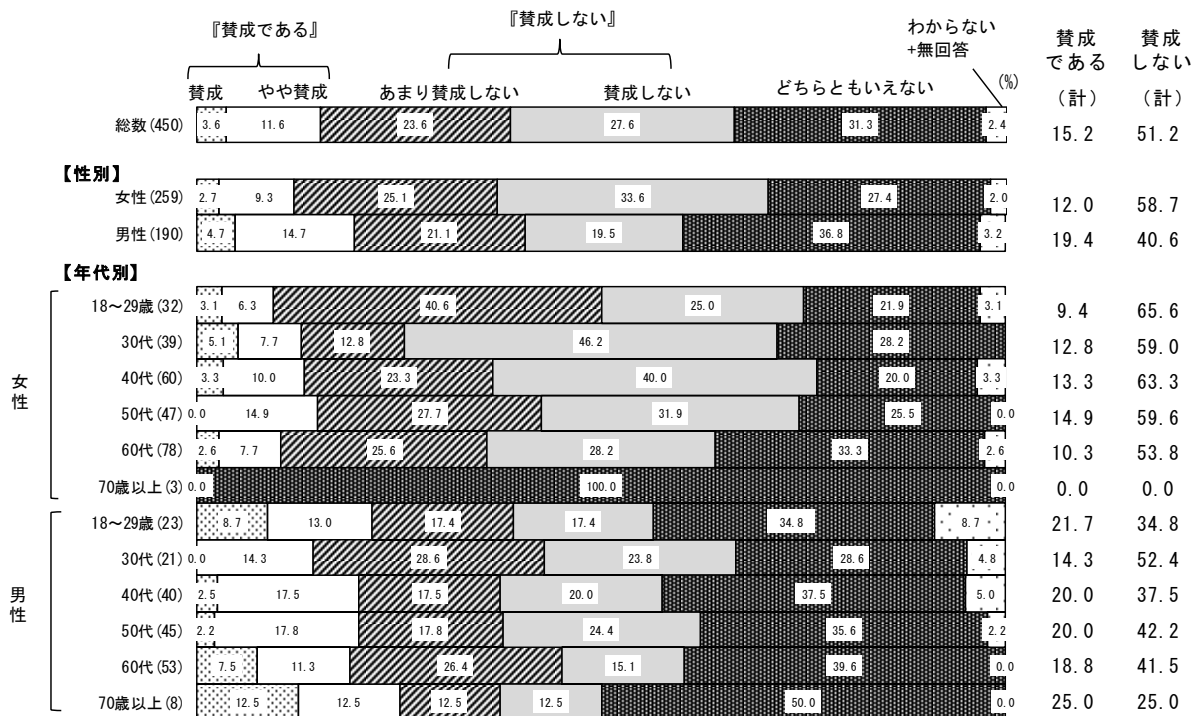
男性では、『賛成である(計)』は19.4%、『賛成しない(計)』は40.6%となり、『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を21.2ポイント上回っている。

【年代別】

女性では、全ての年代で『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を上回っている。18～29歳で『賛成しない(計)』(65.6%)が『賛成である(計)』(9.4%)を56.2ポイント上回っている。『賛成しない(計)』は60代(55.3%)が最も少なくなっている。

男性でも全ての年代で『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を上回っている。30代で『賛成しない(計)』と『賛成である(計)』の差が最も多く38.1ポイントとなっている。

図3-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別・年代別)



※『賛成である(計)』は調査票選択肢の「賛成」と「やや賛成」を合計したもの。
『賛成しない(計)』は調査票選択肢の「賛成しない」と「あまり賛成しない」を合計したもの。以降の頁も同様。

3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由

(問3で1または2に○をつけた方にお聞きします。)

問3-1 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

【性別】

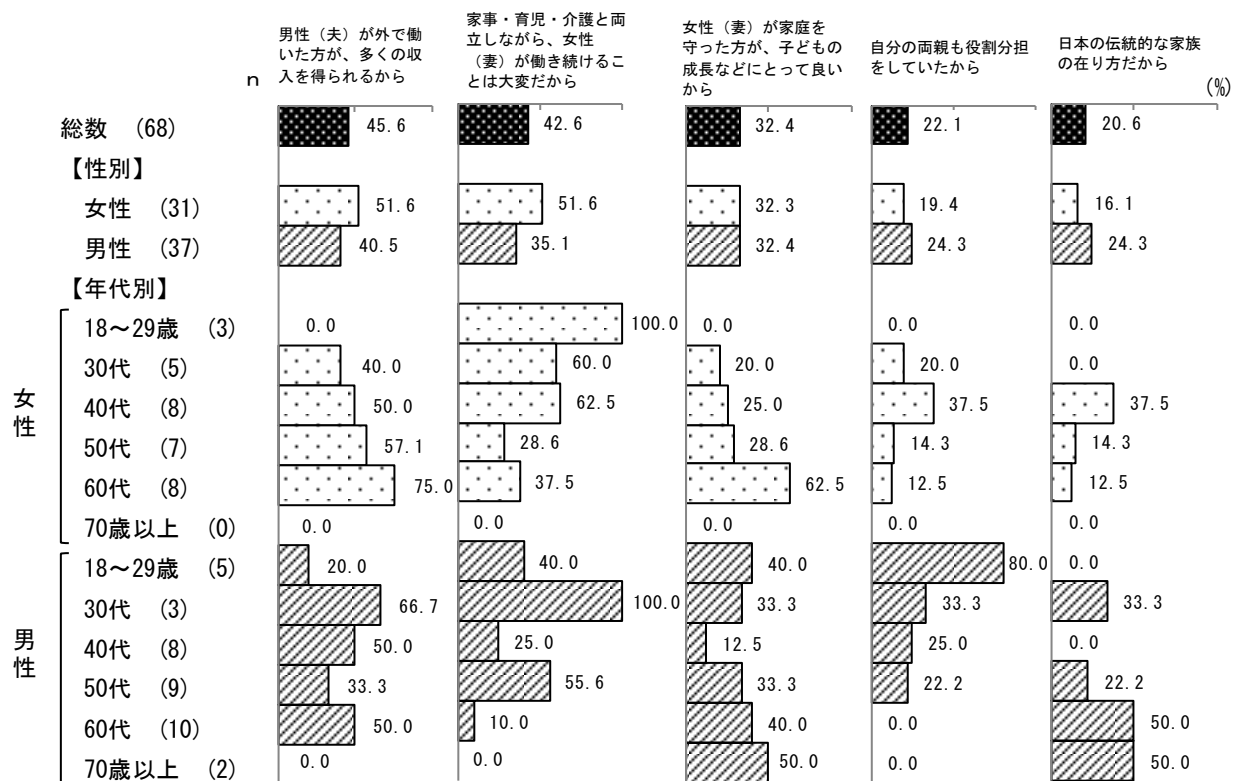
多くの項目で目立った差は見られないが、「男性(夫)が外で働いた方が、多くの収入を得られるから」では男性(40.5%)より女性(51.6%)の方が11.1ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、60代(75.0%)で「男性(夫)が外で働いた方が、多くの収入を得られるから」が最も多くなっている。

男性では、30代(66.7%)で「男性(夫)が外で働いた方が、多くの収入を得られるから」が最も多くなっている。

図3-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由(性別・年代別)



4 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由

(問3で4または5に○をつけた方にお聞きします。)

問3-2 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

【性別】

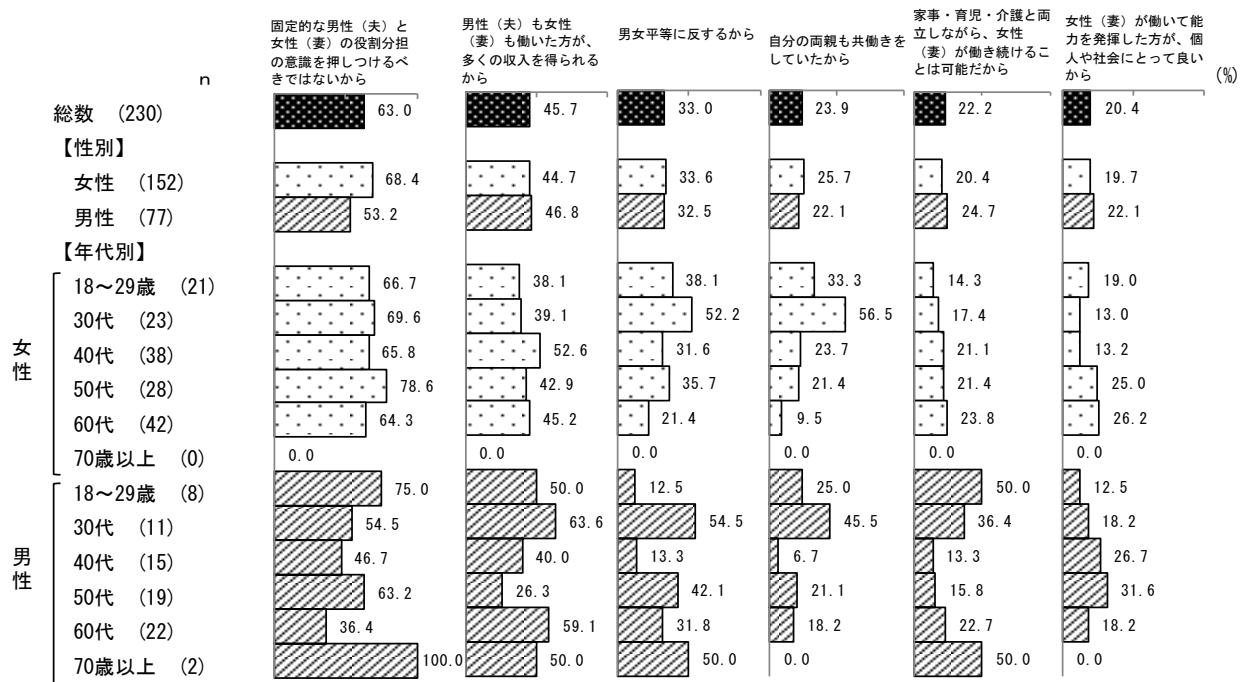
「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が女性(68.4%)、男性(53.2%)ともに最も多く、女性の方が15.2ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、全ての年代で「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。40代で「男性(夫)も女性(妻)も働いた方が、多くの収入を得られるから」(52.6%)が5割を超え、他の年代より多くなっている。

男性においても、30代と60代を除いた年代で「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。30代(63.6%)と50代(59.1%)では「男性(夫)も女性(妻)も働いた方が、多くの収入を得られるから」が最も多くなった。

図3-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由(性別・年代別)

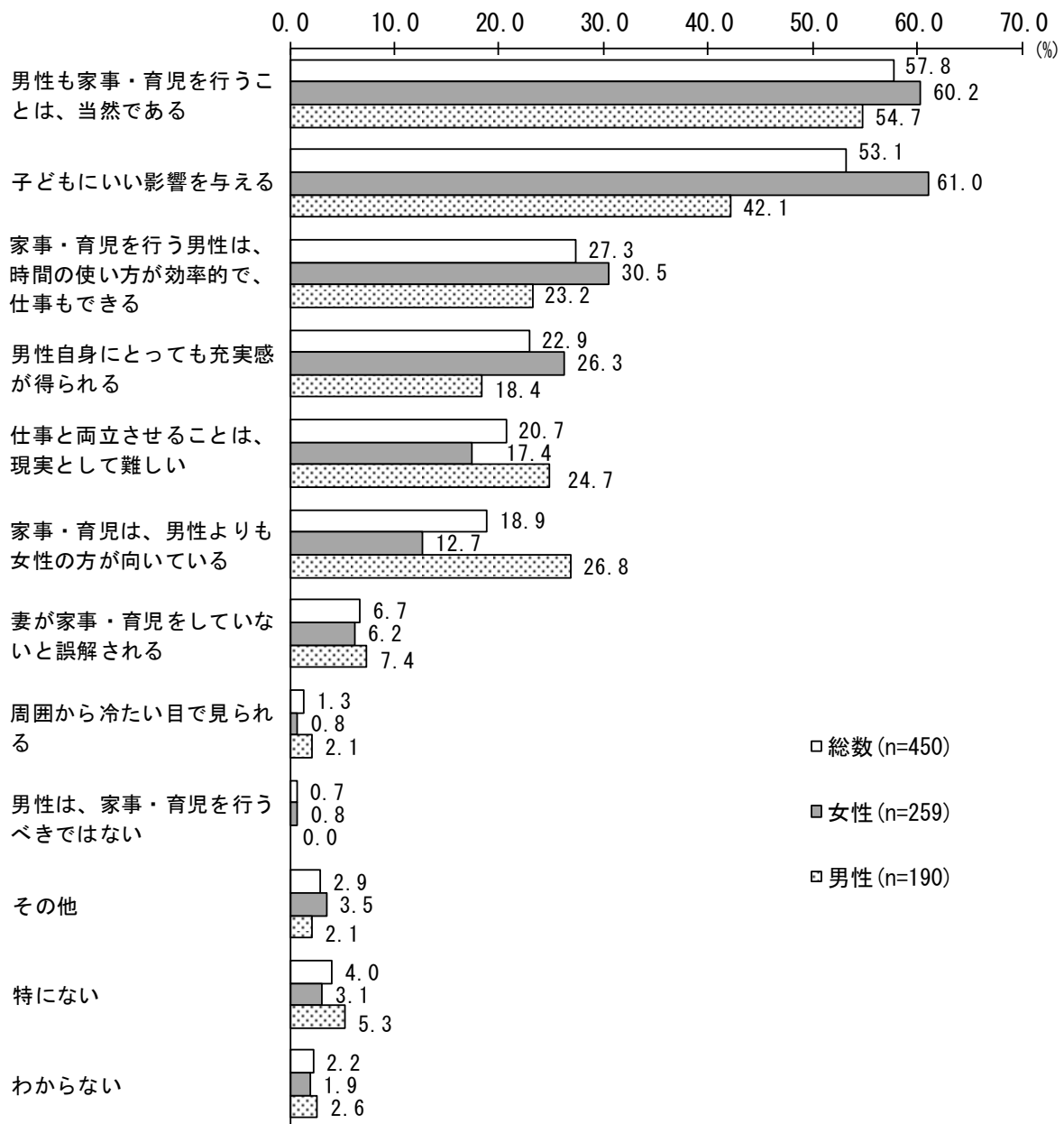


5 男性が家事・育児を行うことのイメージ

問4 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(〇はいくつでも)

全体では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(57.8%)が最も多く、次いで「子どもにいい影響を与える」(53.1%)が続いている。他は半数を下回っている。
男女とも「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(女性60.2%、男性54.7%)が最も多くなっている。

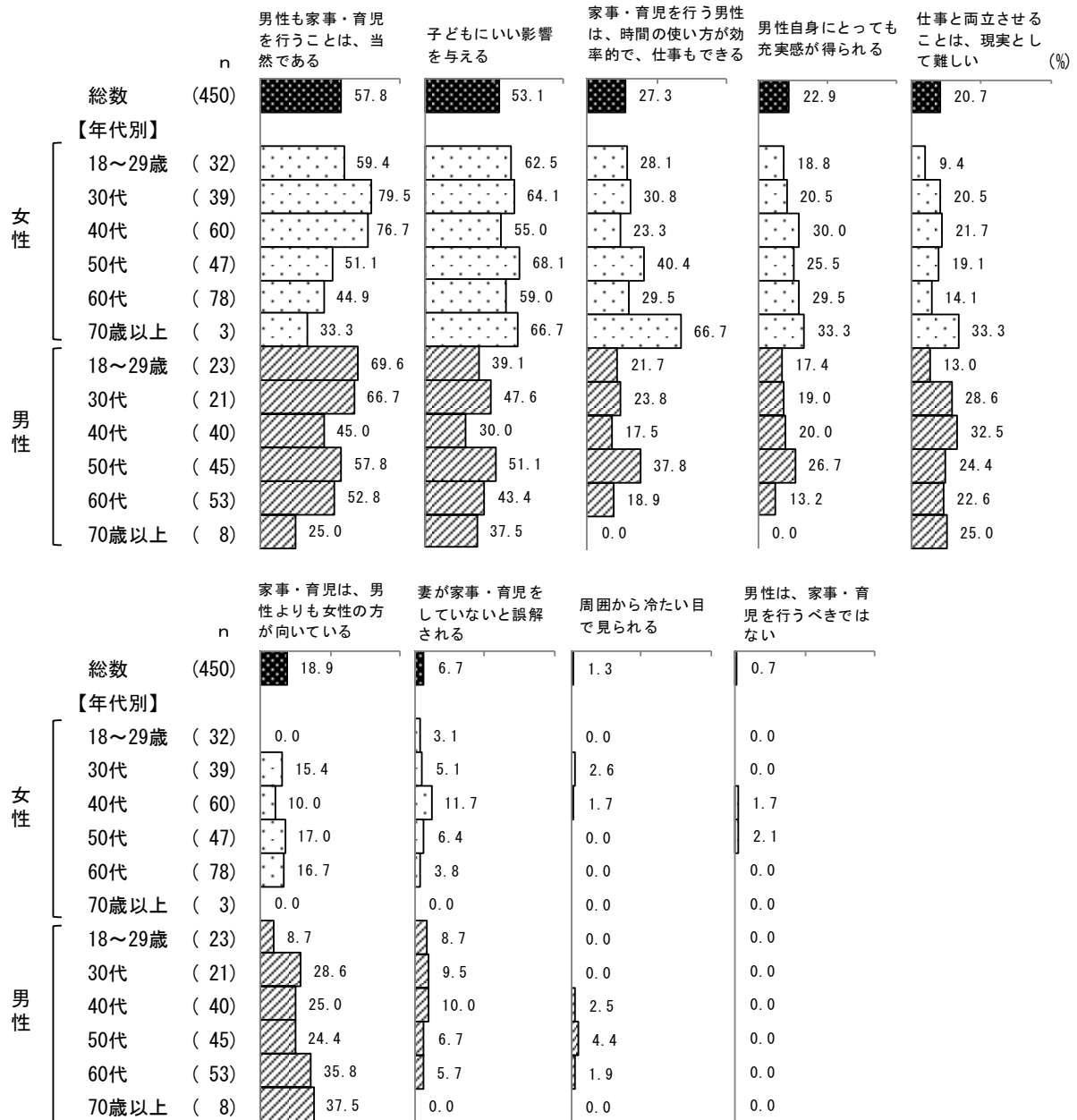
図4-1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと (性別)



【年代別】

女性では、「子どもにいい影響を与える」は30代（79.5%）、40代（76.7%）で最も多い。
 男性では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」は全年代で最も多くなっている。

図4-2 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと（年代別）



6 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて

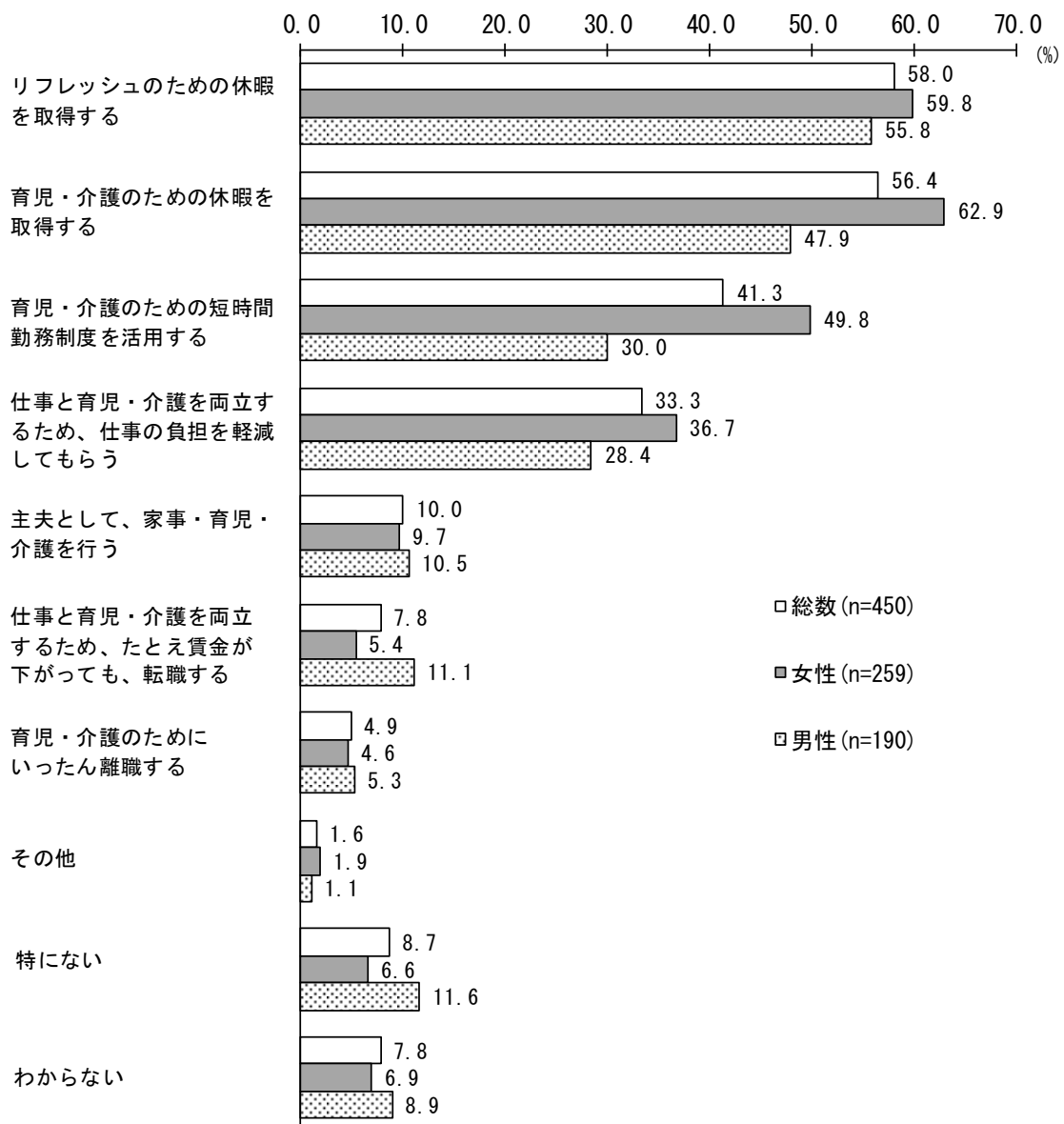
問5 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。(〇はいくつでも)

全体では、「リフレッシュのための休暇を取得する」(58.0%)が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得する」(56.4%)、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(41.3%)、「仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう」(33.3%)が続いている。

女性では「育児・介護のための休暇を取得する」が最も多く(女性62.9%、男性47.9%)、男性では「リフレッシュのための休暇を取得する」(女性59.8%、男性55.8%)が最も多くあがっている。

男女の差が大きいものとしては、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(19.8ポイント差)、「育児・介護のための休暇を取得する」(15.0ポイント差)で、女性のポイントが高くなっている。

図5-1 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて (性別)

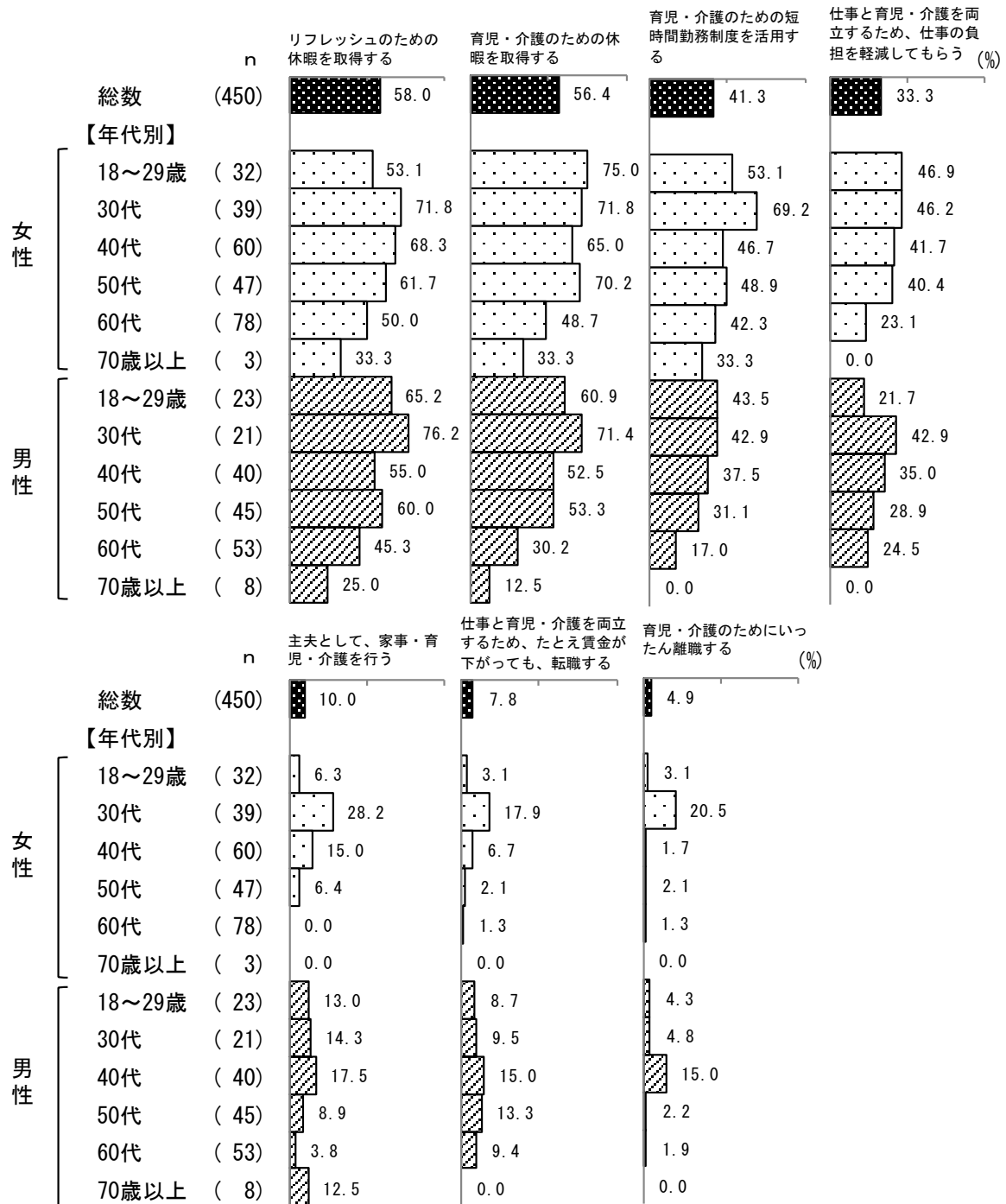


【年代別】

女性では、「育児・介護のための休暇を取得する」で18～29歳（75.0%）で最も多い。30代（71.8%）でも最も多い、若年層で高い傾向がある。

男性では、30代で「リフレッシュのための休暇を取得する」（76.2%）、「育児・介護のための休暇を取得する」（71.4%）と7割を超えている。

図5-2 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて（年代別）



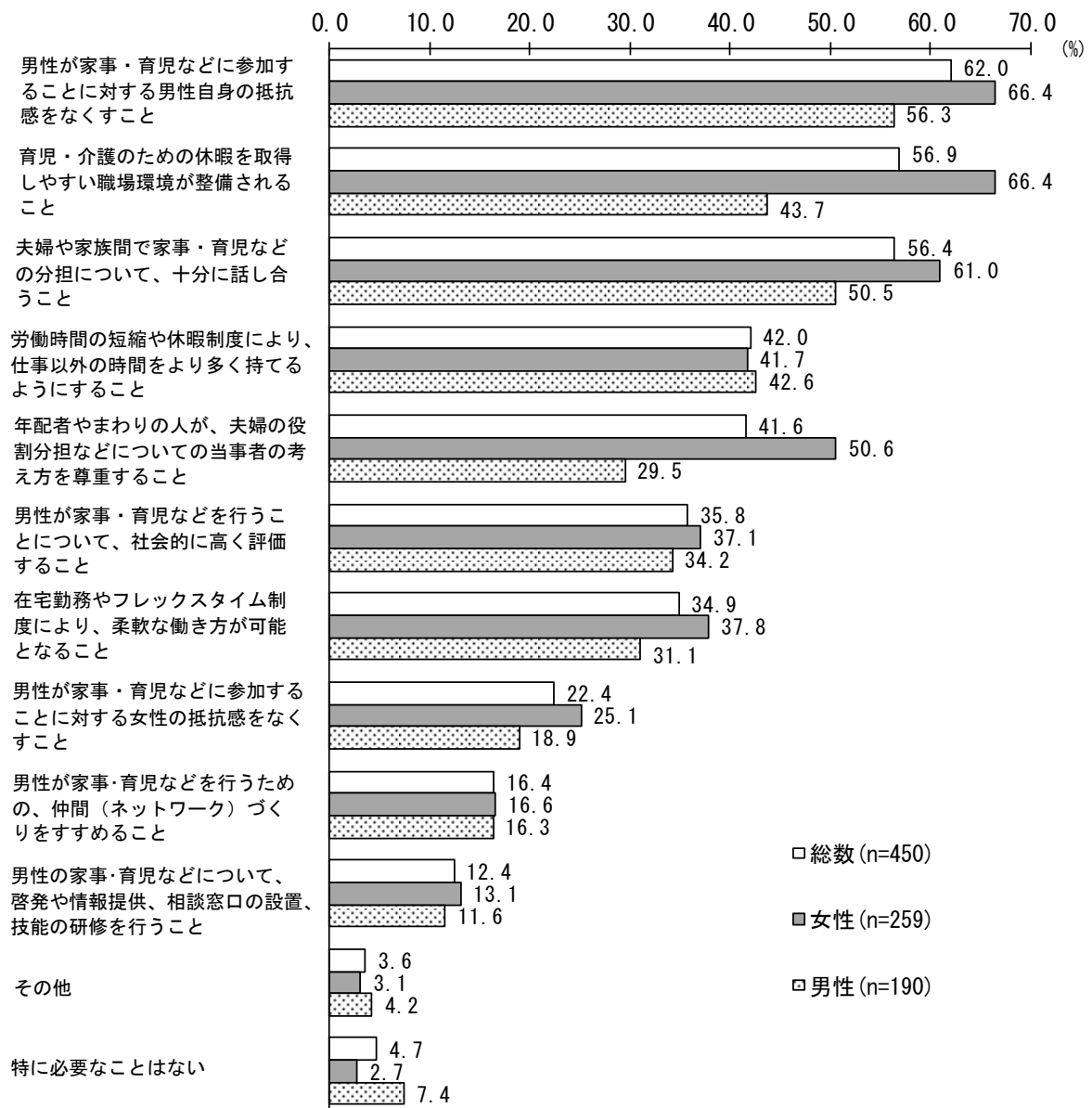
7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(〇はいくつでも)

全体では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」(62.0%)が最も多く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」(56.9%)、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」(56.4%)が続いている。

男女の比率の差は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が最も大きく、女性の方が21.1ポイント多くなっている。

図6-1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと (性別)

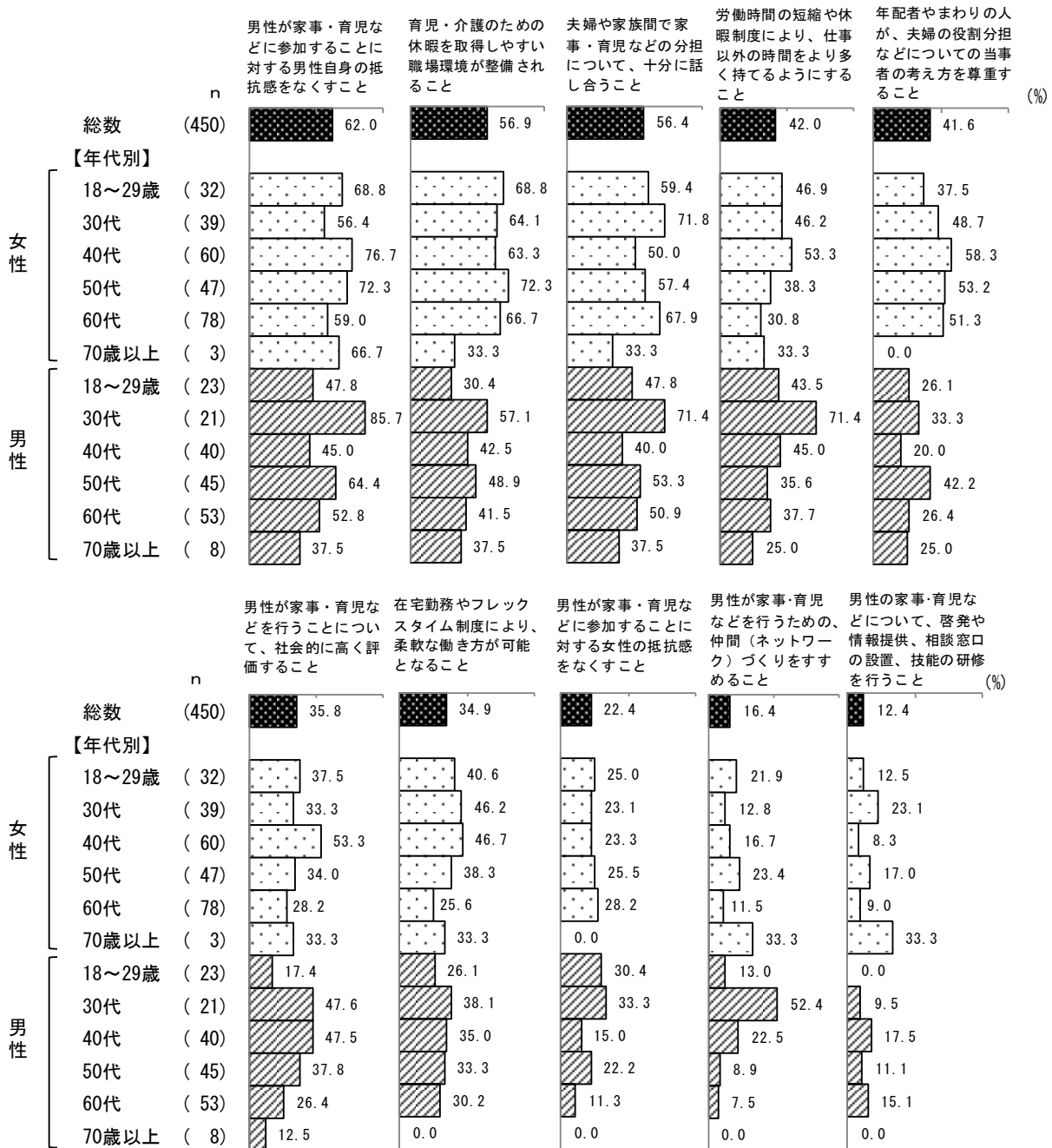


【年代別】

女性では、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は40代（76.7%）、50代（72.3%）で多く、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」も30代（71.8%）で最も多い。

男性では、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は30代（85.7%）、50代（64.4%）で最も多い。

図6-2 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと（年代別）



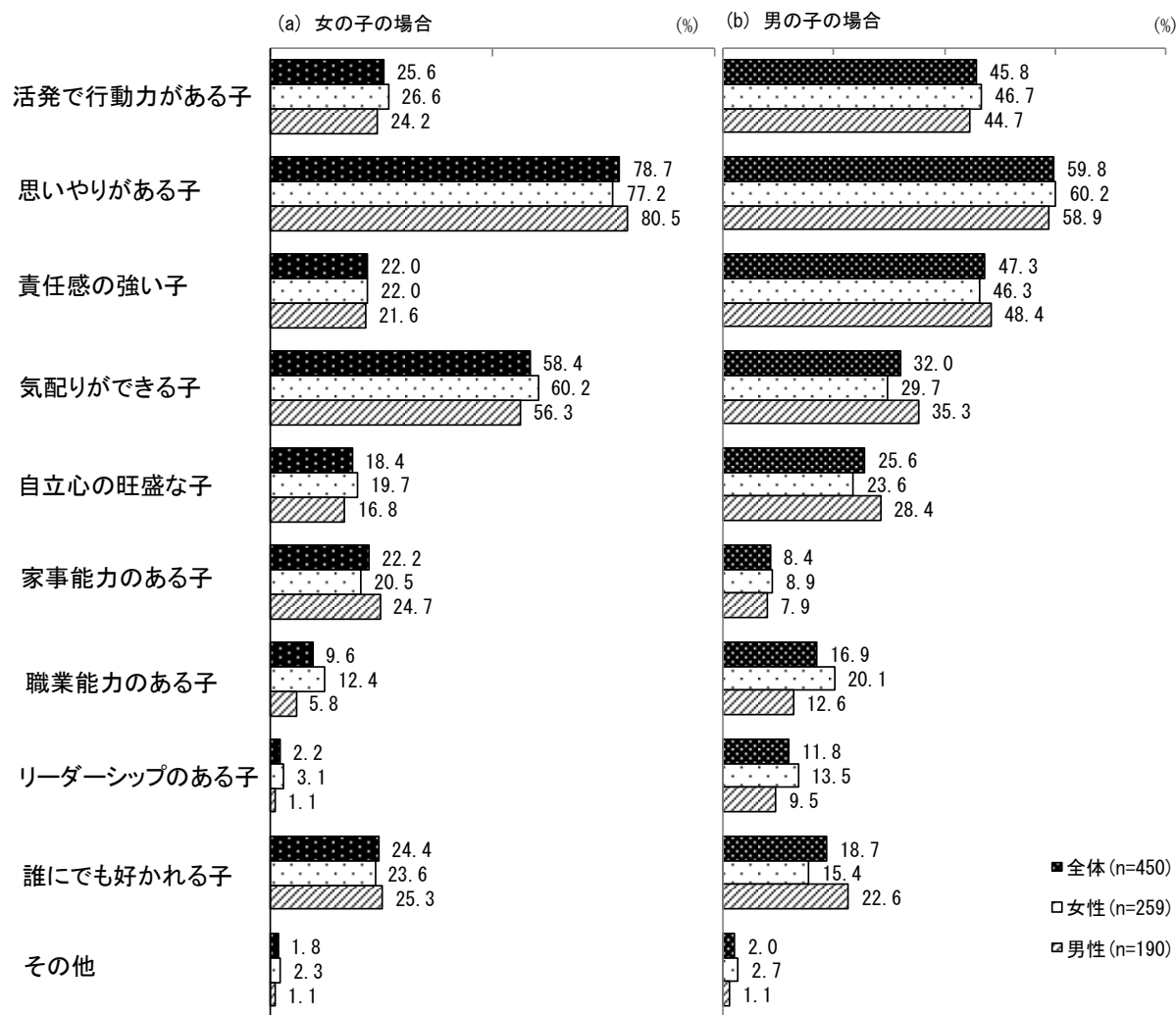
8 子どもの教育方針

問7 お子さんをどのように育てたい（育ててほしかった）と思いますか。お子さんのいない方もいたと仮定して、それぞれ○を3つまで選んでください。

“(a) 女の子の場合”は、女性・男性とも「思いやりがある子」が最も多く、7割を超えている。次いで「気配りができる子」が5割以上となっている。

“(b) 男の子の場合”に対しては、女性・男性とも「思いやりがある子」が最も多い。そのほか、女性では、「活発で行動力がある子」、「責任感の強い子」の順に多く、いずれも4割以上となっている。男性では、「責任感の強い子」、「活発で行動力がある子」の順に多く、いずれも4割以上となっている。

図7-1 子どもの教育方針 項目別一覧 (性別)



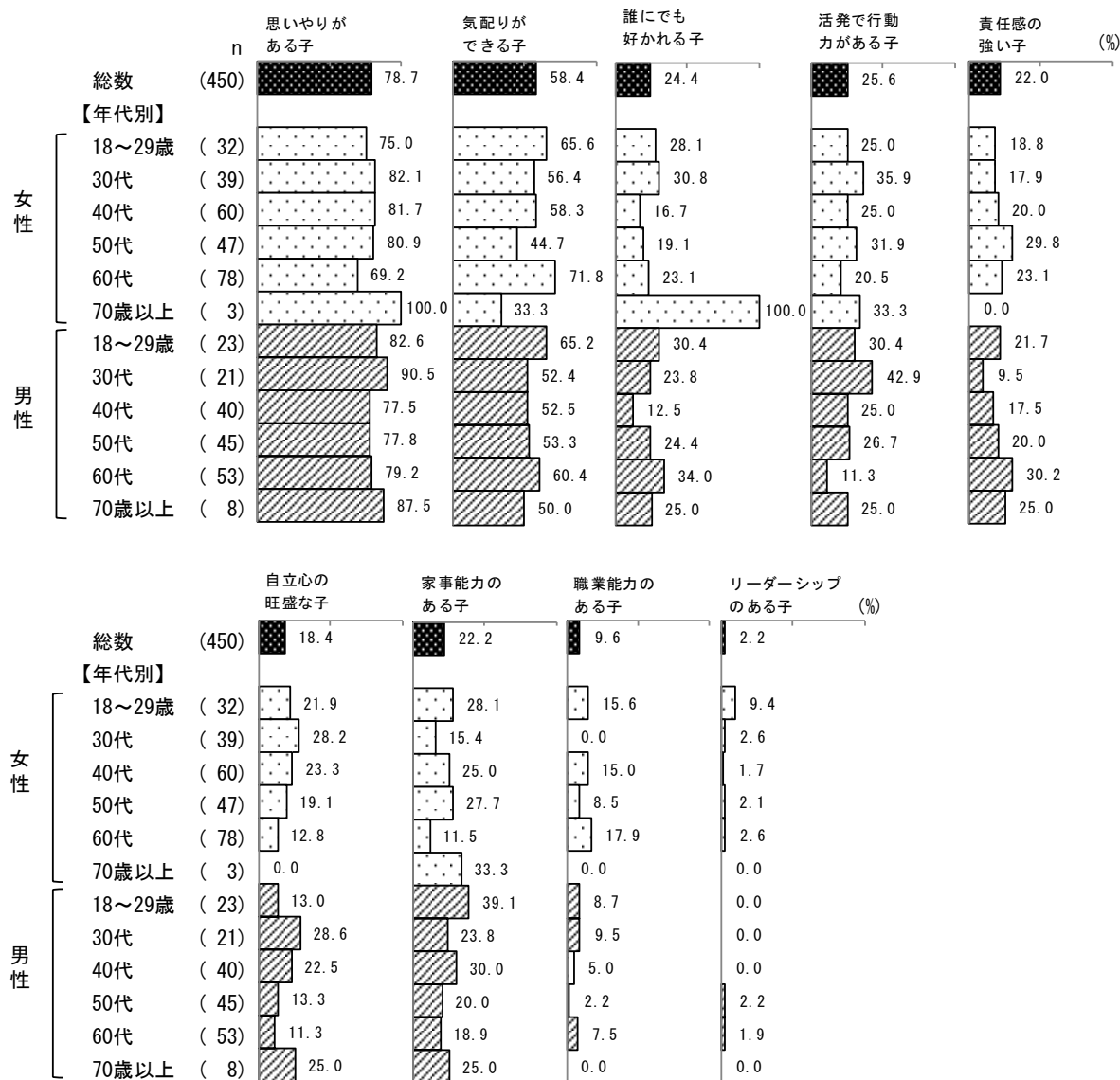
子どもの教育方針（a）女の子の場合

【年代別】

女性では、「思いやりがある子」は40代を除いた全ての年代で7割を超えている。

男性では、「思いやりがある子」は30代（90.5%）で最も多くなっている。

図 7-2 子どもの教育方針（a）女の子（年代別）

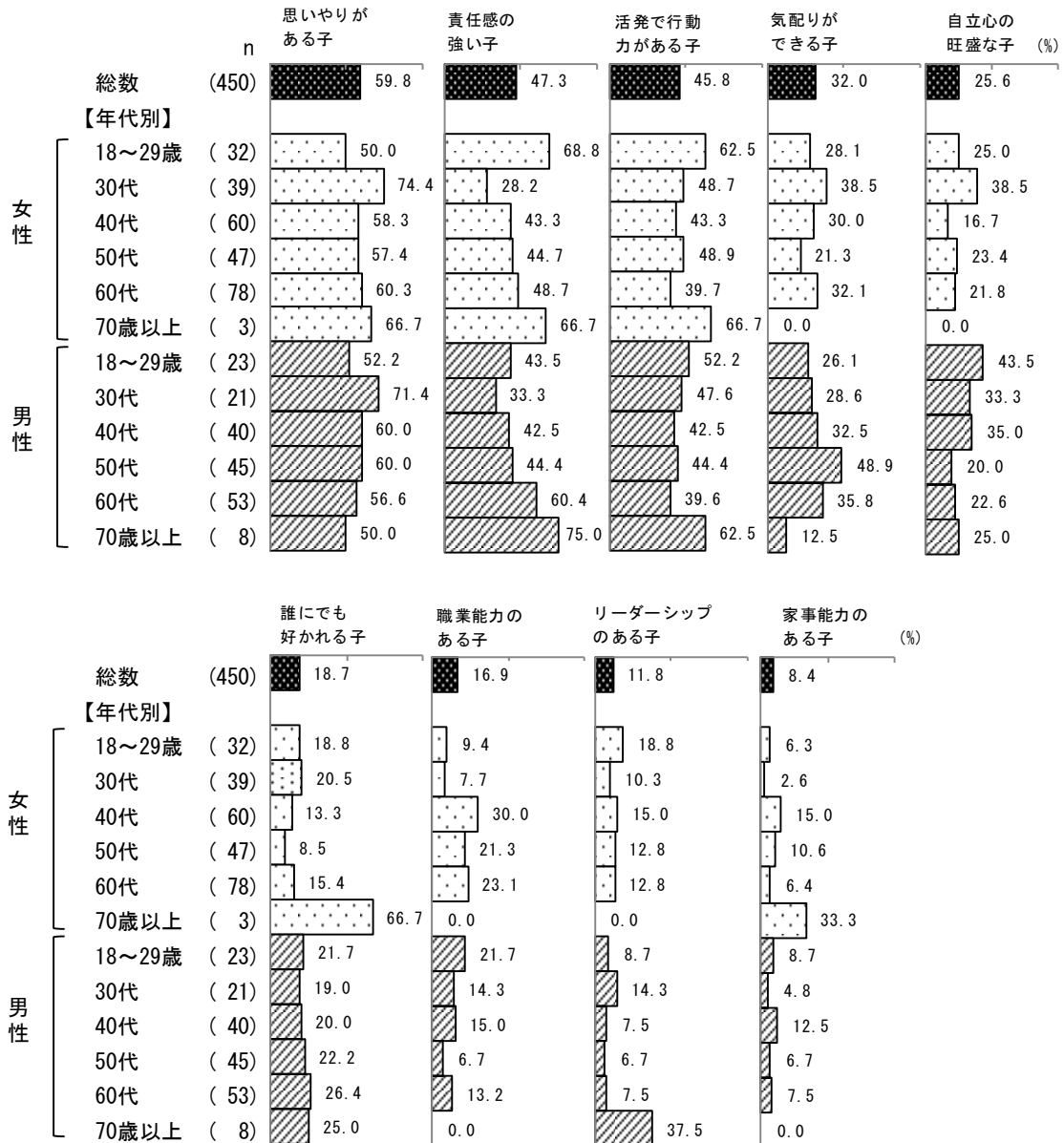


(b) 男の子の場合

【年代別】

女性では、「思いやりがある子」は18～29歳を除いた年代で最も多くなっている。
男性では、「責任感の強い子」は60代（60.4%）で最も多くなっている。

図7-3 子どもの教育方針 (b) 男の子 (年代別)



9 親の介護における役割分担

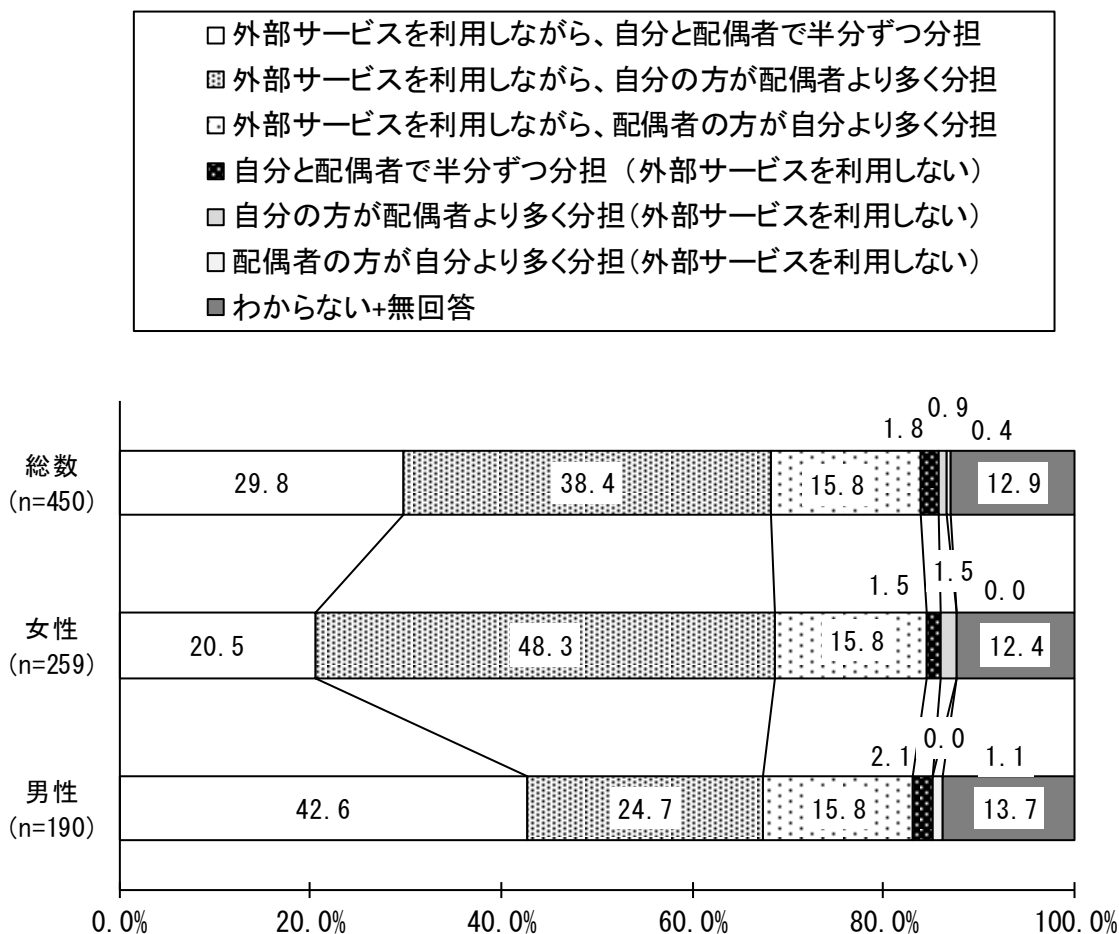
問8 あなたは、もし親が介護を要する状態となった場合、あなたと配偶者でどのように分担したい（したかった）と思いますか。訪問介護など外部サービスの利用も含め、自分の親の介護、配偶者の親の介護、それぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号に1つずつ○をつけてください。なお、配偶者のいない方も、配偶者がいることを想定してお答えください。

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（38.4%）が最も多く、次いで「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（29.8%）の順となっている。いずれの属性においても女性は「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」が多く、男性は「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が多い。

自分の親の介護では「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（女性48.3%、男性24.7%）が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（女性20.5%、男性42.6%）が男性で最も多い。

(a) 自分の親の介護

図8-1 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧（性別）

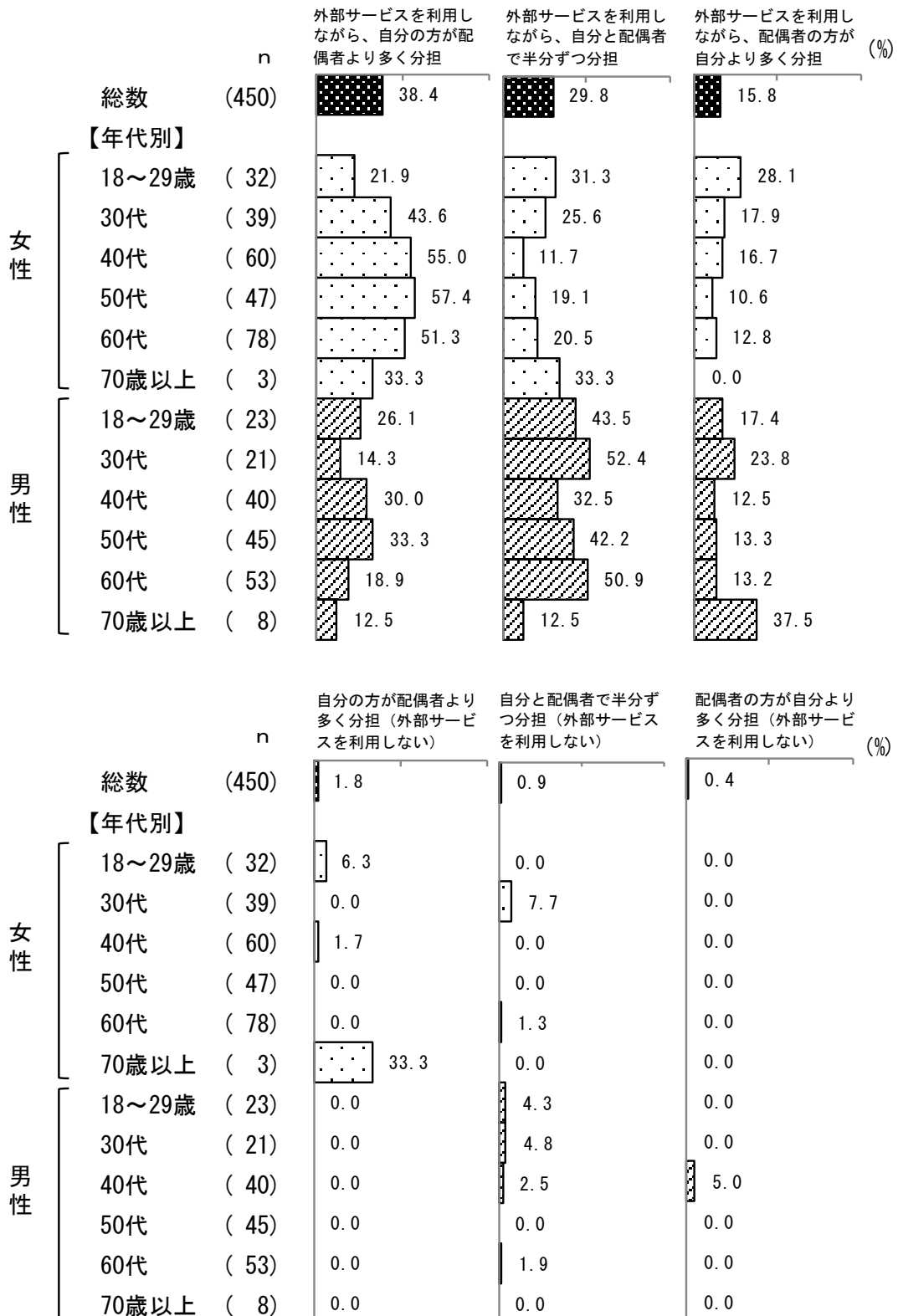


【年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」は40代 (55.0%)、50代 (57.4%)、60代 (51.3%) が5割を超えている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は30代 (52.4%)、60代 (50.9%) が5割を超えている。

図 8-2 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧 (年代別)

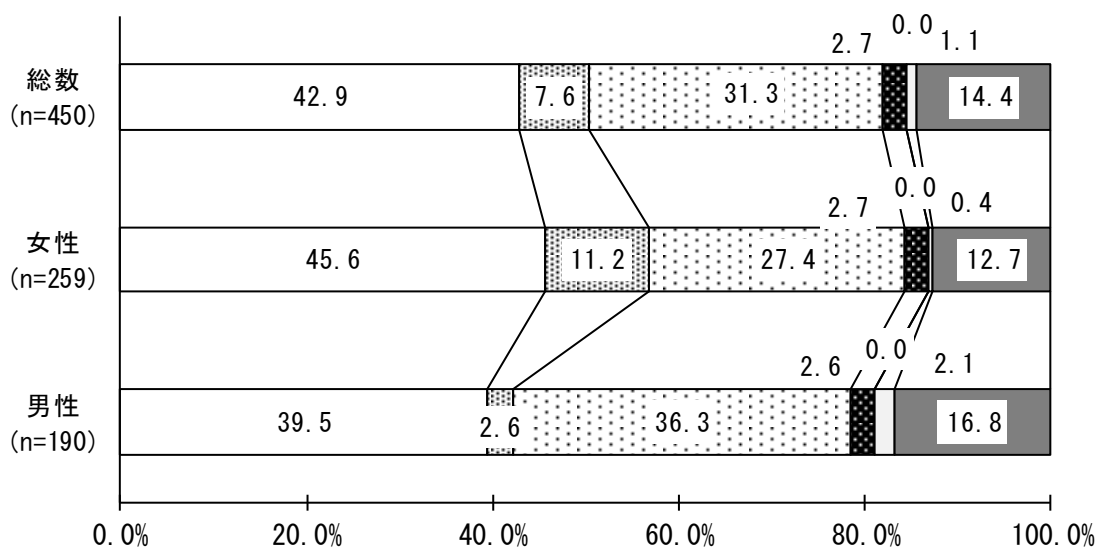


親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護

配偶者の親の介護では「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性 45.6%、男性 39.5%) が最も多く、次いで「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(女性 27.4%、男性 36.3%) の順となっている。

図 8-3 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧 (性別)

- 外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担
- ▨ 外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担
- ▤ 外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担
- 自分と配偶者で半分ずつ分担 (外部サービスを利用しない)
- 自分の方が配偶者より多く分担 (外部サービスを利用しない)
- 配偶者の方が自分より多く分担 (外部サービスを利用しない)
- わからない+無回答

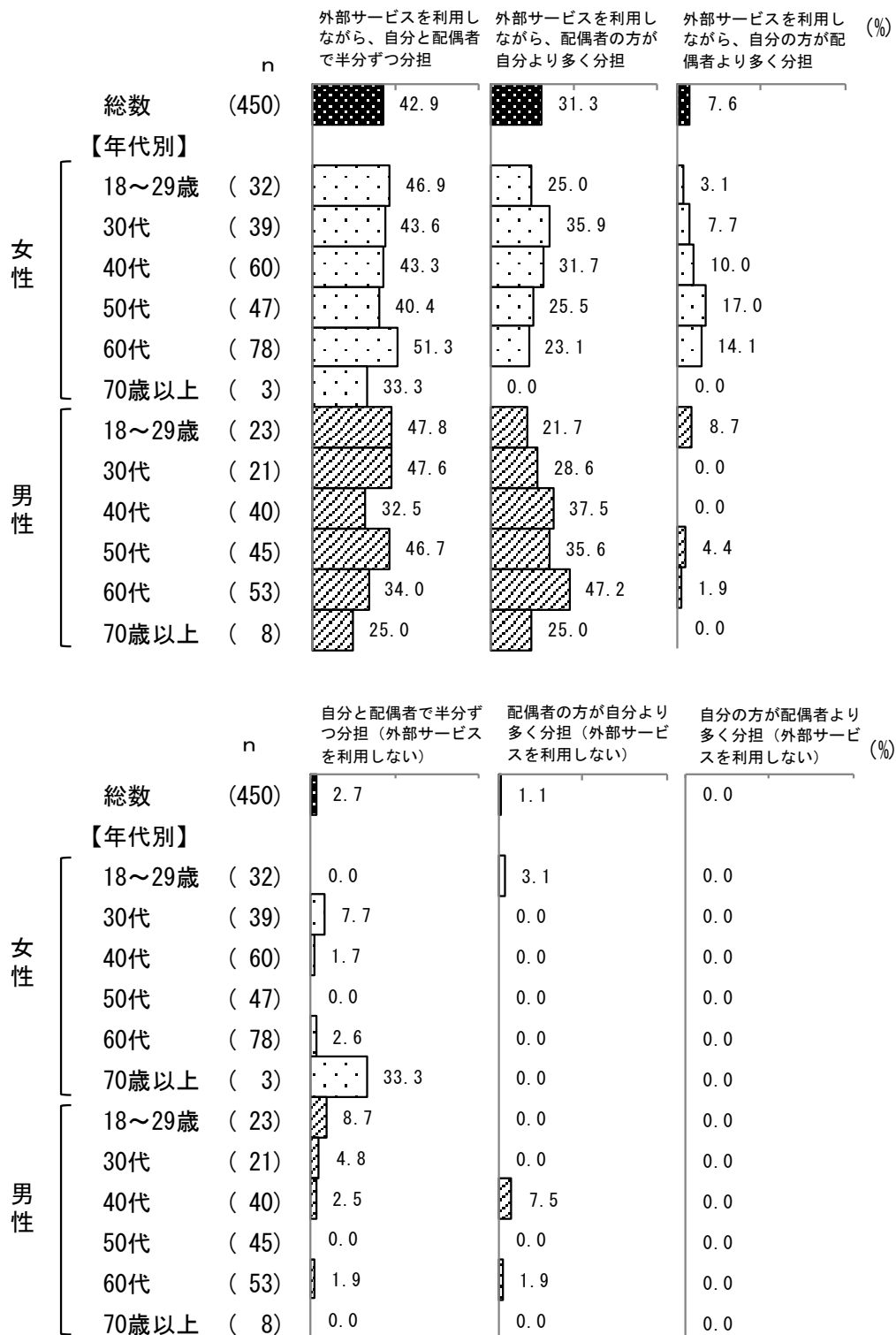


【年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は60代(51.3%)でも最も多くなっている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は60代(47.2%)で最も多くなっている。

図 8-4 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧 (年代別)



Ⅲ 職 業

1 職場での男女平等について

(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問9 あなたの職場では、次にあげる(a)～(g)それぞれの面で男女平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

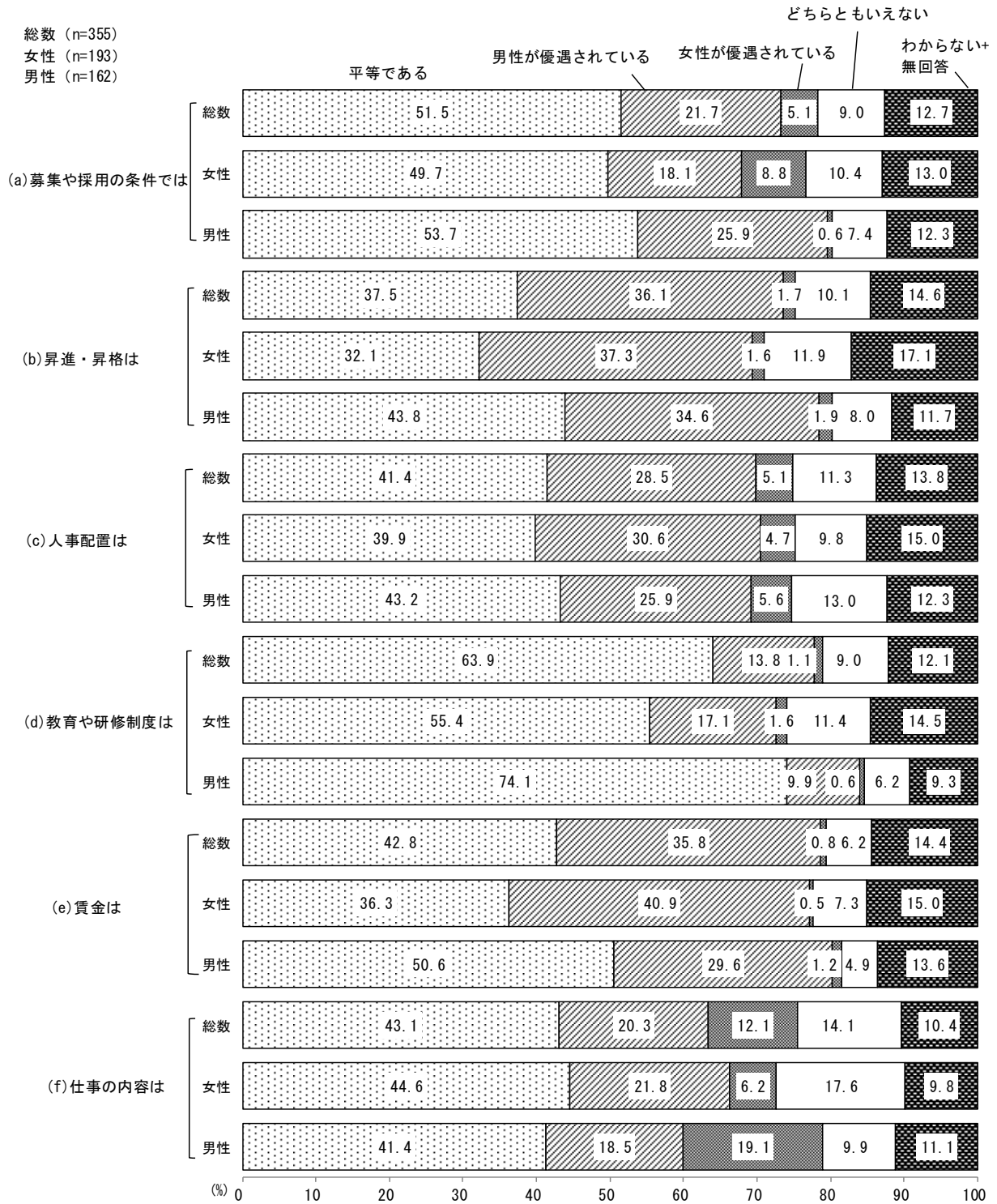
男女とも「平等である」と回答した人が最も多いのは、“(d) 教育や研修制度は” (女性55.4%、男性74.1%) で、次いで“(a) 募集や採用の条件では” (女性49.7%、男性53.7%) となっている。

一方、最も少ないのは、“(b) 昇進・昇格は” (女性32.1%、男性43.8%) で、次いで“(c) 人事配置は” (女性39.9%、男性43.2%) となっている。

『男性が優遇されている』については、男女とも“(b) 昇進・昇格は” (女性37.3%、男性34.6%) が最も多く、次いで“(c) 人事配置は” (女性30.6%、男性25.9%) となっている。

『女性が優遇されている』については、男女とも“(f) 仕事の内容は” (女性6.2%、男性19.1%) が最も多く、次いで“(a) 募集や採用の条件では” (女性8.8%、男性0.6%) が続いている。

図9-1 職場での男女平等について 項目別一覧（性別）



※『男性が優遇されている』は調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。
『女性が優遇されている』は調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。以降の頁も同様。

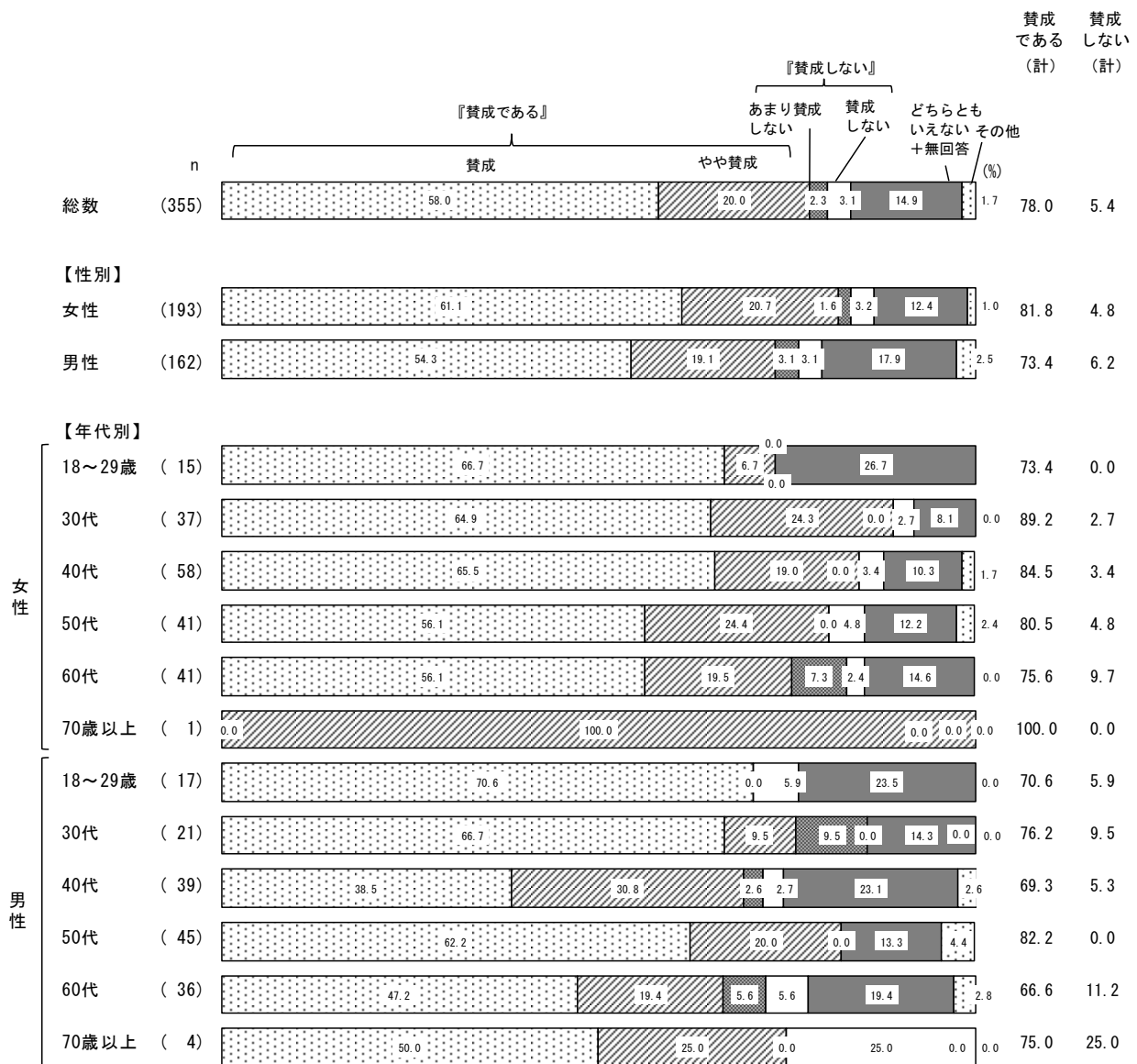
2 女性が管理職に昇進することについて

(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問10 女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

男女とも『賛成である(計)』(女性81.9%、男性73.5%)が『賛成しない(計)』(女性14.0%、男性21.0%)を上回っている。
 『賛成である(計)』は女性の方が男性より8.4ポイント多く、『賛成しない(計)』は男性の方が女性より7.0ポイント多くなっている。
 女性では『賛成である(計)』が最も多いのは30代(89.2%)で、次いで18~29歳(73.4%)と続いている。
 男性では『賛成である(計)』が最も多いのは50代(82.2%)で、次いで、30代(76.2%)と続いている。

図 10-1 女性が管理職に昇進することについて (性別・年代別)



※『賛成である(計)』は調査票選択肢の「賛成」と「やや賛成」を合計したもの。
 『賛成しない(計)』は調査票選択肢の「賛成しない」と「あまり賛成しない」を合計したもの。以降の頁も同様。

3 管理職に昇進することについてのイメージ

(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問11 あなたは、職場において管理職に昇進することについてどのようなイメージをお持ちですか。

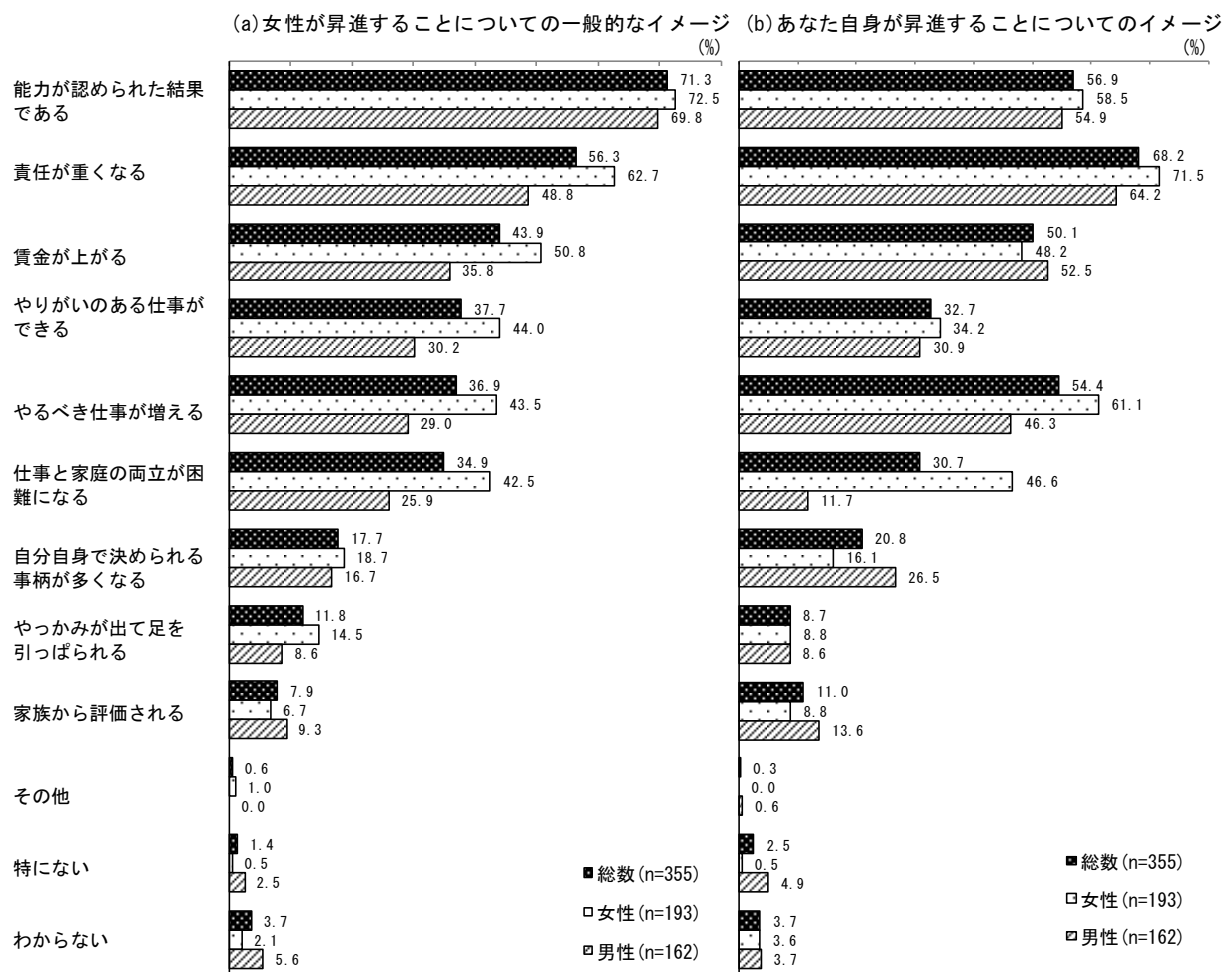
「(a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ」では、男女ともに「能力が認められた結果である」(女性72.5%、男性69.8%)、「責任が重くなる」(女性62.7%、男性48.8%)、「賃金が上がる」(女性50.8%、男性35.8%)の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「賃金が上がる」(15.0ポイント差)で女性が男性のポイントを大きく上回っている。

「(b) あなた自身が昇進することについての一般的なイメージ」では、男女ともに「責任が重くなる」(女性71.5%、男性64.2%)、「能力が認められた結果である」(女性58.5%、男性54.9%)、「やるべき仕事が増える」(女性61.1%、男性46.3%)の順となっている。

男女の差が大きいものとしては、「仕事と家庭の両立が困難になる」(34.9ポイント差)で女性のポイントが、「自分自身で決められる事柄が多くなる」(10.4ポイント差)で男性のポイントが高くなっている。

図11-1 管理職に昇進することについてのイメージ 項目別一覧 (性別)



管理職に昇進することについてのイメージ

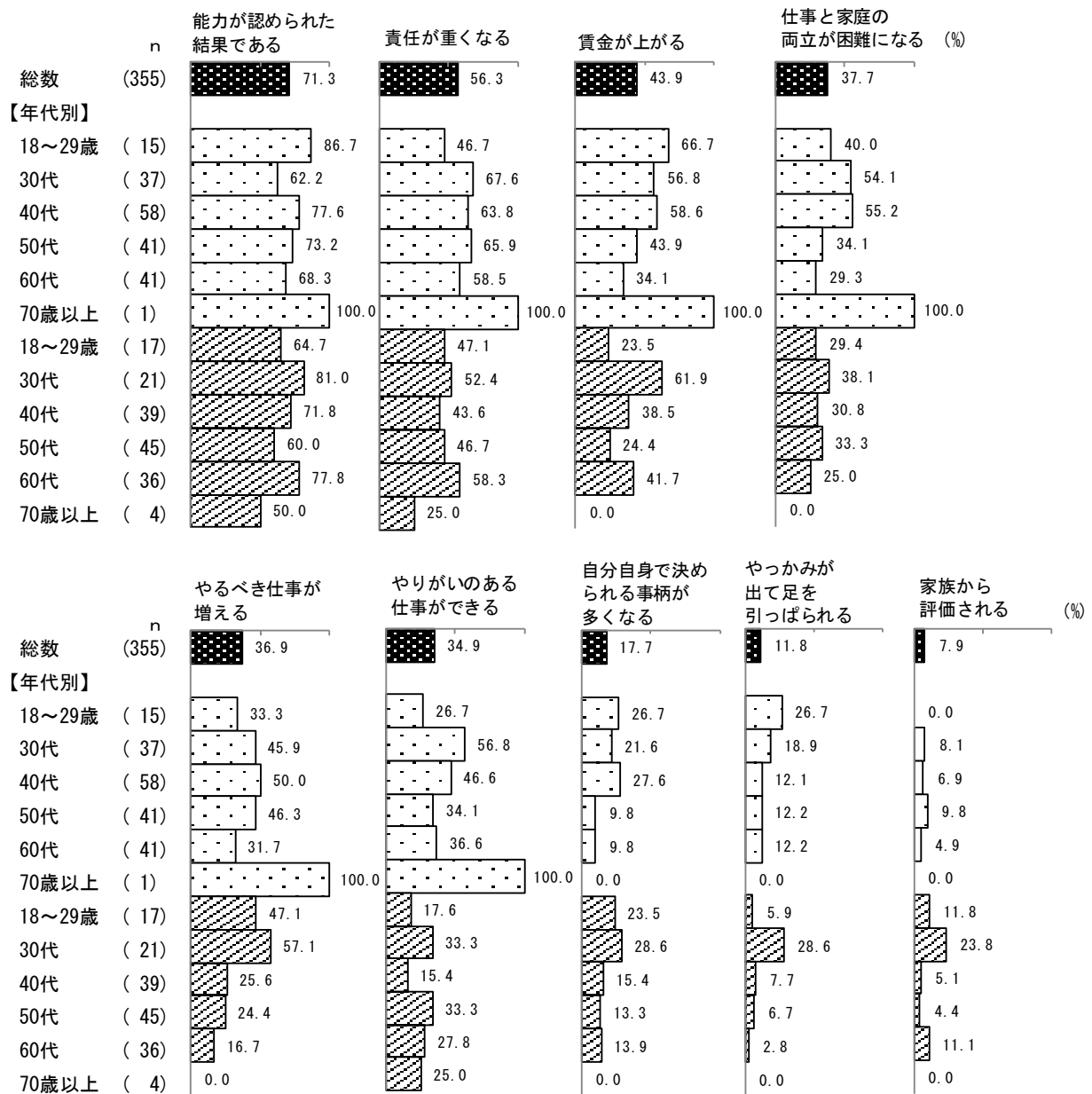
(a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ

【年代別】

女性では、「能力が認められた結果である」が18～29歳（86.7%）で8割を超えている。
男性では、全ての年代で「能力が認められた結果である」が最も多くなっている。

管理職に昇進することについてのイメージ

図11-2 (a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ (年代別)



管理職に昇進することについてのイメージ

(b) あなた自身が昇進することについてのイメージ

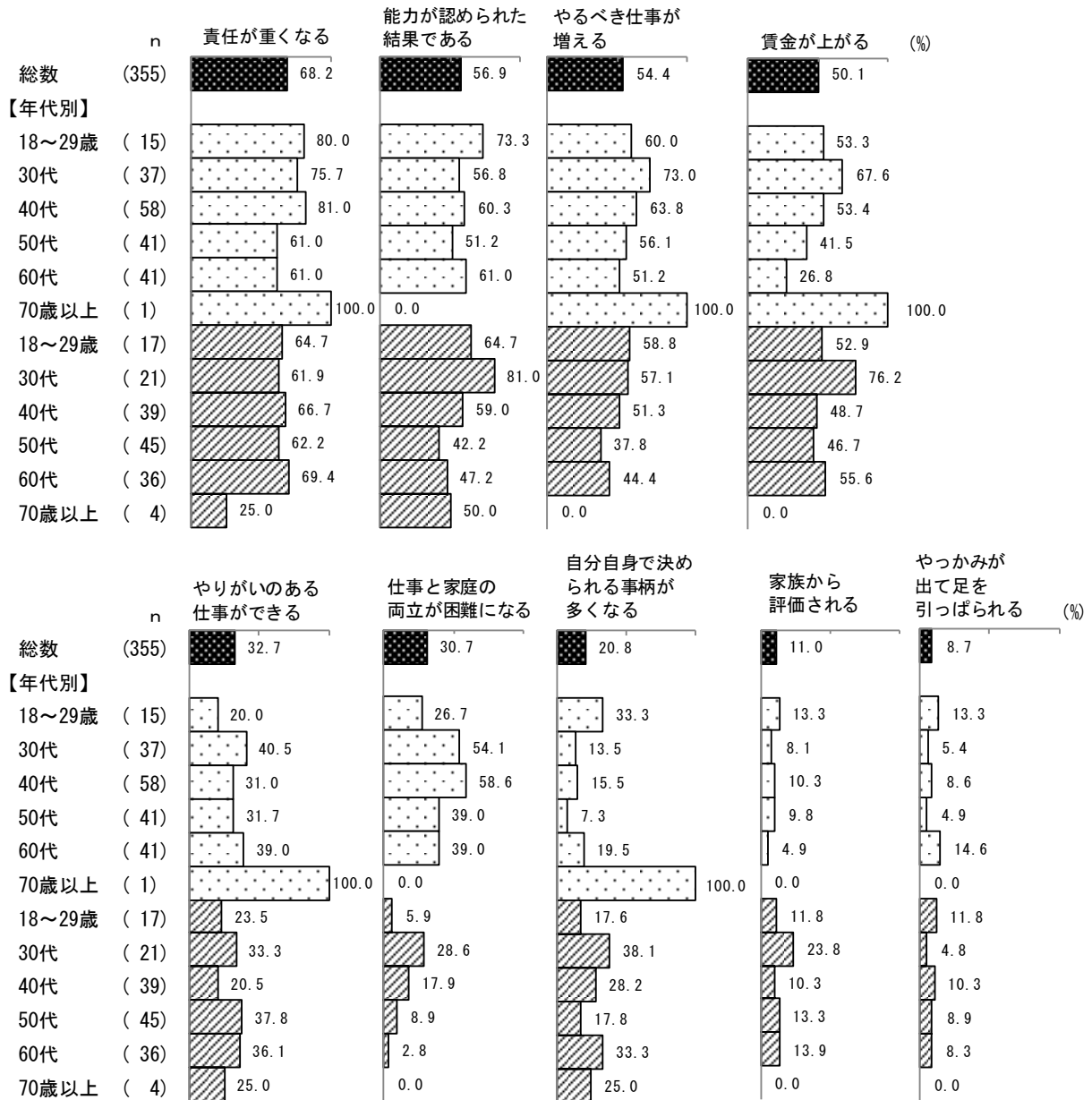
【年代別】

女性では、全ての年代で「責任が重くなる」が最も多くなっている。

男性では、「能力が認められた結果である」が30代（81.0%）で8割を超えている。

管理職に昇進することについてのイメージ

図11-3 (b) あなた自身が昇進することについてのイメージ (年代別)



4 女性のリーダーを増やす上での障害

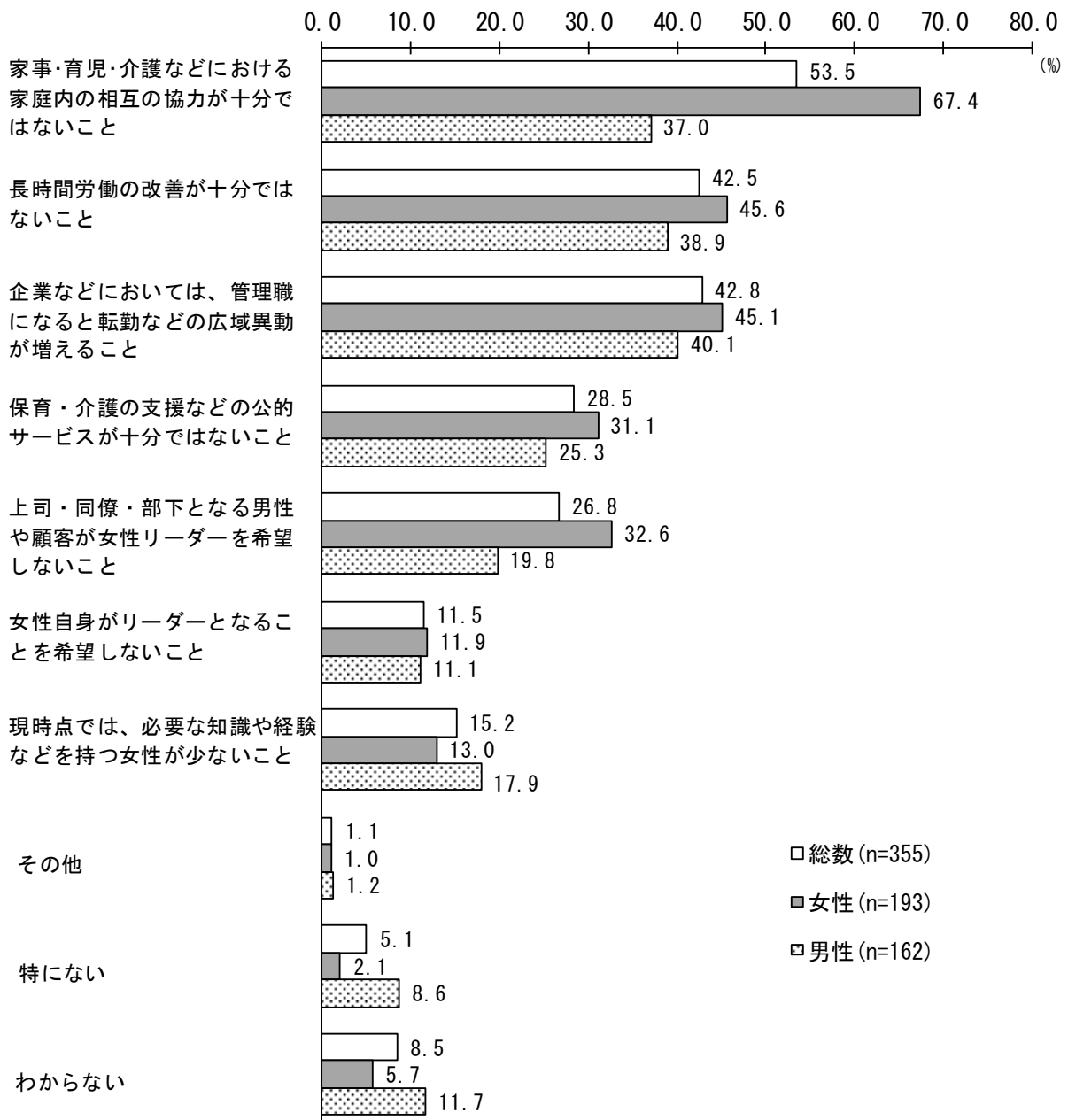
(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問12 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

女性では「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(女性67.4%、男性37.0%)が最も多く、男性では「企業などにおいては、管理職になると転勤などの広域異動が増えること」(女性45.1%、男性40.1%)が最も多くなっている。

男女差では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(30.4ポイント差)で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」(4.9ポイント差)で男性のポイントが女性のポイントを上回っている。

図12-1 女性のリーダーを増やす上での障害 項目別一覧 (性別)



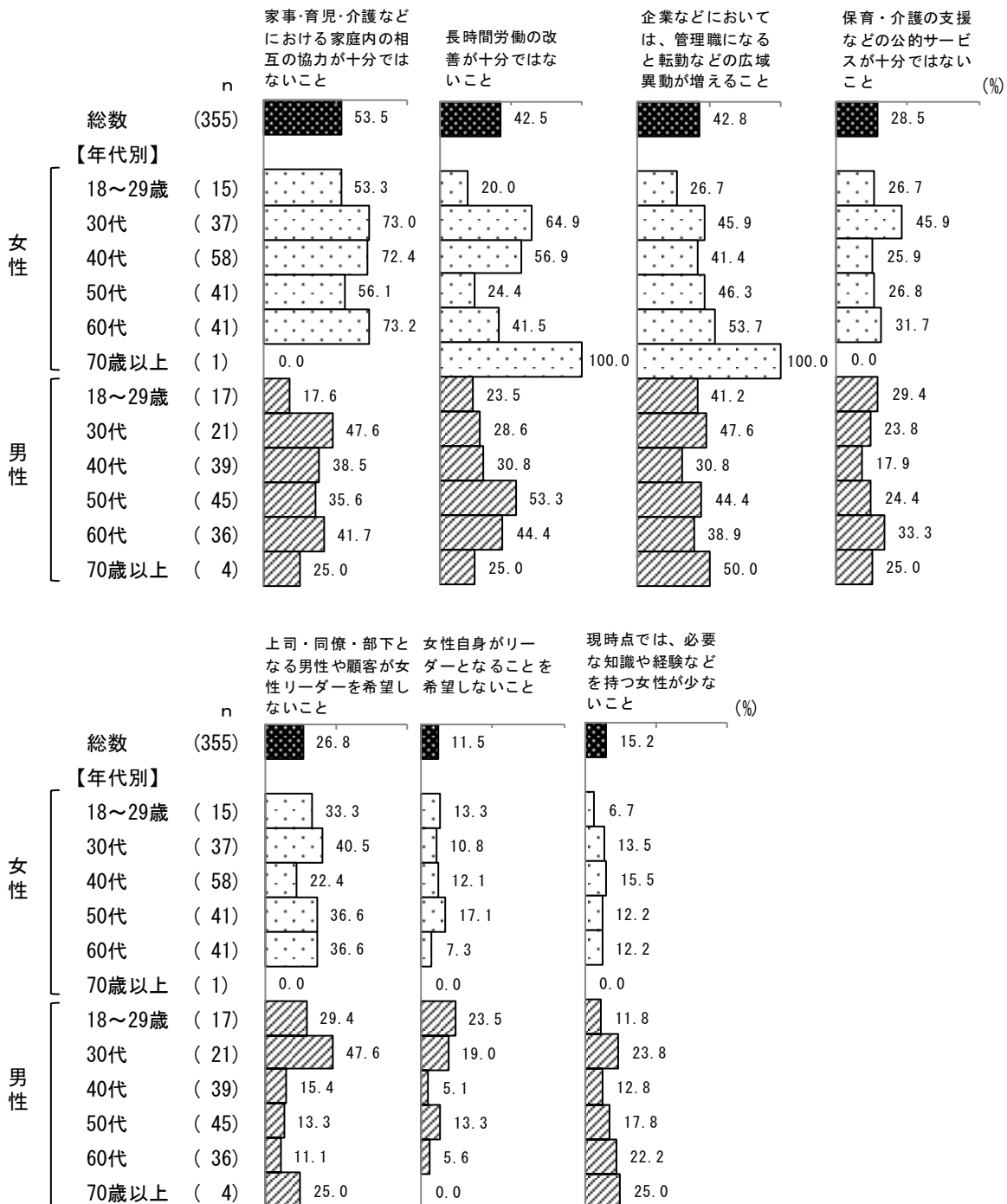
女性のリーダーを増やす上での障害

【年代別】

女性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」はどの年代でも最も多くなっている。

男性では、「長時間労働の改善が十分ではないこと」は50代（53.3%）で多くなっており、最も多くなっている。「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が30代（47.6%）で他の年代と比較し、多くなっている。

図 12-2 女性のリーダーを増やす上での障害（年代別）



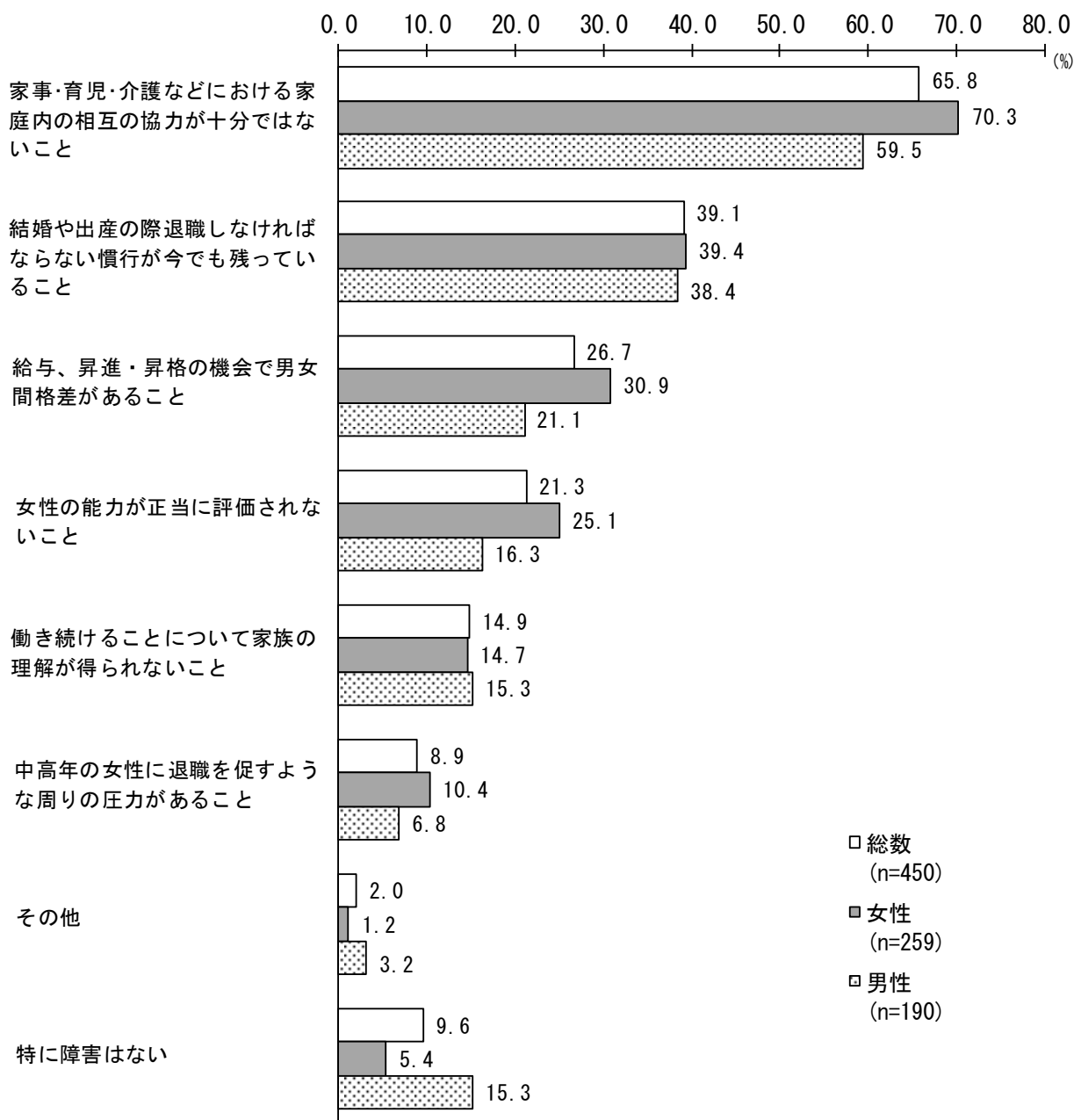
5 女性が働き続ける上での障害

問13 女性が職業を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。(〇は3つまで)

男女とも、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(女性70.3%、男性59.5%)が最も高く、次いで「結婚や出産の際退職しなければならない慣行が今でも残っている」(女性39.4%、男性38.4%)の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(21.8ポイント差)で女性が男性のポイントを大きく上回っている。

図13-1 女性が働き続ける上での障害 項目別一覧 (性別)



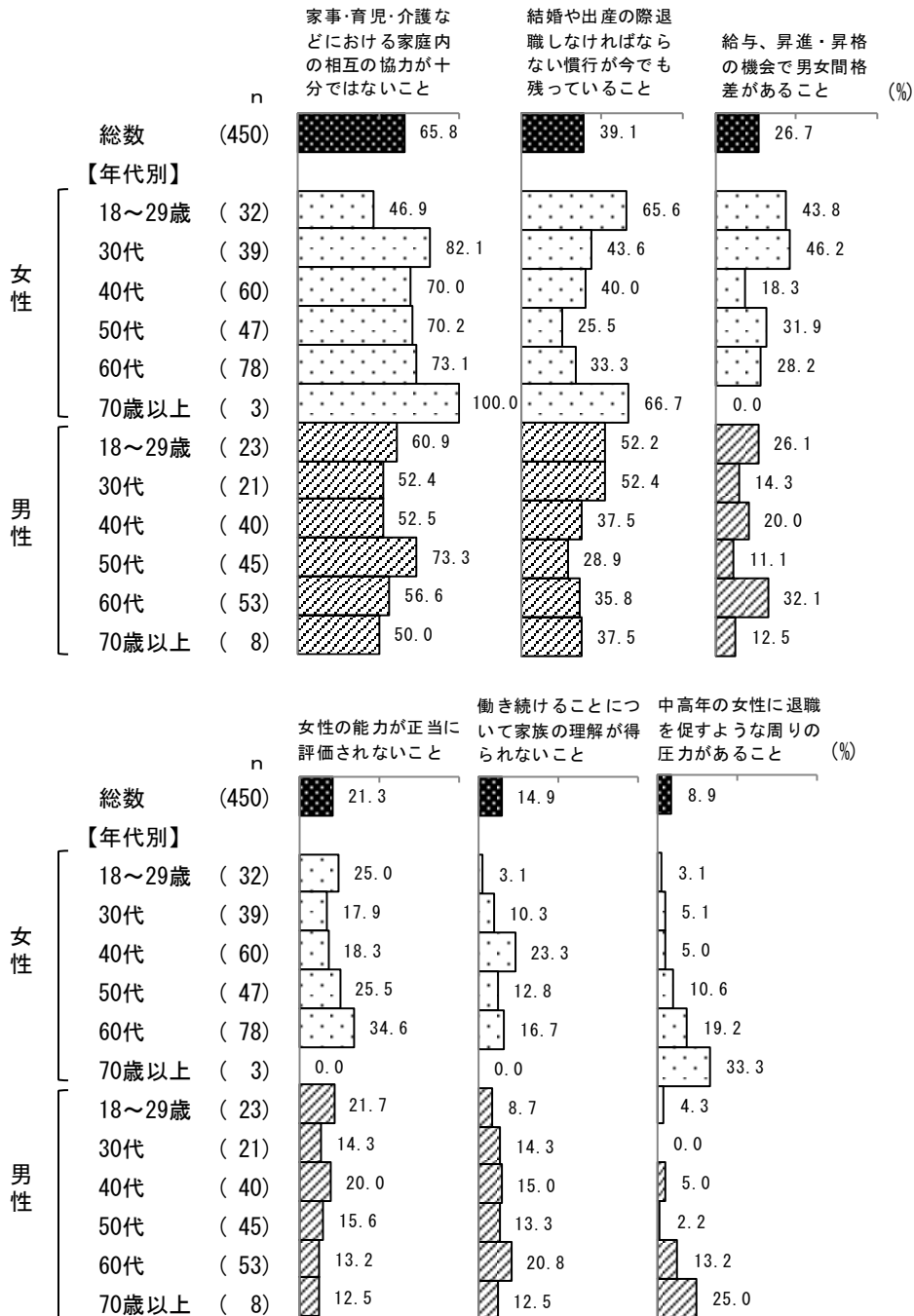
女性が働き続ける上での障害

【年代別】

女性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は18～29歳（46.9%）で半数を下回っている。

男性においても、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は50代（73.3%）で7割を超え、最も多くなっている。

図13-2 女性が働き続ける上での障害 項目別一覧（年代別）



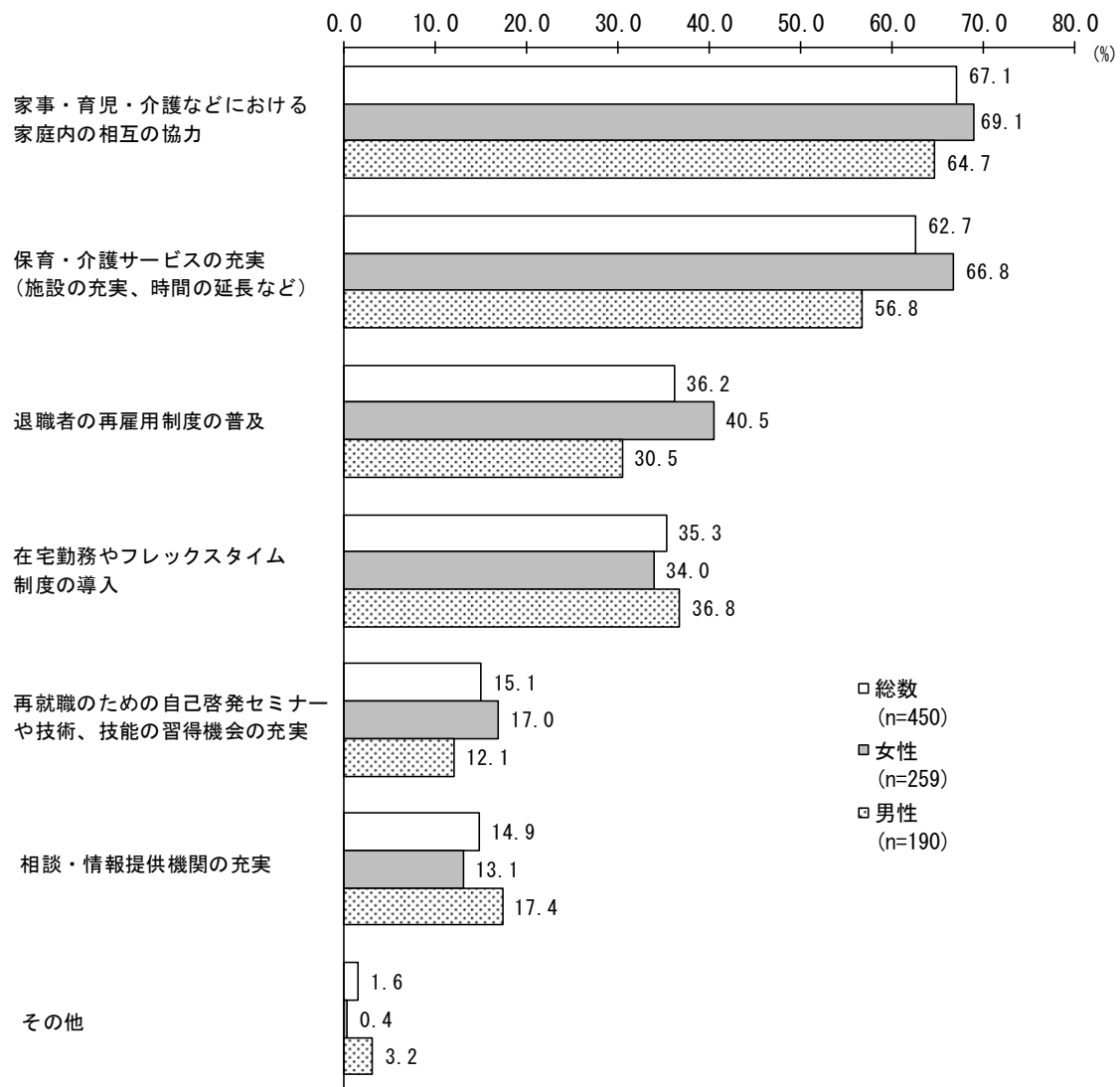
6 女性の再就職に必要なこと

問14 出産や育児、介護などで仕事から遠ざかっていた女性が再就職しやすくするには、どのような援助が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女ともに「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(女性69.1%、男性64.7%)が最も多くなっている。「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」(女性66.8%、男性56.8%)が続いている。

「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」「在宅勤務やフレックスタイトム制度の導入」は、女性の方が10.0ポイント多く、「相談・情報提供機関の充実」は、男性の方が4.3ポイント多くなっている。

図14-1 女性の再就職に必要なこと 項目別一覧 (性別)

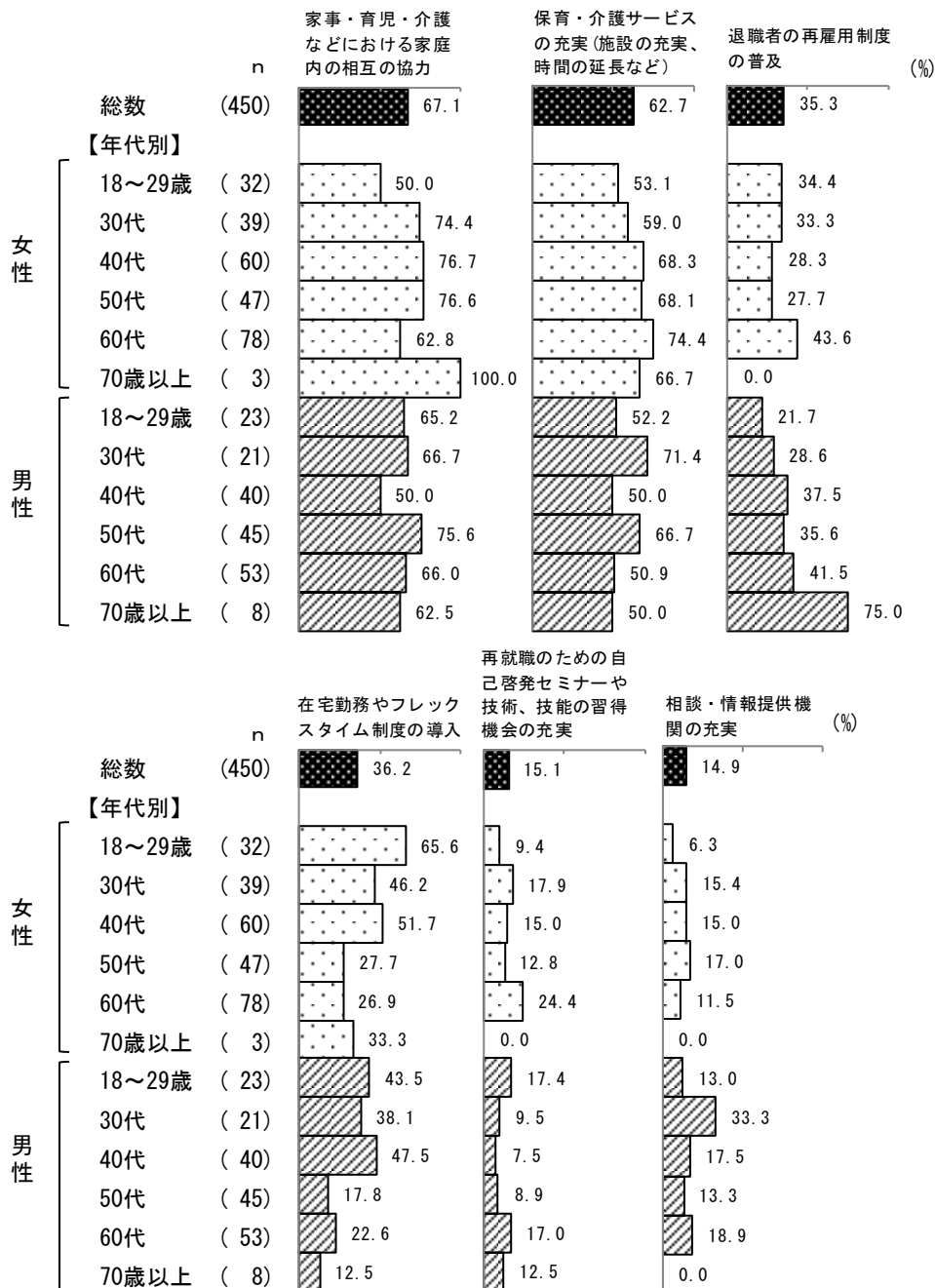


【年代別】

女性では、18～29歳と60代を除いた年代で「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」が最も多くなっている。

男性では、30代を除いた年代で「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」が最も多くなっている。

図14-2 女性の再就職に必要なこと 項目別一覧 (年代別)



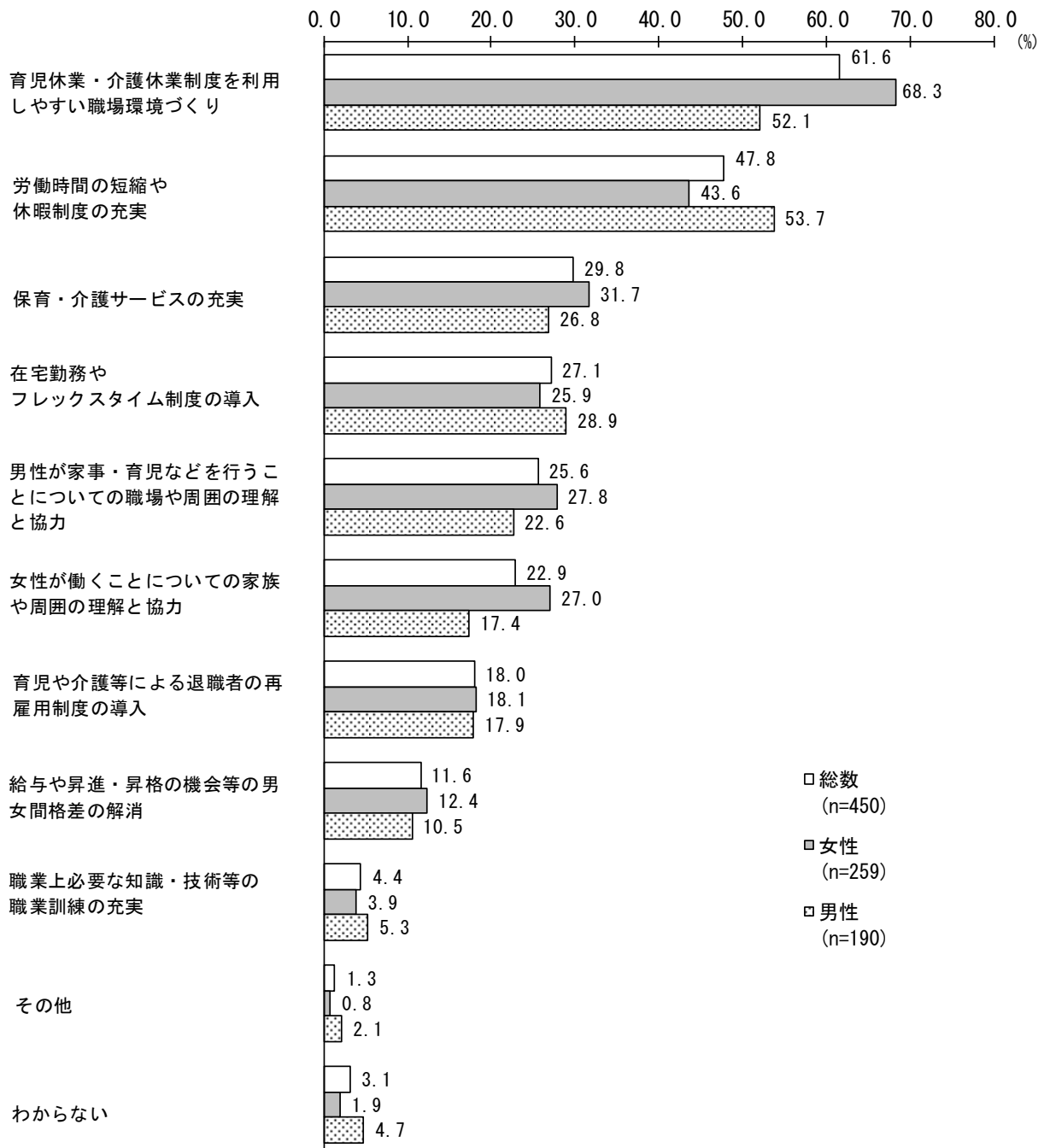
7 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと

問15 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女とも、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」(女性68.3%、男性52.1%)が最も高くなっている。次いで「労働時間の短縮や休暇制度の充実」(女性43.6%、男性53.7%)、「保育・介護サービスの充実」(女性31.7%、男性26.8%)の順になっている。

男女の比較では、女性は「女性が働くことについての家族や周囲の理解と協力」(女性27.0%、男性17.4%)などの周囲の協力や理解を求める項目で、男性は、「在宅勤務やフレックスタイム制度の導入」(女性25.9%、男性28.9%)などの制度の導入や充実などの項目で上回っている。

図15-1 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと 項目別一覧 (性別)



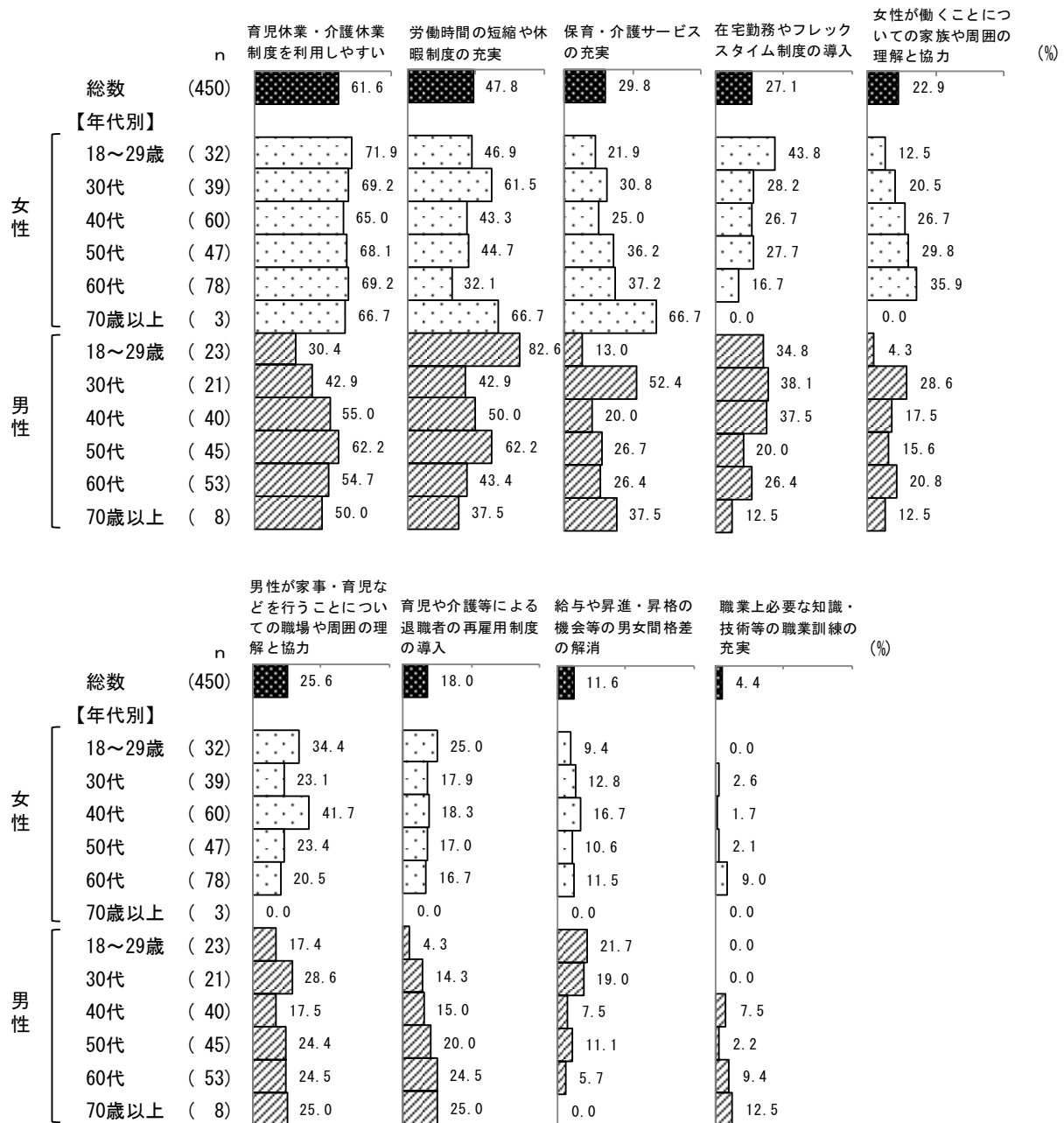
男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと

【年代別】

女性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」は全ての年代で最多となっている。

男性では、「労働時間の短縮や休暇制度の充実」は18～29歳（82.6%）、50代（62.2%）で最も多くなっている。

図15-2 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと（性別、年代別）



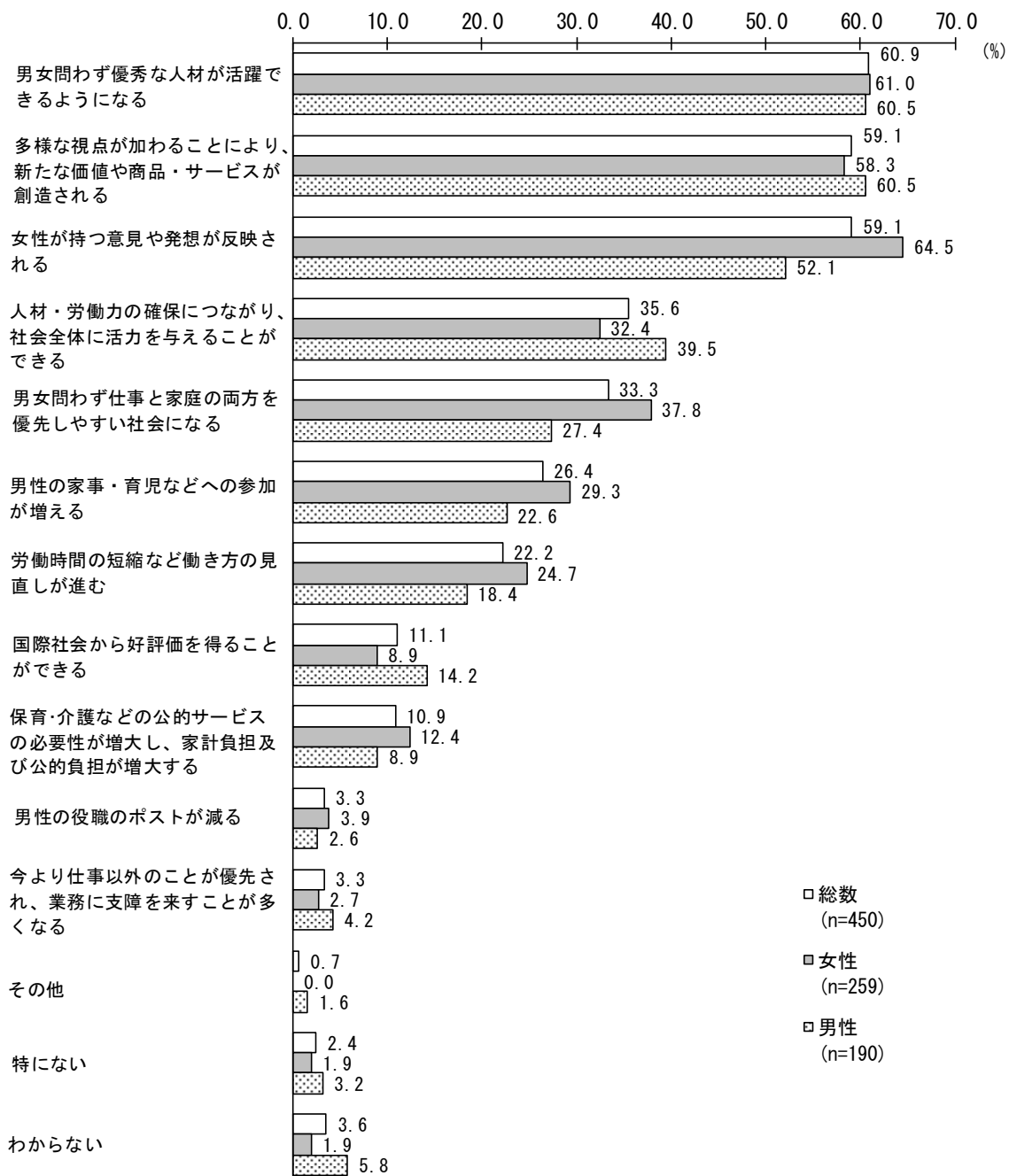
VI 女性の社会参画

1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか

問16 あなたは、社会の各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)

男女ともに、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(60.9%)が最も多く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」「女性が持つ意見や発想が反映される」(ともに59.1%)の順となった。
女性では「女性が持つ意見や発想が反映される」(64.5%)が最も多くなっている。
男性では「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」と「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(60.5%)が最も多くなっている。

図16-1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか 項目別一覧 (性別)

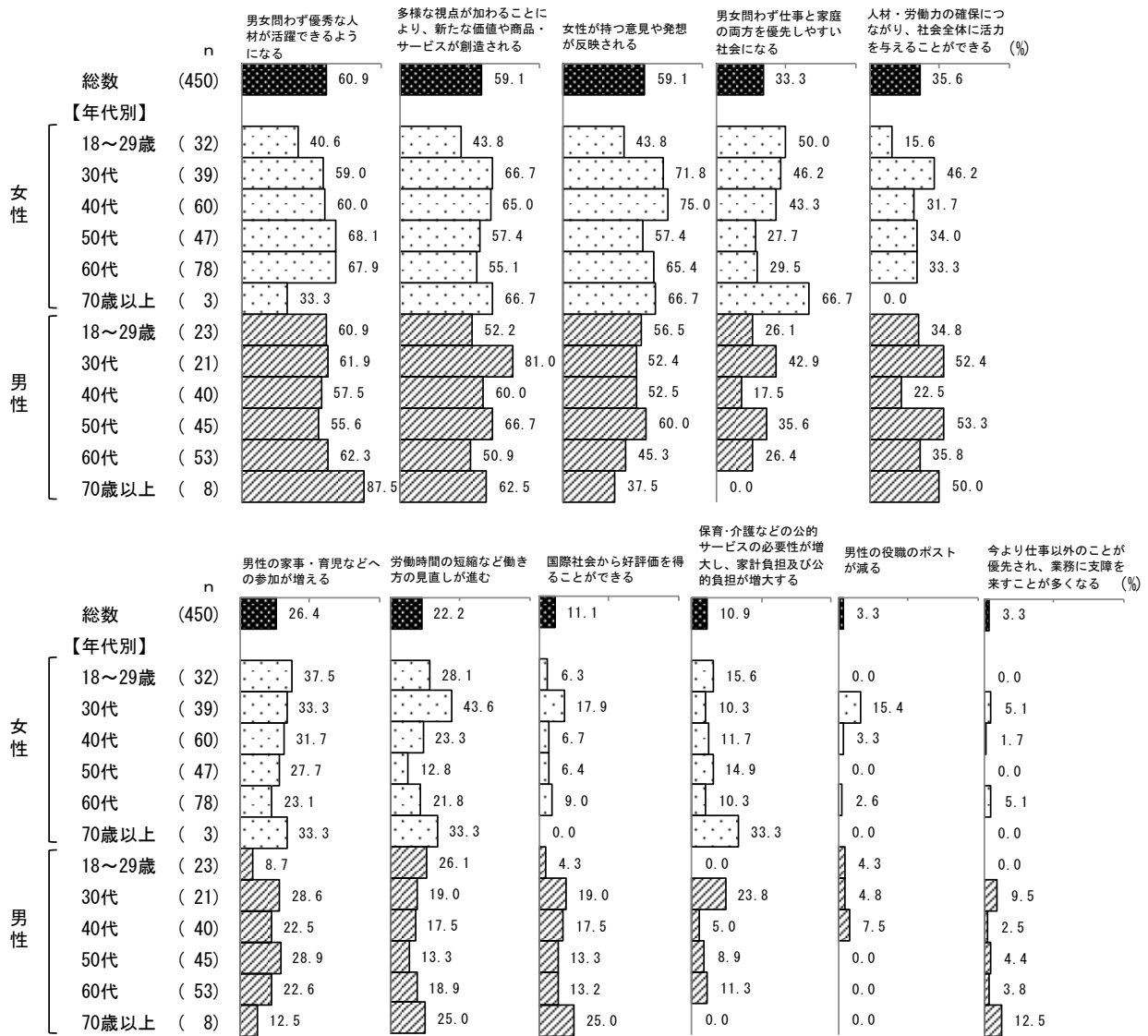


【年代別】

女性では、「女性が持つ意見や発想が反映される」が30代 (71.8%)、40代 (75.0%) と7割を超えている。

男性では、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」は30代 (81.0%) で最も多くなっている。

図 16-2 女性のリーダーが増えるるとどのような影響があると思うか 項目別一覧 (年代別)



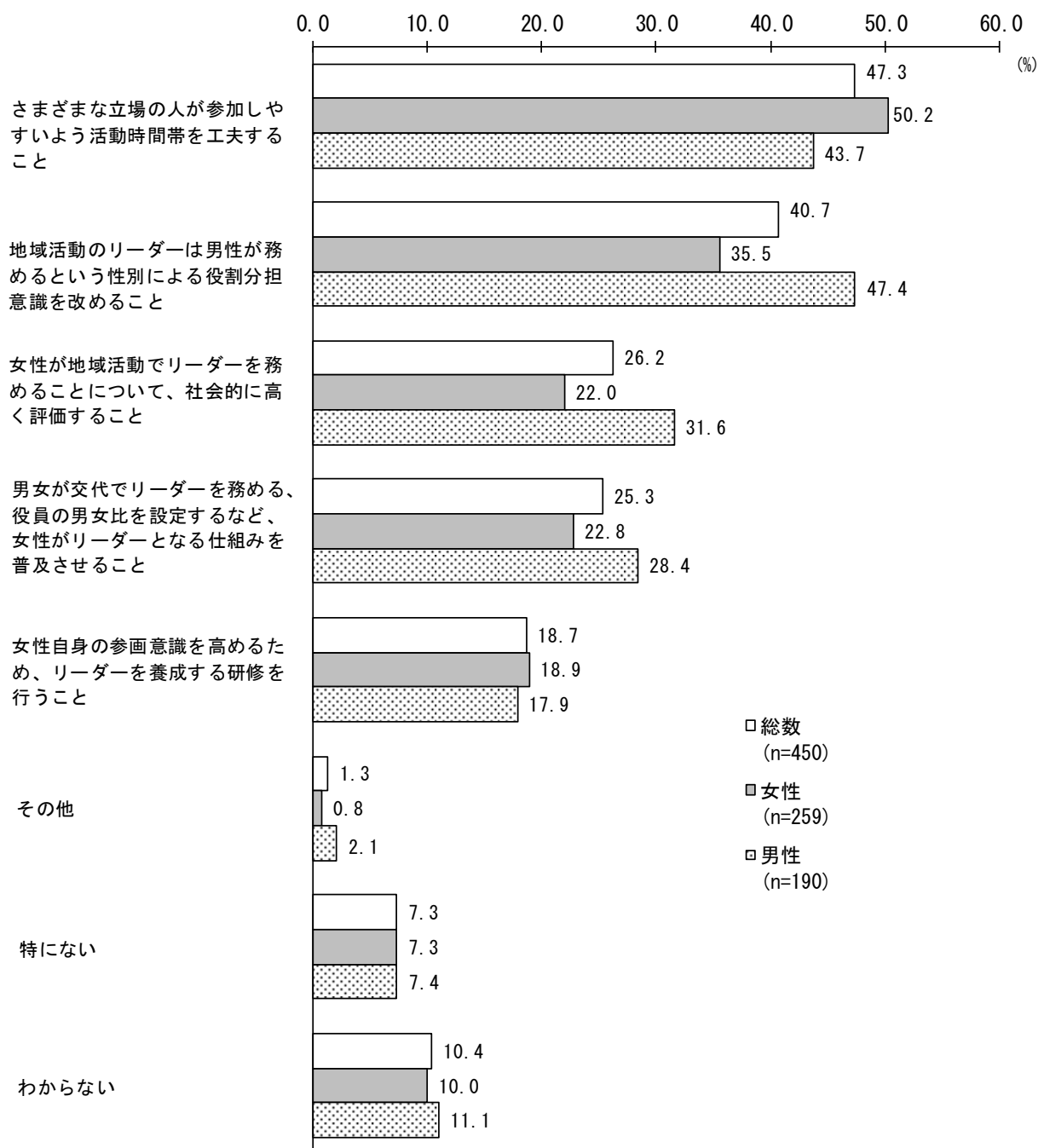
2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと

問 17 あなたは、自治会やPTA、自主防災組織などの地域活動において、女性が方針決定の場に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

女性では、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」(50.2%)が最も多く、次いで「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」(35.5%)となっている。

男性では「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」(47.4%)が最も多く、次いで「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」(43.7%)となっている。

図 17-1 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと 項目別一覧(性別)

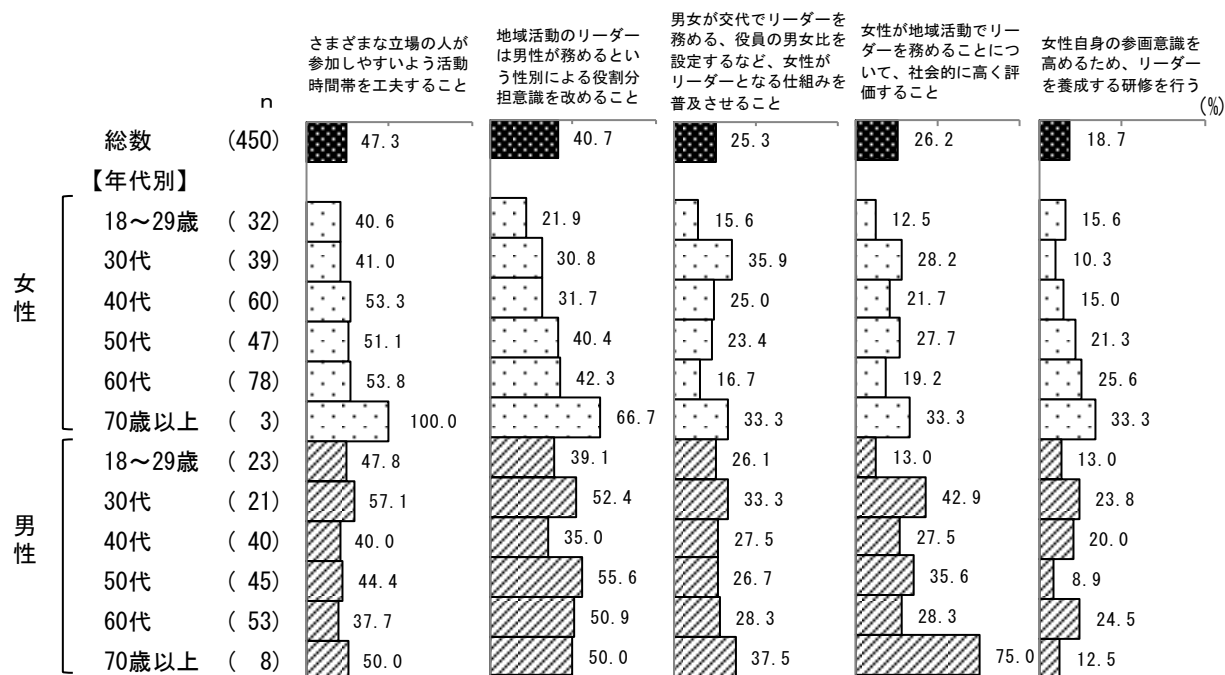


【年代別】

女性では全ての年代で「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」が最も多くなっている。

男性では、50代以上の年代で「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」が最も多くなっている。

図 17-2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと 項目別一覧（年代別）



V ドメスティック・バイオレンス (DV) 等

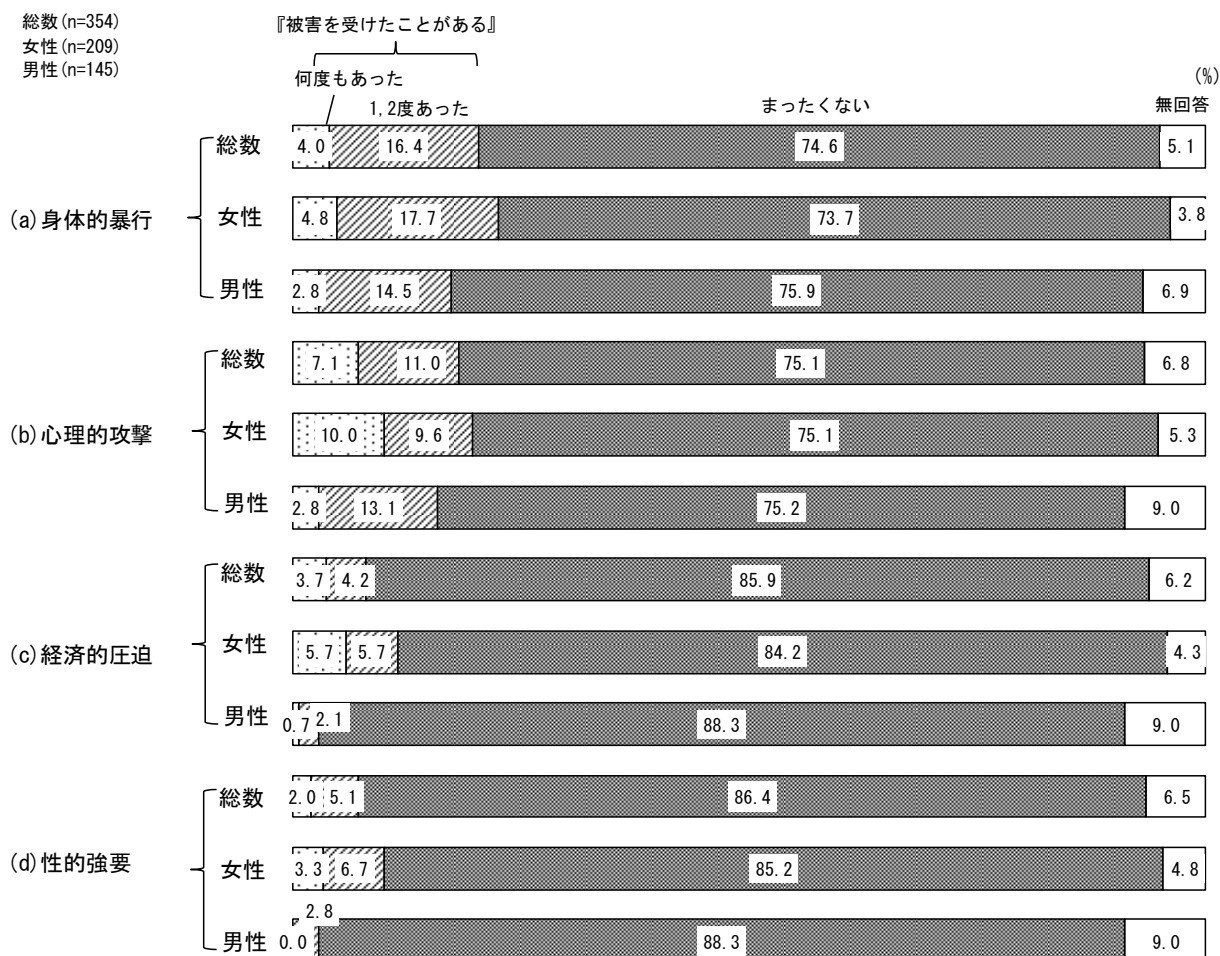
1 配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(これまでに結婚したことがある人【ここでの結婚は事実婚や別居中の夫婦を含む】にお聞きします。)

問18 あなたは、これまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。
「①これまで」(a)～(d)それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」(女性4.8%、男性2.8%)、「1、2度あった」(女性17.7%、男性14.5%)となり、合計では女性が男性を5.2ポイント上回っている。
“(b) 心理的攻撃”では、「何度もあった」は女性(10.0%)が男性(4.0%)を5.0ポイント上回り、「1、2度あった」(女性9.6%、男性13.1%)では、男性が3.5ポイントと上回っている。
“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」(女性5.7%、男性0.7%)、「1、2度あった」(女性5.7%、男性2.1%)となり、その合計では女性が男性を8.7ポイント上回った。
“(d) 性的強要”では、「何度もあった」(女性3.3%、男性0.0%)、「1、2度あった」(女性6.7%、男性2.8%)で、その合計では女性が男性を7.3ポイント上回った。

図18-1 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

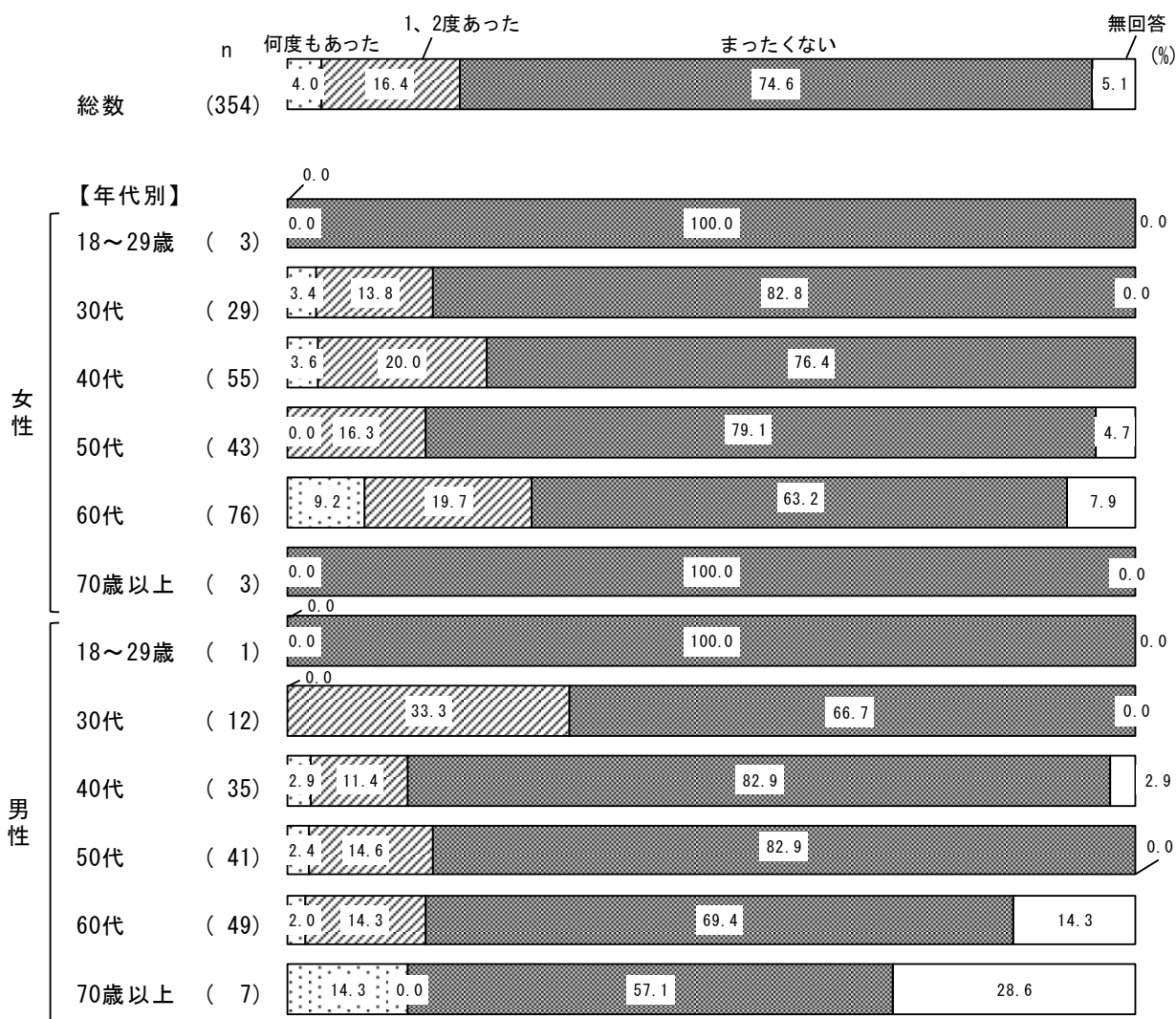
【年代別】

※男女とも18～29歳、70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。（以下同じ）

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は60代（「何度もあった」9.2%、「1、2度あった」19.7%）が最も多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代（「何度もあった」0.0%、「1、2度あった」33.3%）が最も多くなっている。

図18-2 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)

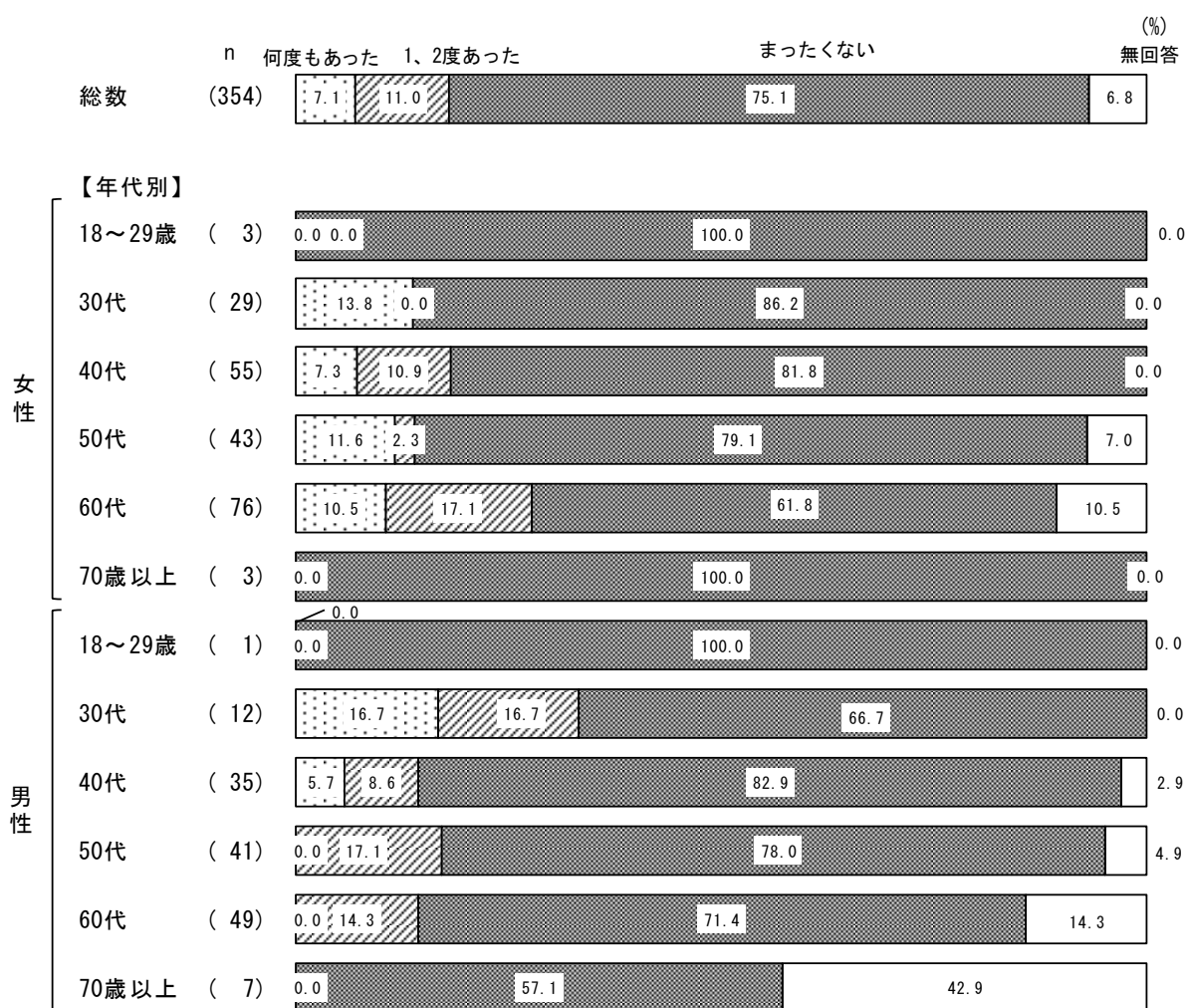


配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で60代（「何度もあった」10.5%、「1、2度あった」17.1%）が最も多くなっている。
 男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で30代（「何度もあった」16.7%、「1、2度あった」16.7%）が最も多くなっている。

図18-3 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃 (年代別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無

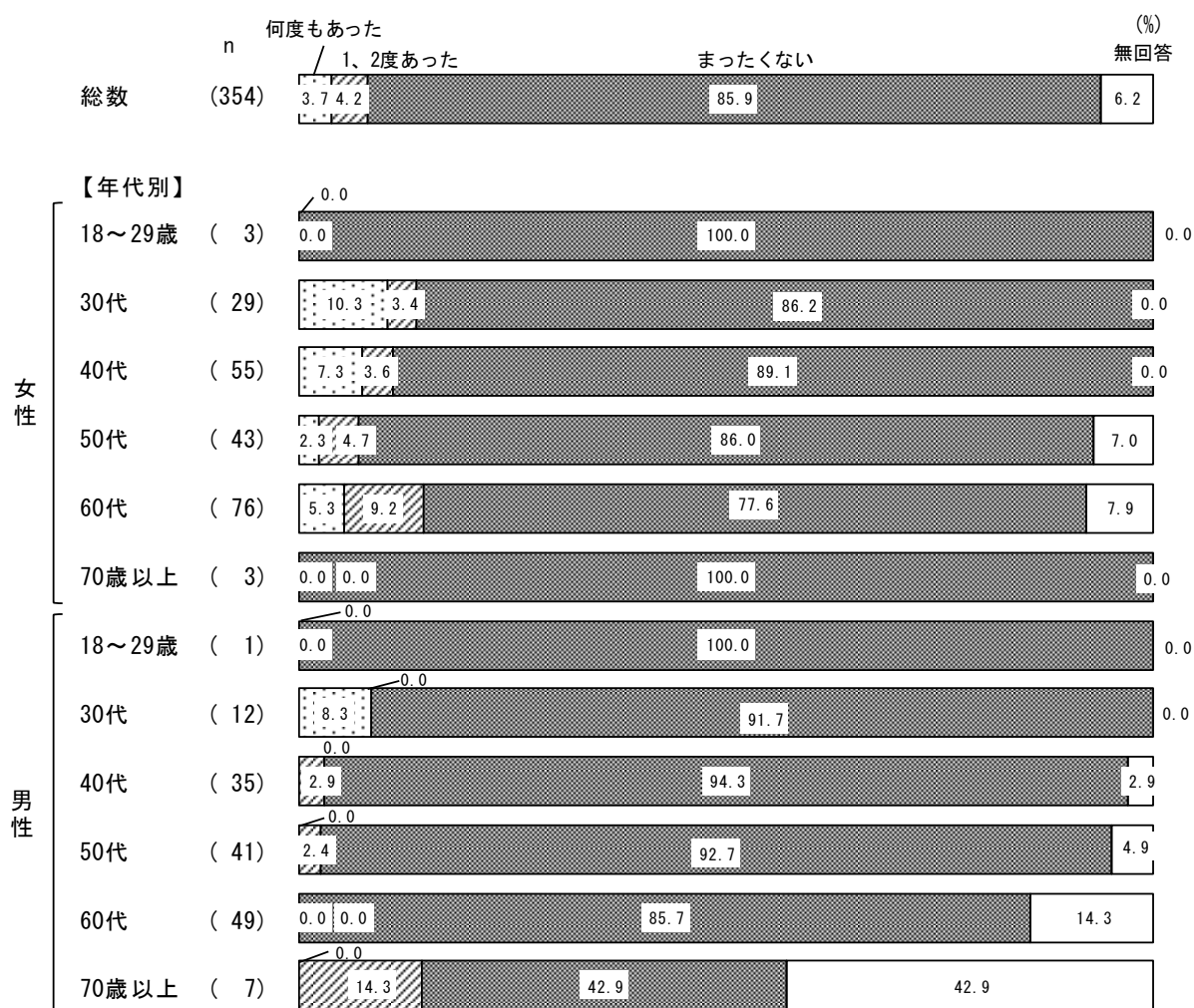
(c) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）

【年代別】

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で30代（「何度もあった」10.3%、「1、2度あった」3.4%）が最も多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で30代（「何度もあった」8.3%、「1、2度あった」0.0%）が最も多くなっている。

図18-4 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無

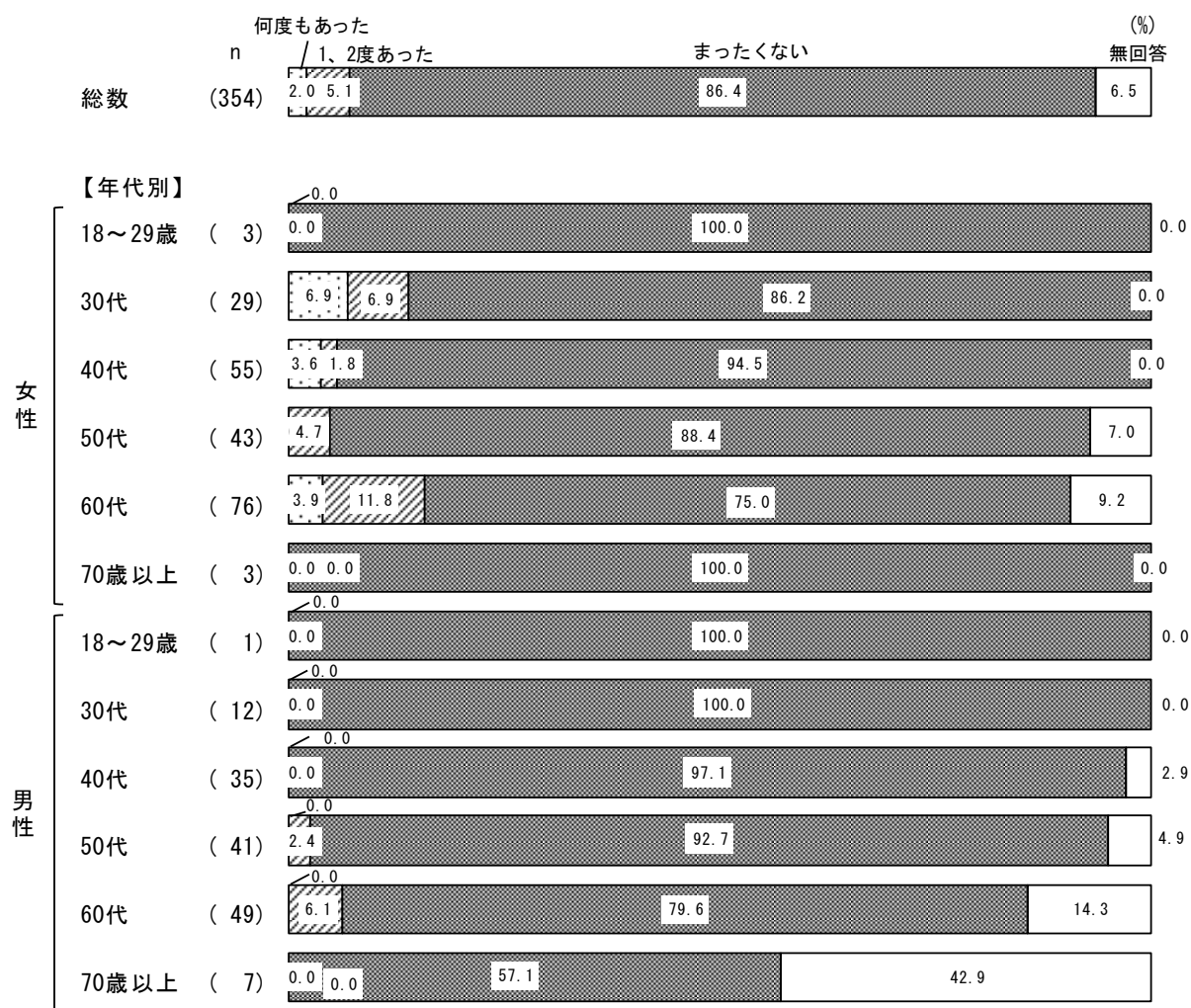
(d) 性的強要（例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で60代（「何度もあった」3.9%、「1、2度あった」11.8%）が最も多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の全ての年代で1桁%台となっている。

図18-5 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



2 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(問20「①これまで」で「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた人にお聞きします。)
 問20 あなたは、この1年間にあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。
 「②この1年間」(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
 (○はそれぞれ1つつ)

※(c) 経済的圧迫、(d)「性的強要」の男性については、サンプル数が少ないため参考掲載とする。

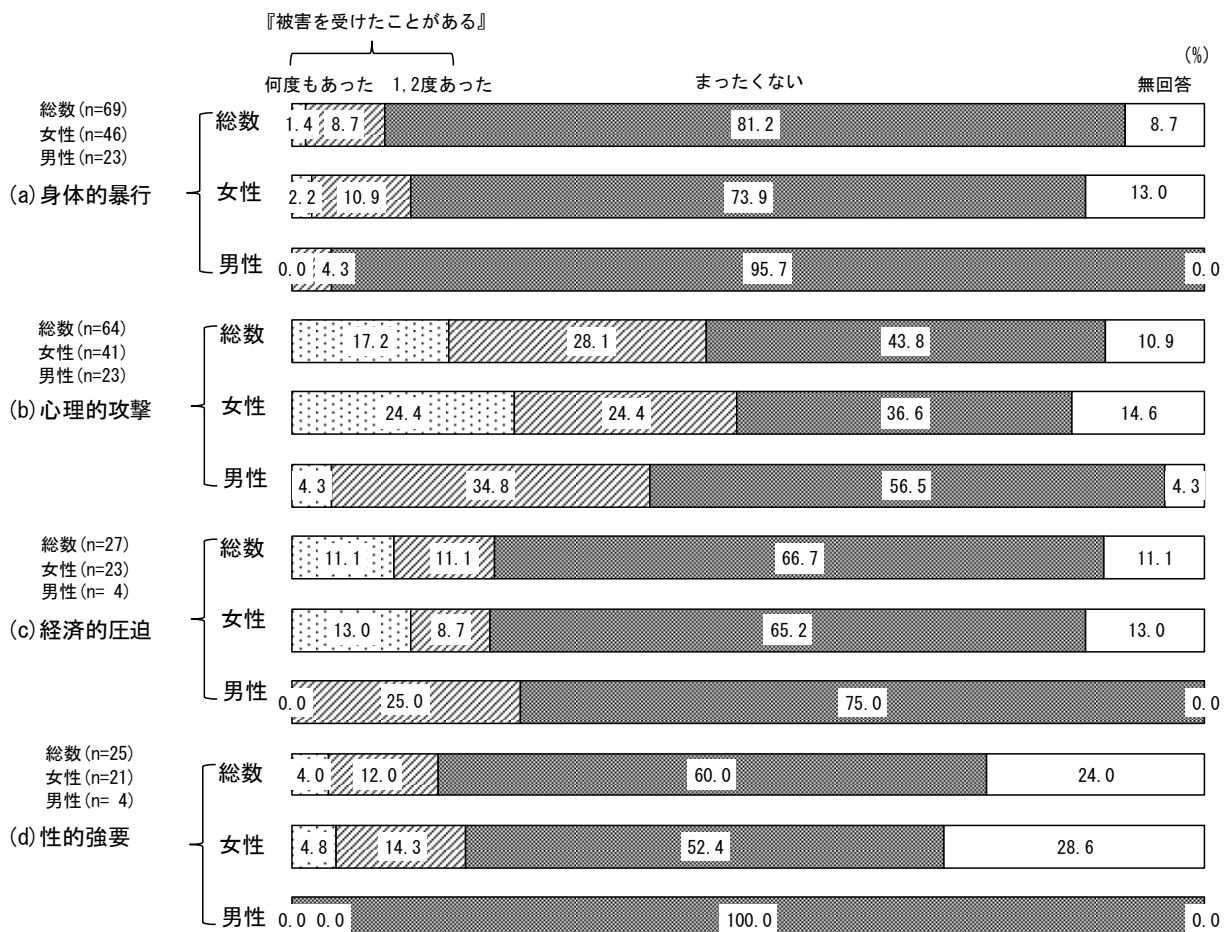
“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」(女性2.2%、男性0.0%)、「1、2度あった」(女性10.9%、男性4.3%)となり、その合計では女性が男性を8.8ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”は、総数・男女ともに最も多く、「何度もあった」(女性24.4%、男性4.3%)、「1、2度あった」(女性24.4%、男性34.8%)となり、その合計では女性が男性を9.7ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は女性で21.7%となった。

“(d) 性的強要”では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は女性で19.1%となった。

図 18-6 配偶者からのこの1年間被害経験の有無 項目別一覧(性別)



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

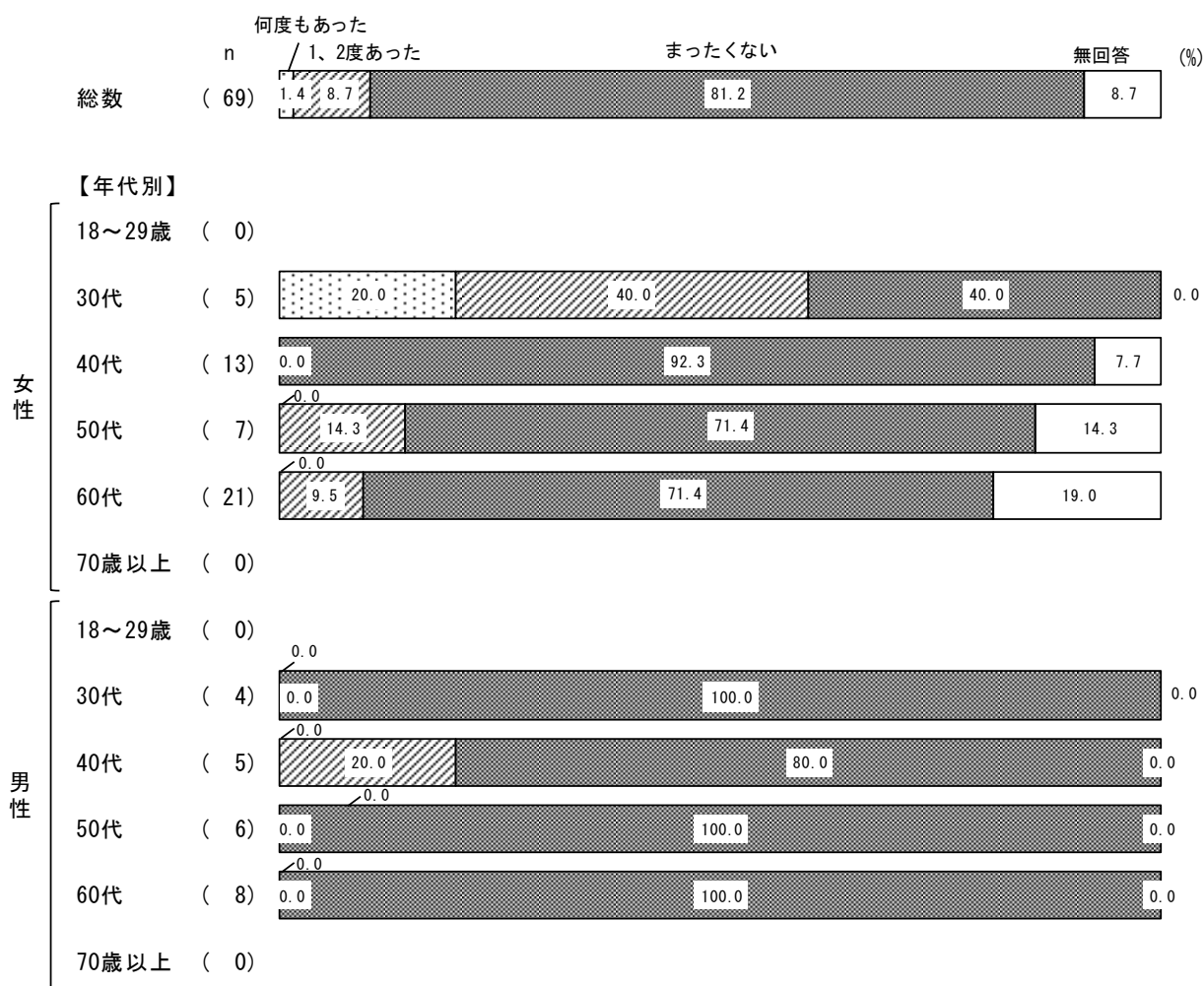
(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で30代（「何度もあった」10.0%、「1、2度あった」20.0%）が最も多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で40代（「何度もあった」0.0%、「1、2度あった」12.5%）が最も多くなっている。

図 18-7 配偶者からのこの1年間被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)

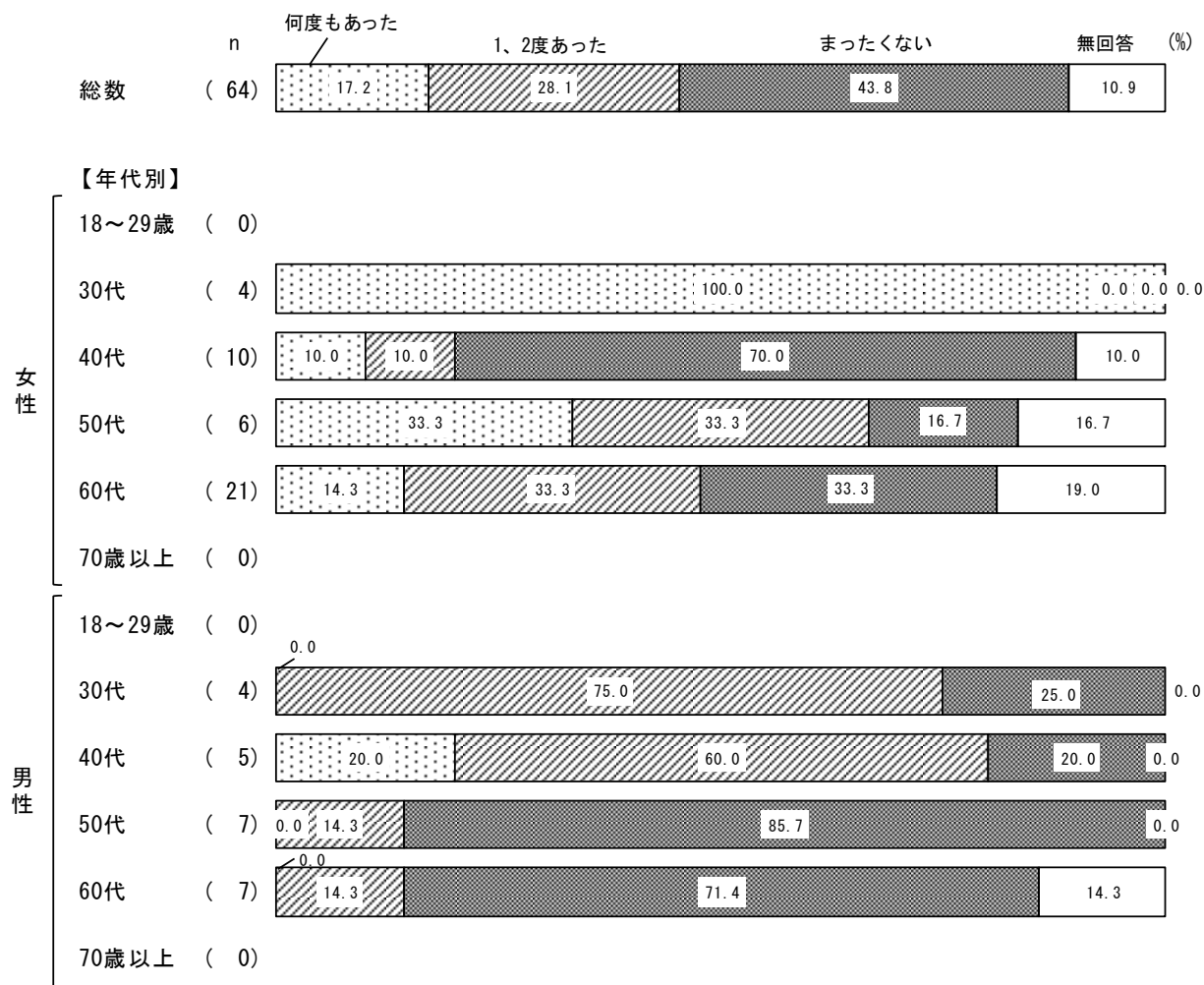


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 男女ともに、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代（女性40.0%、男性75.0%）で最も多くなっている。

図18-8 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）

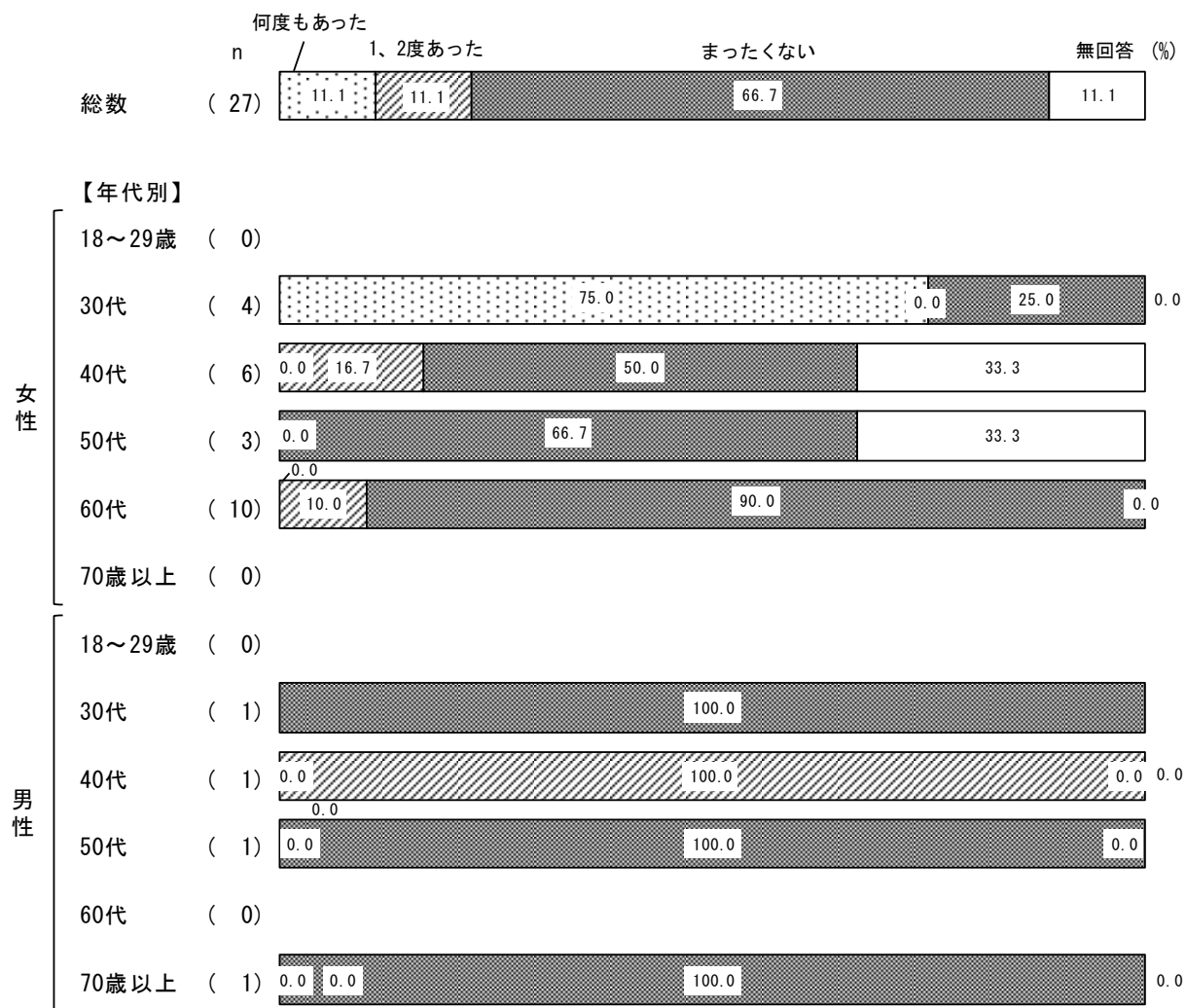


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(c) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）

【年代別】
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代（30.0%）で最も多くなっている。
 男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（12.5%）で最も多くなっている。

図18-9 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

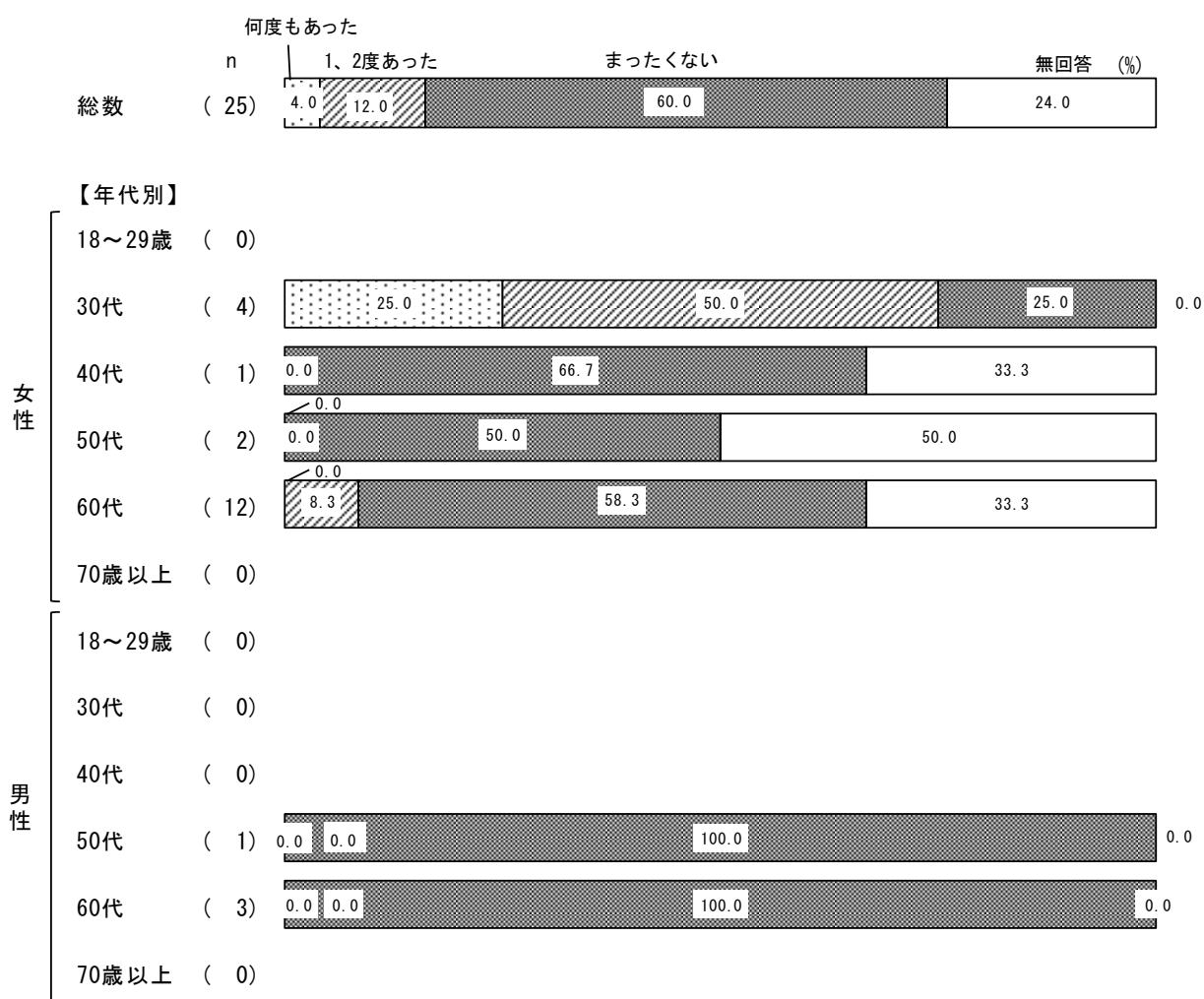
(d) 性的強要（例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代（30.0%）で最も多くなっている。

男性では、全ての年代でいなかった。

図18-10 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (d) 性的強要 (性別)



3 交際相手からの被害経験の有無

問19 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(○はそれぞれいくつでも)

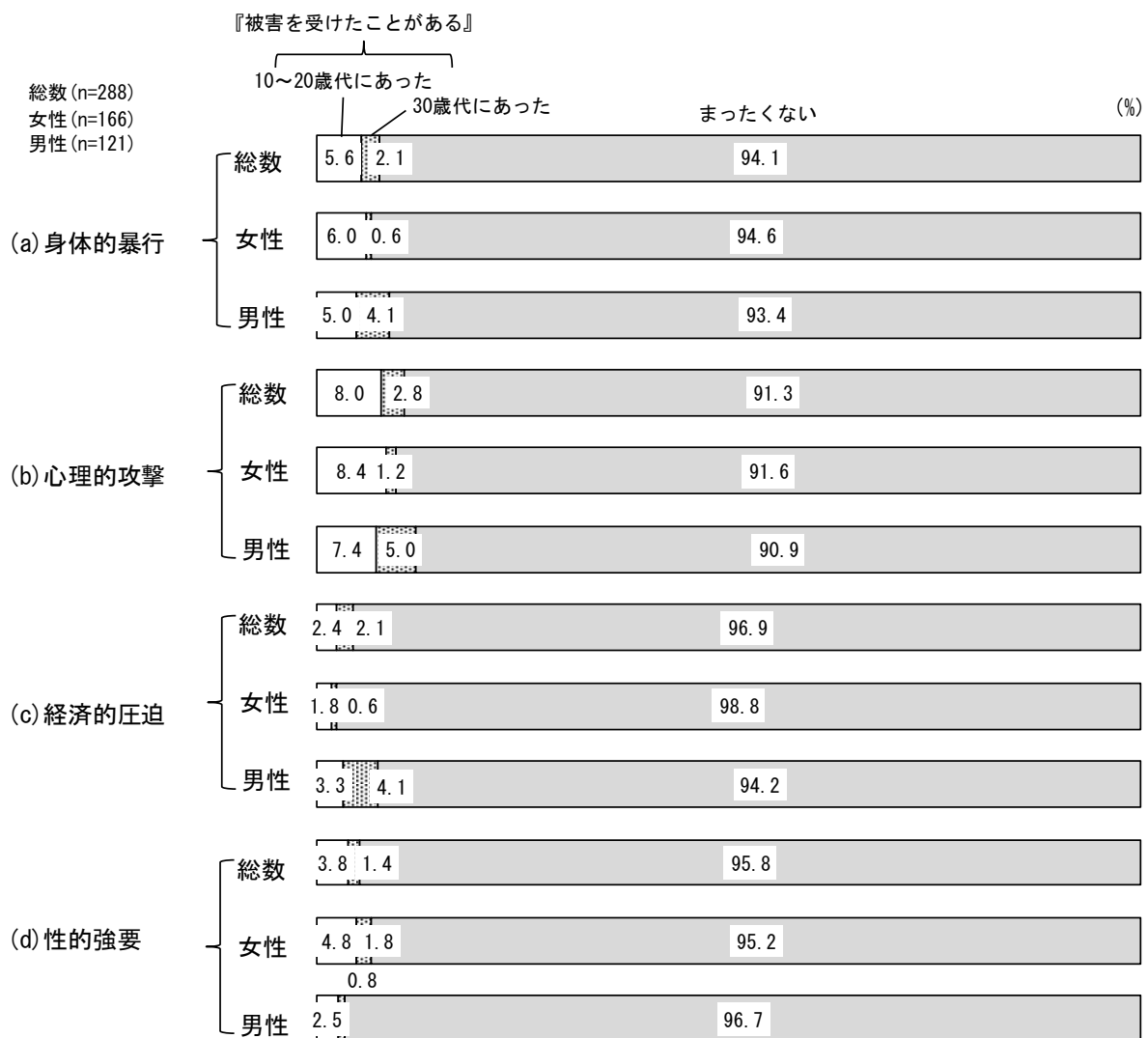
“(a) 身体的暴行”では、「10～20代にあった」(女性6.0%、男性5.0%)、「30代以上にあった」(女性0.6%、男性4.1%)となり、その合計では男性が女性を2.5ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、「10～20代にあった」(女性8.4%、男性7.4%)、「30代以上にあった」(女性1.2%、男性5.0%)で、その合計では男性が女性を2.8ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、「10～20代にあった」(女性1.8%、男性3.0%)、「30代以上にあった」(女性0.6%、男性4.1%)となり、その合計では男性が女性を4.7ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、「10～20代にあった」(女性4.8%、男性2.5%)、「30代以上にあった」(女性1.8%、男性0.8%)で、その合計では女性が男性を3.3ポイント上回った。

図19-1 交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



※『10～20歳代にあった』は、調査票選択肢の「10歳代にあった」と「20歳代にあった」を合計したもの。以降の頁も同様。

※複数の項目を選択している場合があるため、合計値が100%を超える場合がある。以降の頁も同様。

交際相手からの被害経験の有無

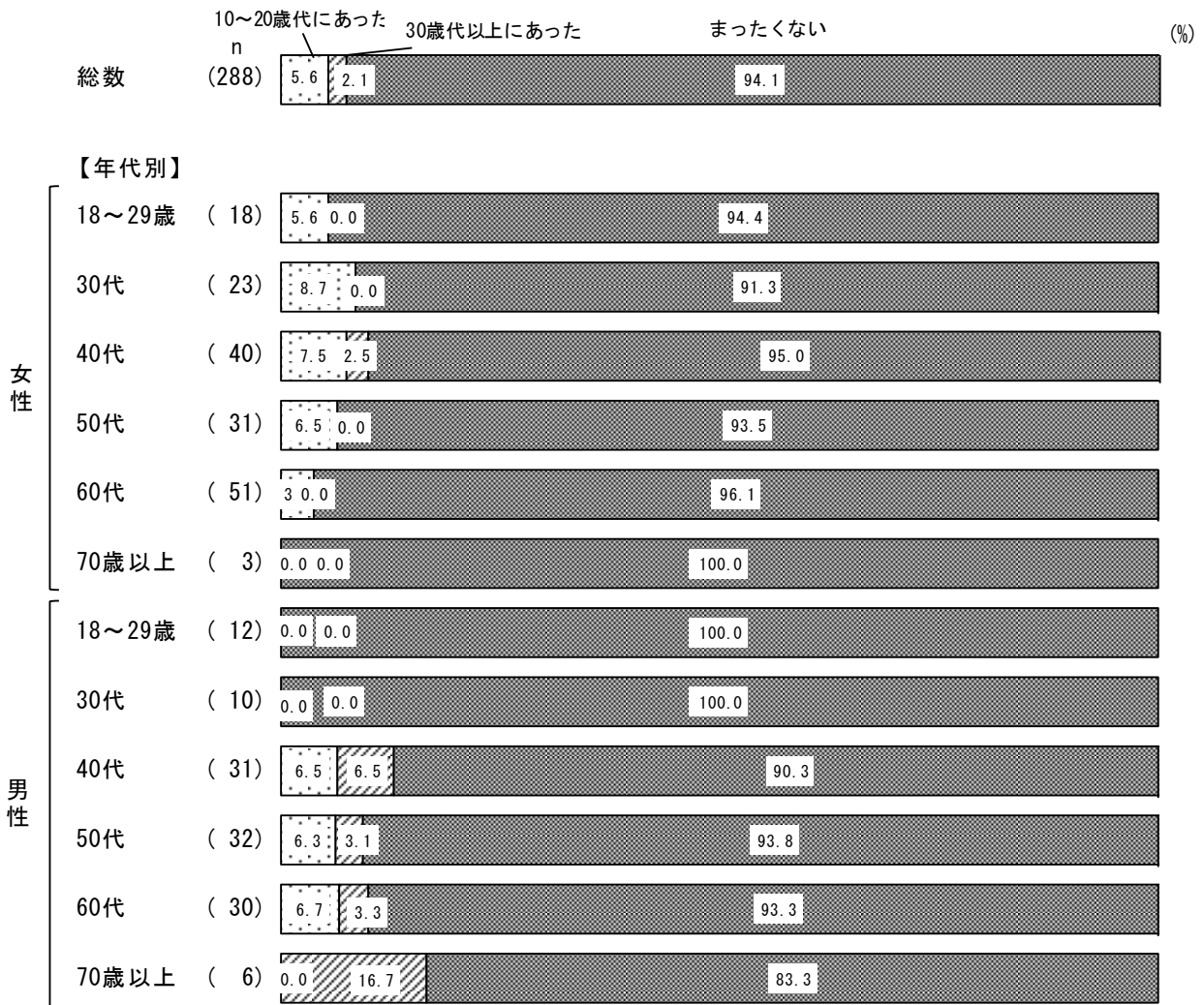
(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】

女性では、「10～20代にあった」と「30代以上にあった」の合計で最も多かったのが30代（24.0%）だった。

男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図 19-2 交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)

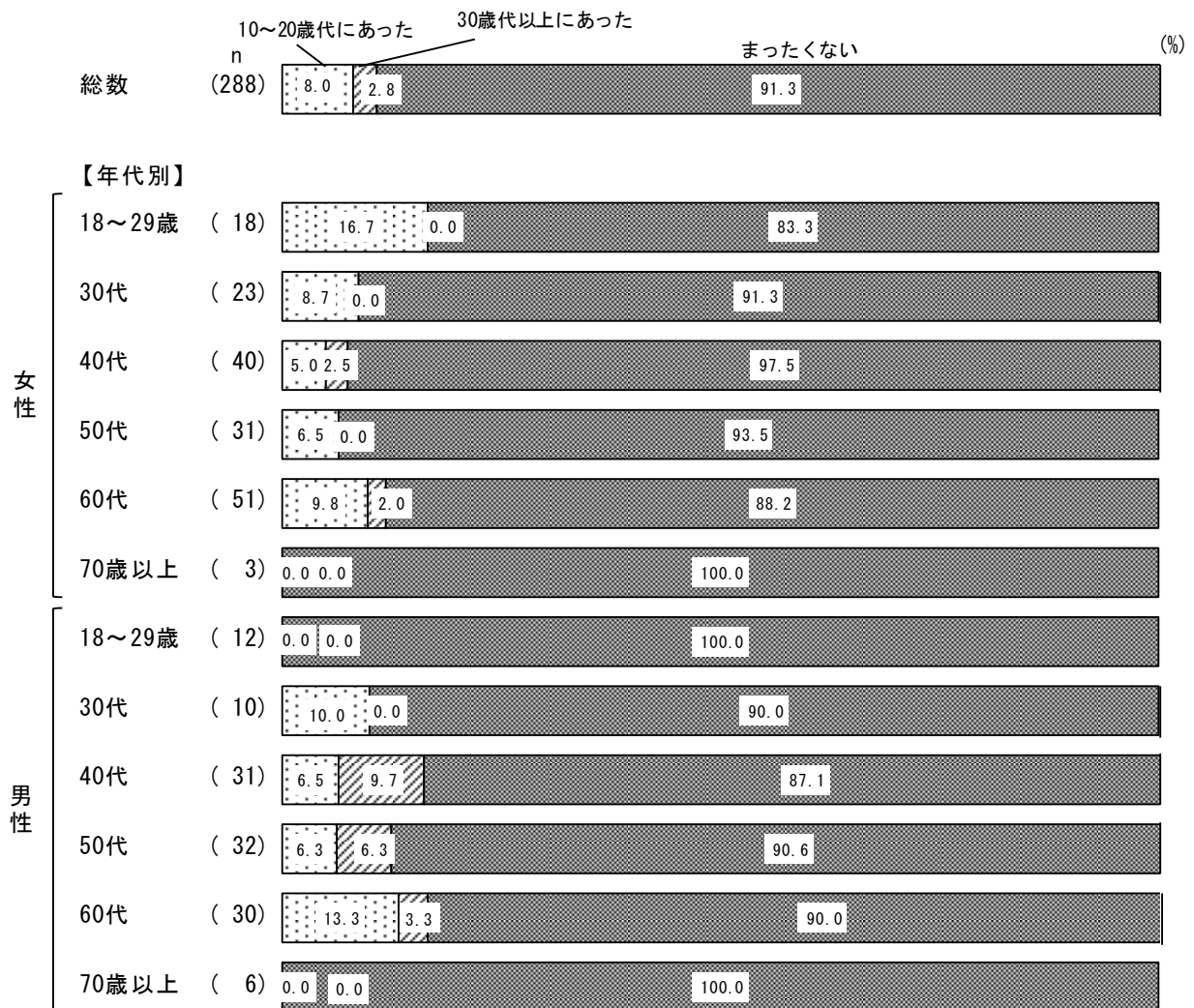


交際相手からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 女性では、「10～20代にあった」と「30代以上にあった」の合計で最も多かったのが30代（36.0%）だった。
 男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図19-3 交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）



交際相手からの被害経験の有無

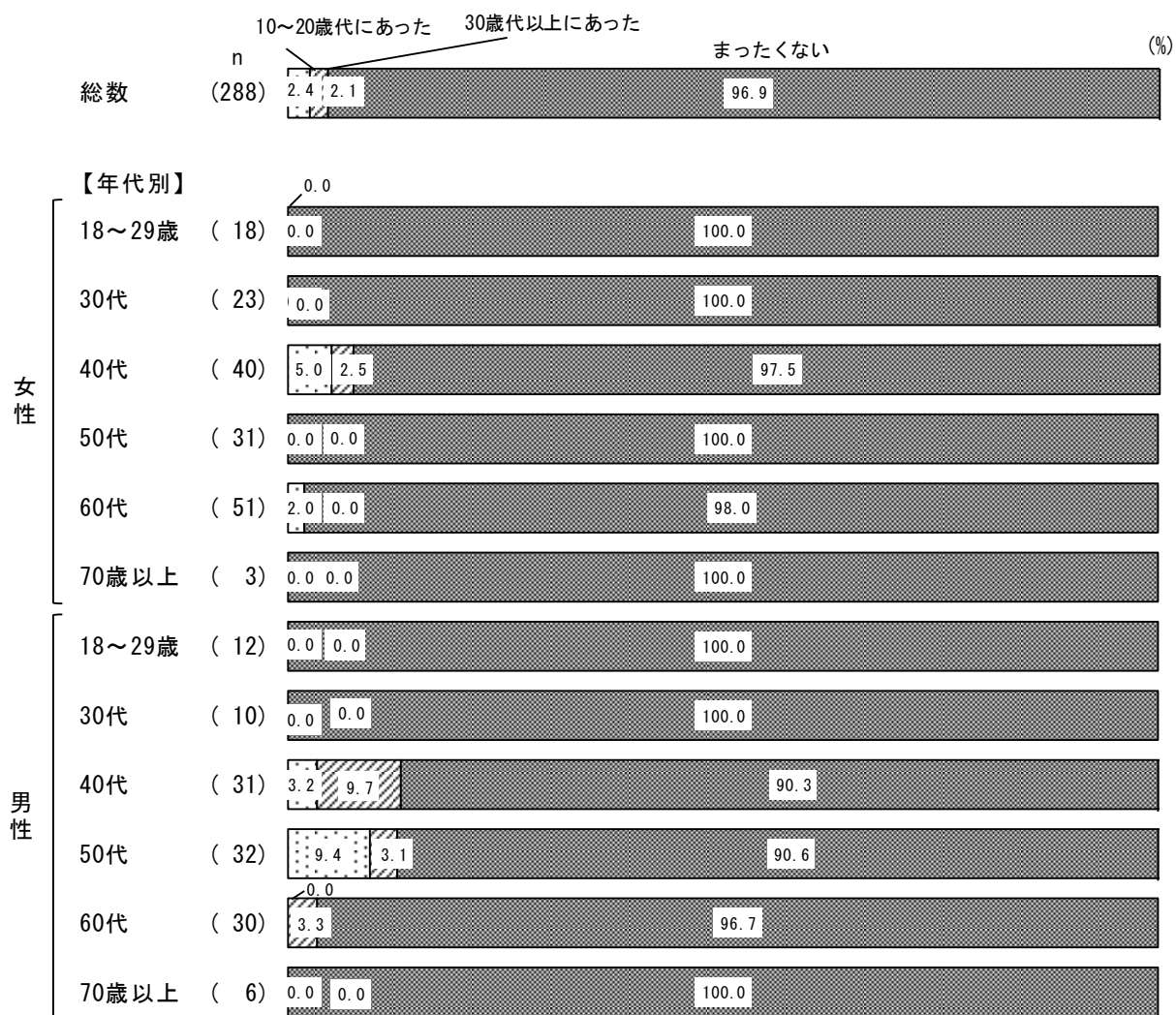
(c) 経済的圧迫（例えば、バイト代や、貯金を勝手に使われる、デート代を無理やり払わされる）

【年代別】

女性では、「10～20代にあった」と「30代以上にあった」の合計で最も多かったのが30代（20.0%）だった。

男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図19-4 交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)



交際相手からの被害経験の有無

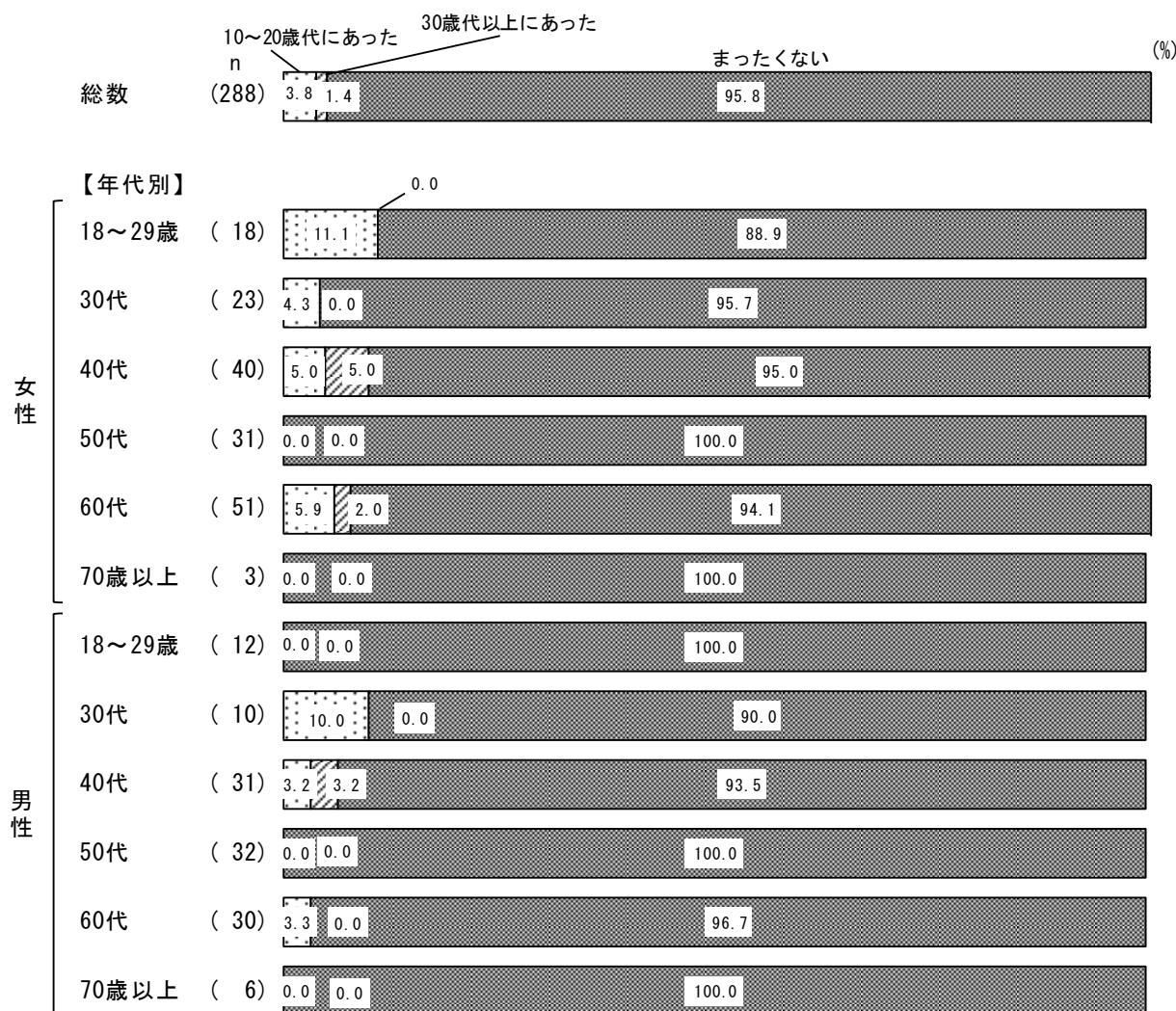
(d) 性的強要（例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】

女性では、「10～20代にあった」と「30代以上にあった」の合計で最も多かったのが30代（24.0%）だった。

男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図19-5 交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



4 同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(問19「①交際相手」で「10～20代にあった」、「30代以上にあった」と答えた人で「①交際相手」と同居した経験 [いわゆる「同棲経験」]のある人にお聞きします。)

問19 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。「②同居の際」の(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

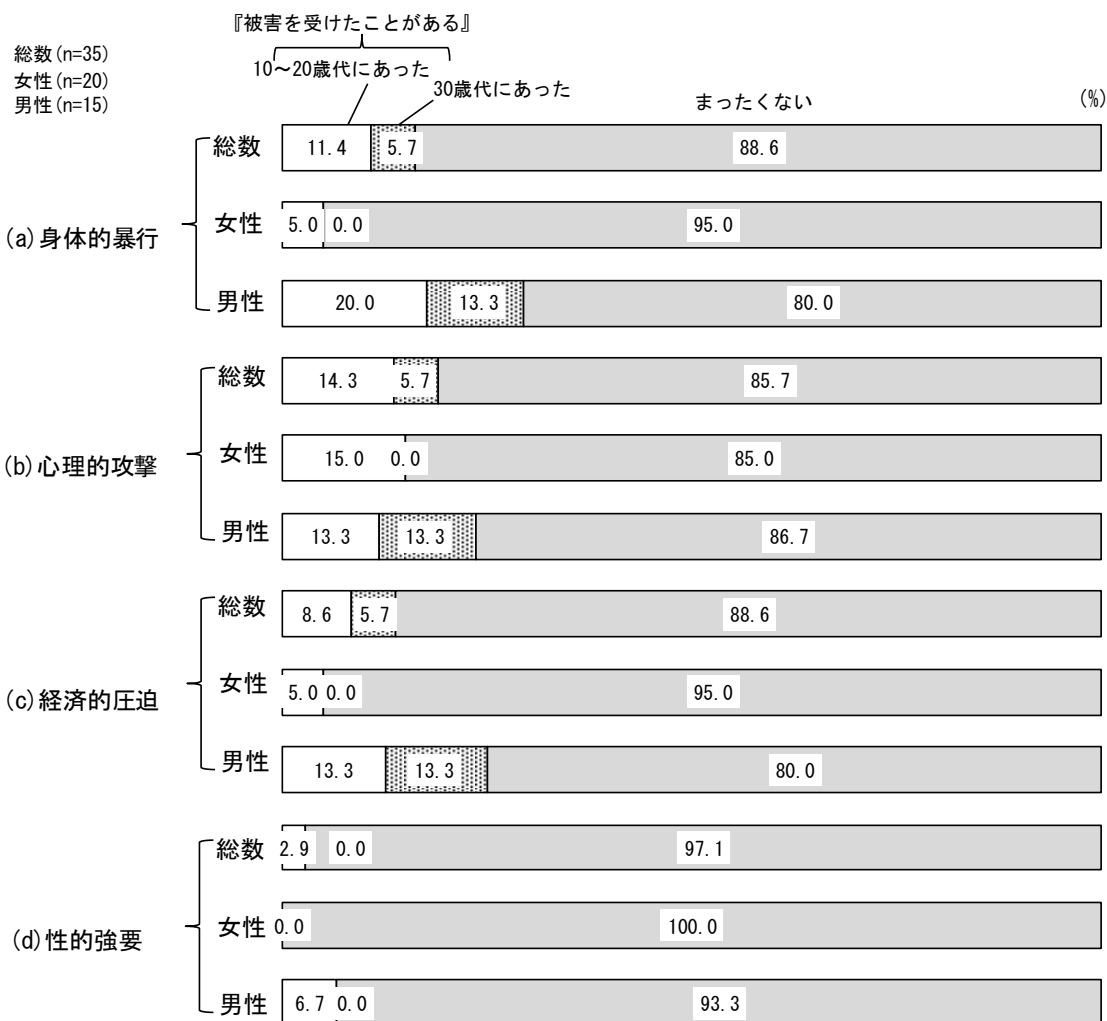
“(a) 身体的暴行”では、「10～20代にあった」(女性5.0%、男性20.0%)、「30代以上にあった」(女性0.0%、男性13.3%)となり、その合計では男性が女性を28.3ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、「10～20代にあった」は(女性15.0%、男性13.3%)、「30代以上にあった」(女性0.0%、男性13.3%)で、合計では男性が女性を11.6ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、「10～20代にあった」(女性5.0%、男性13.3%)、「30代以上にあった」(女性0.0%、男性13.3%)となり、合計では男性が女性を21.6ポイント上回っている。

“(d) 性的強要”では、「10～20代にあった」(女性0.0%、男性6.7%)、「30代以上にあった」(女性0.0%、男性0.0%)となり、合計では男性が女性を6.7ポイント上回っている。

図19-6 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



同居の際の交際相手からの被害経験の有無

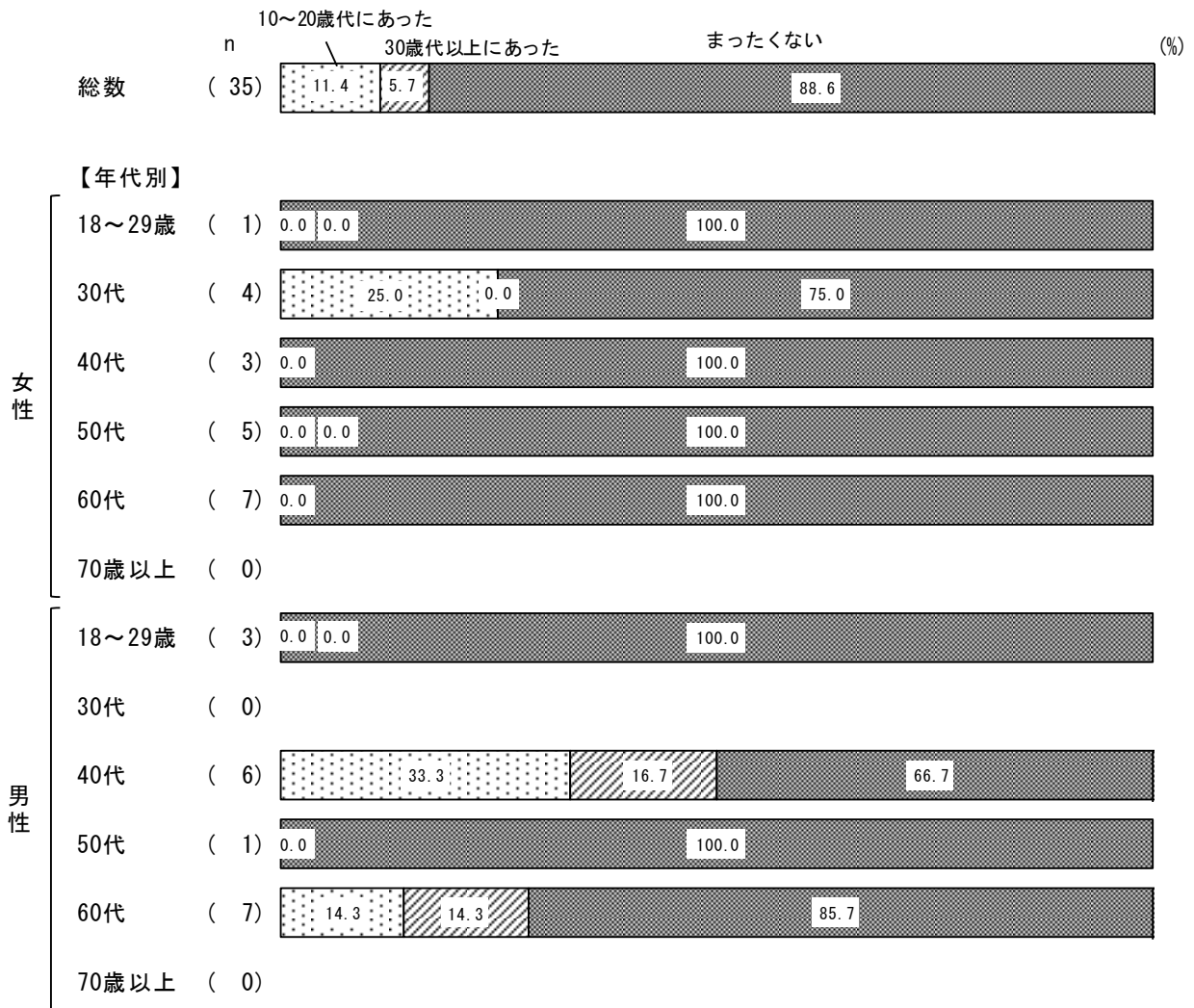
(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】

女性では、30代（「10～20代にあった」25.0%、「30代以上にあった」0.0%）が最も多くなっている。

男性では、40代（「10～20代にあった」33.3%、「30代以上にあった」16.7%）が最も多くなっている。

図19-7 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行（年代別）

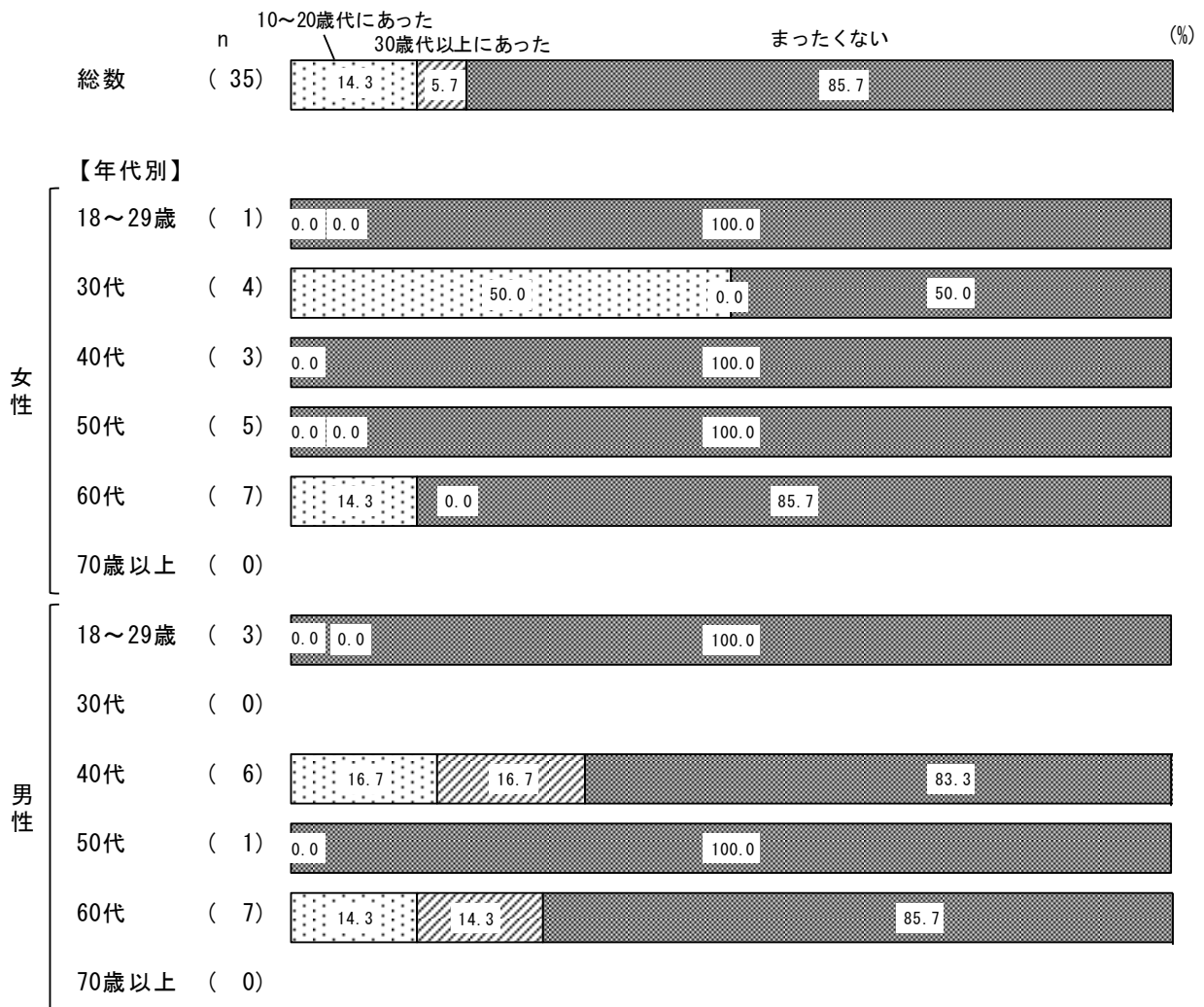


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 女性では、30代（「10～20代にあった」50.0%、「30代以上にあった」0.0%）が最も多くなっている。
 男性では、40代（「10～20代にあった」16.7%、「30代以上にあった」16.7%）が最も多くなっている。

図19-8 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）



同居の際の交際相手からの被害経験の有無

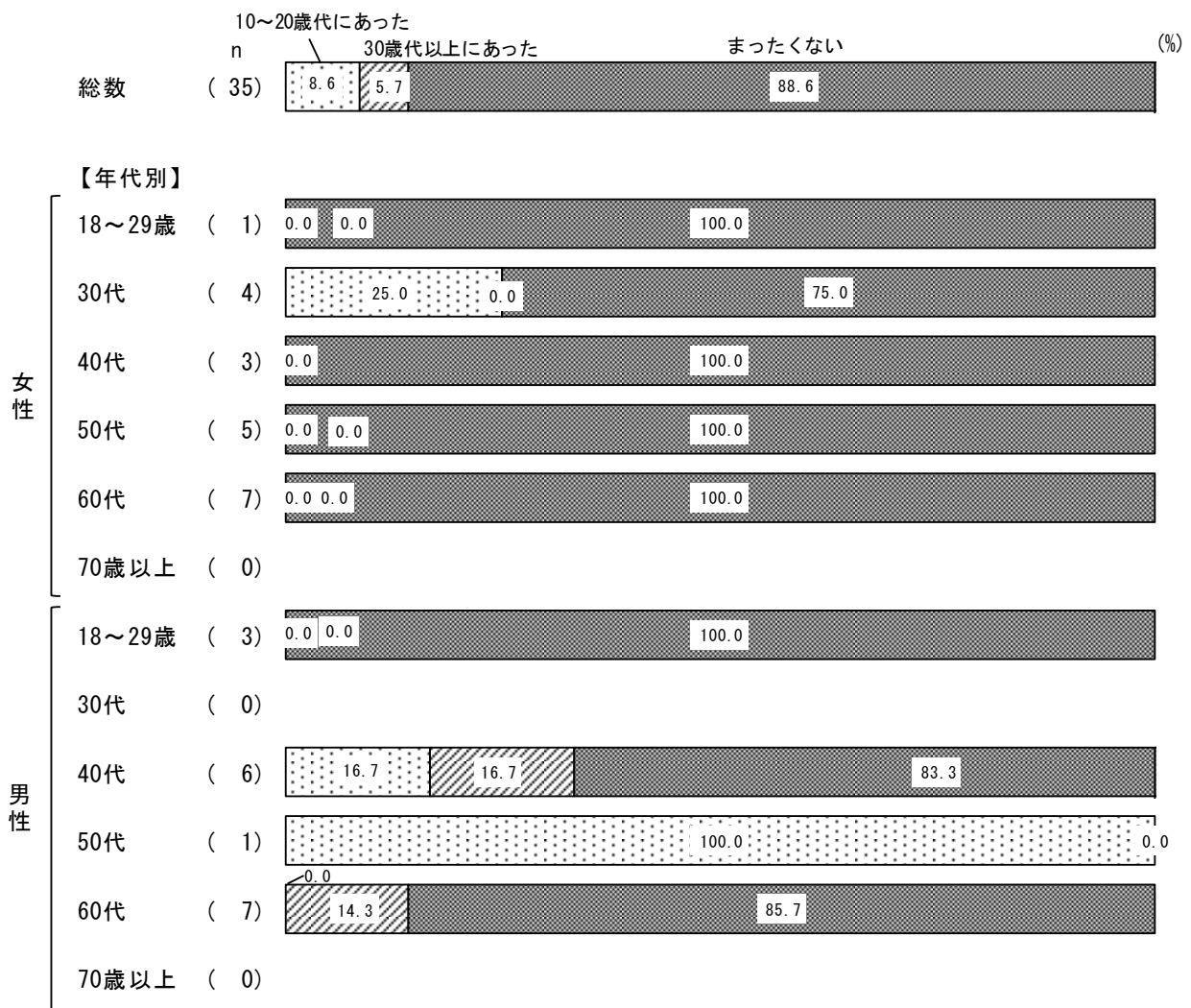
(c) 経済的圧迫（例えば、バイト代や、貯金を勝手に使われる、デート代を無理やり払わされるなど）

【年代別】

女性では、30代（「10～20代にあった」25.0%、「30代以上にあった」0.0%）が最も多くなっている。

男性では、40代（「10～20代にあった」16.7%、「30代以上にあった」16.7%）が最も多くなっている。

図19-9 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

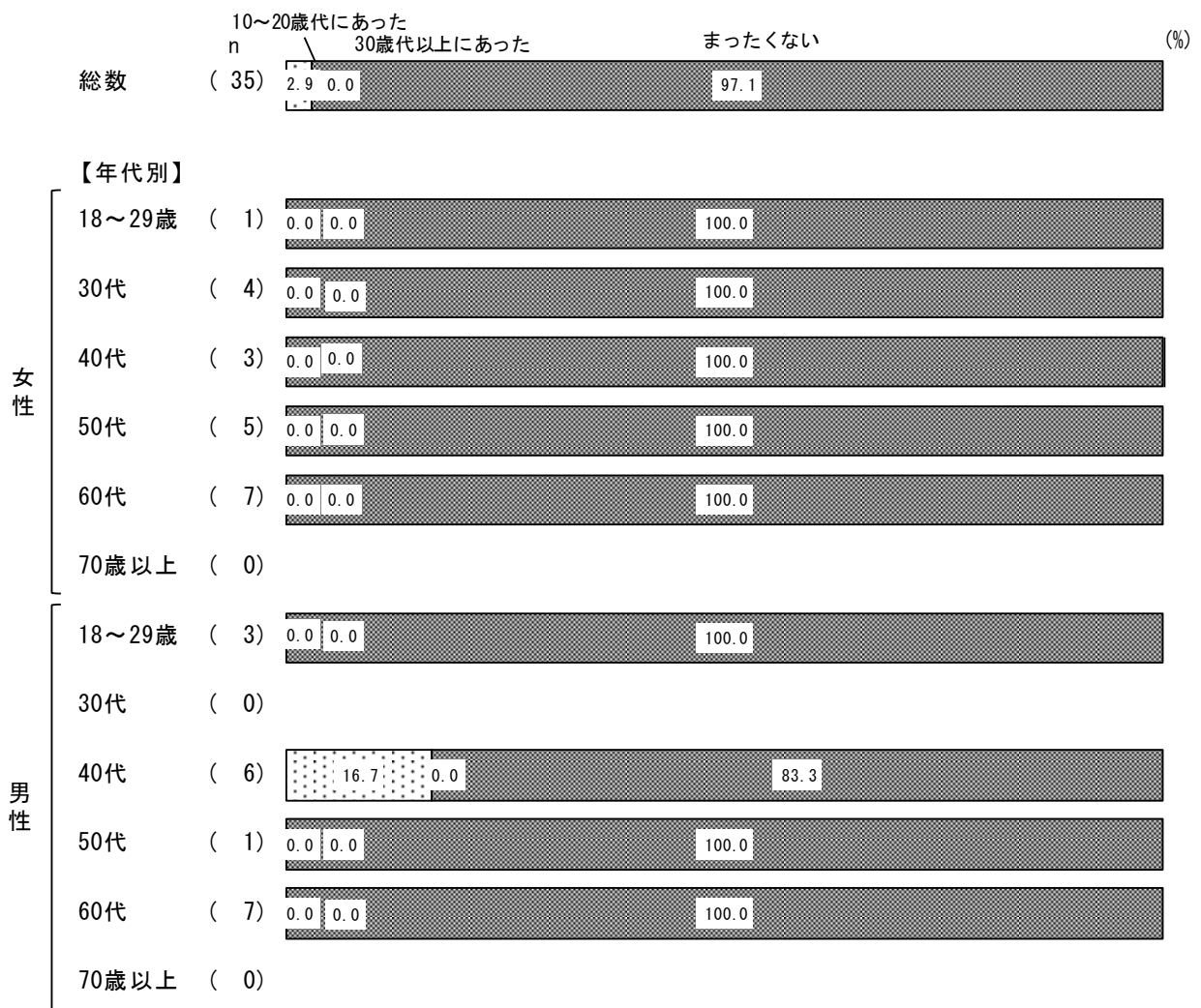


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 女性では、回答がなかった。
 男性では、30代（「10～20代にあった」16.7%、「30代以上にあった」0.0%）が最も多くなっている。

図19-10 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)

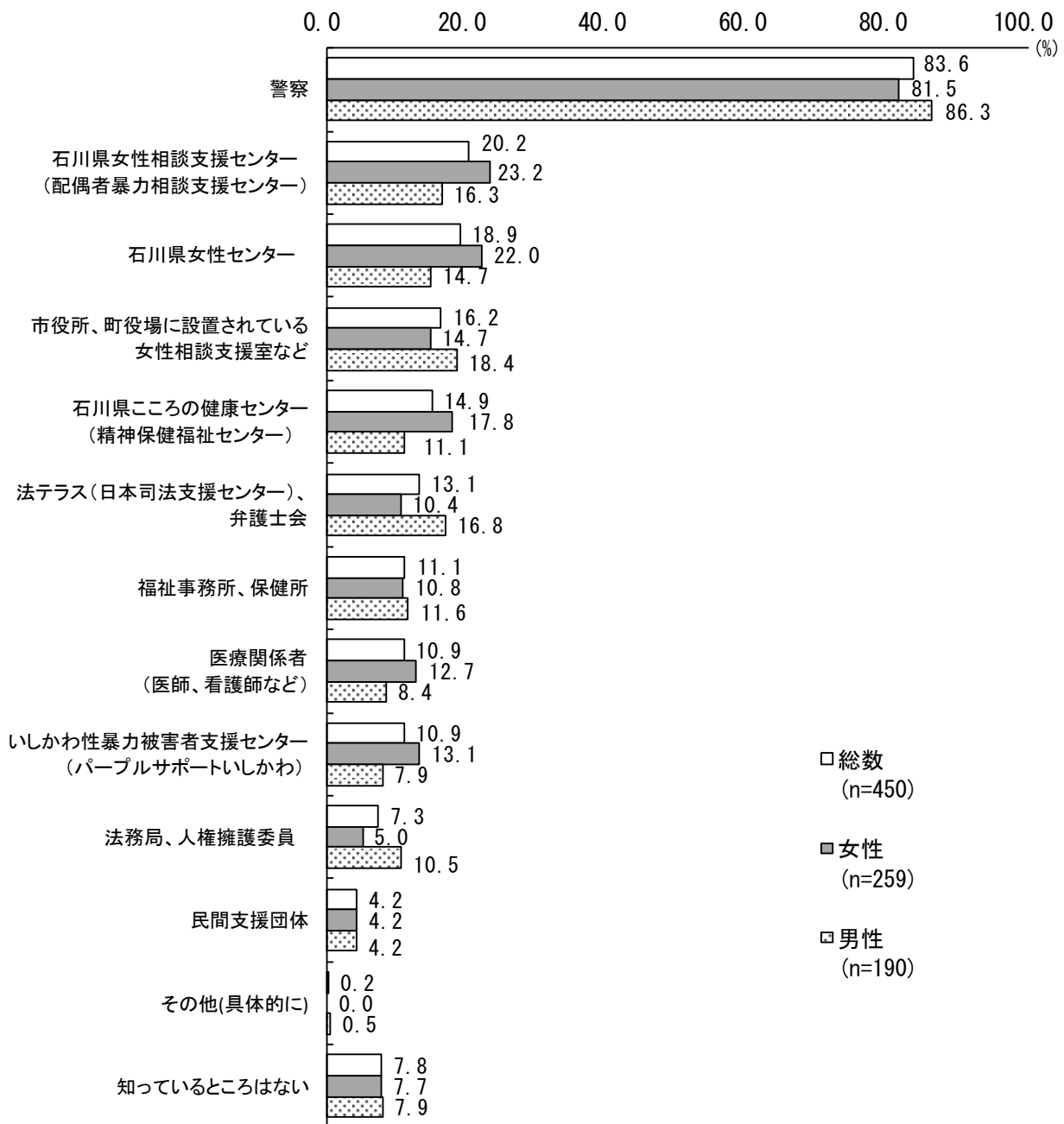


5 相談機関・関係者の周知状況

問20 DVや性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

全体で最も多かったのは「警察」(女性81.5%、男性86.3%)であった。次いで、「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(女性23.2%、男性16.3%)、「石川県女性センター」(女性22.0%、男性14.7%)、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」(女性14.7%、男性18.4%)の順となっている。

図 20-1 相談機関・関係者の周知状況 (性別)

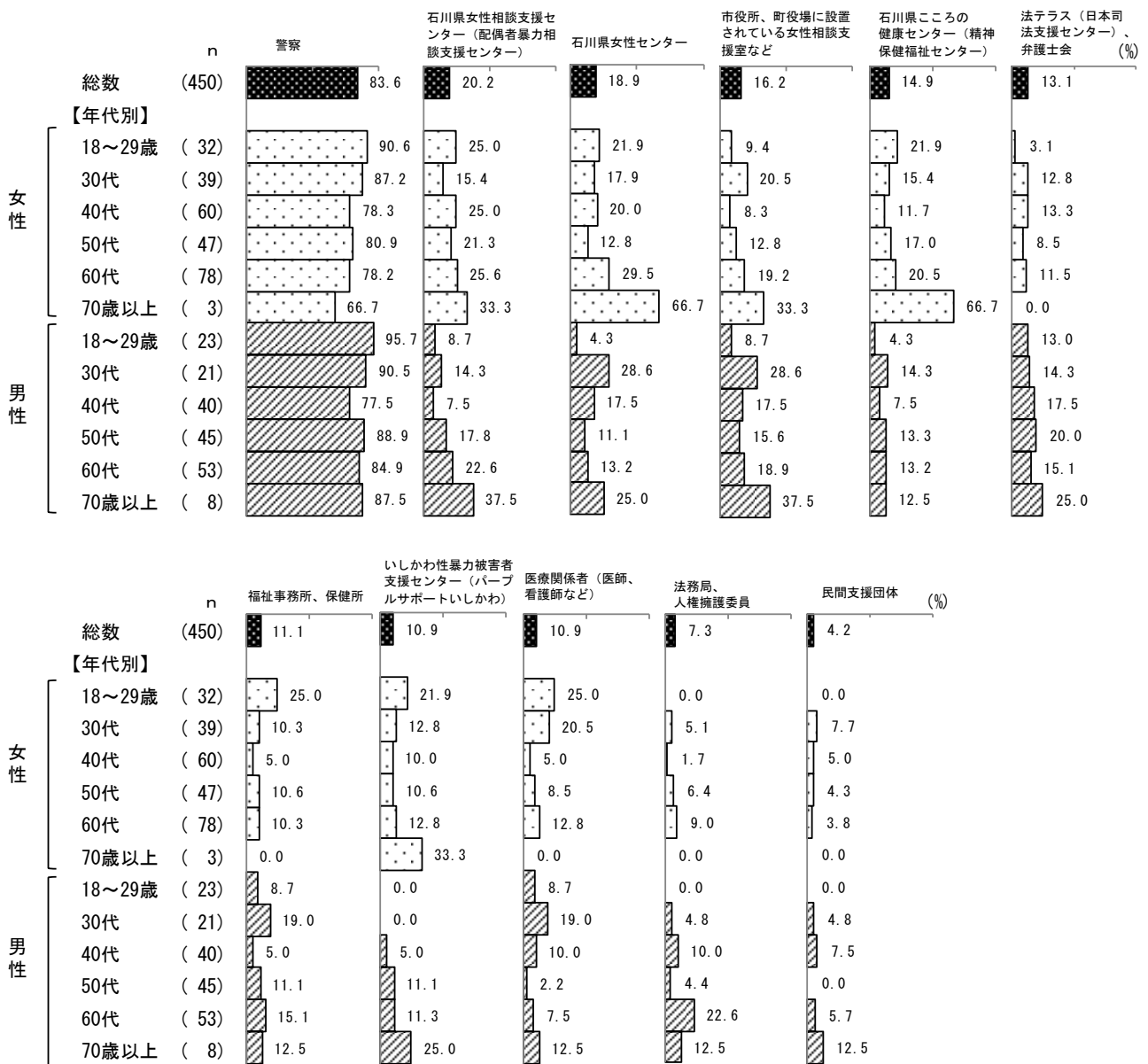


【年代別】

男女ともすべての年代で「警察」が最も多い。

次いで、女性では、「石川県女性センター」が60代（29.5%）で多くなっている。男性では、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」、「石川県女性センター」が（ともに28.6%）で多くなっている。

図 20-2 相談機関・関係者の周知状況（年代別）



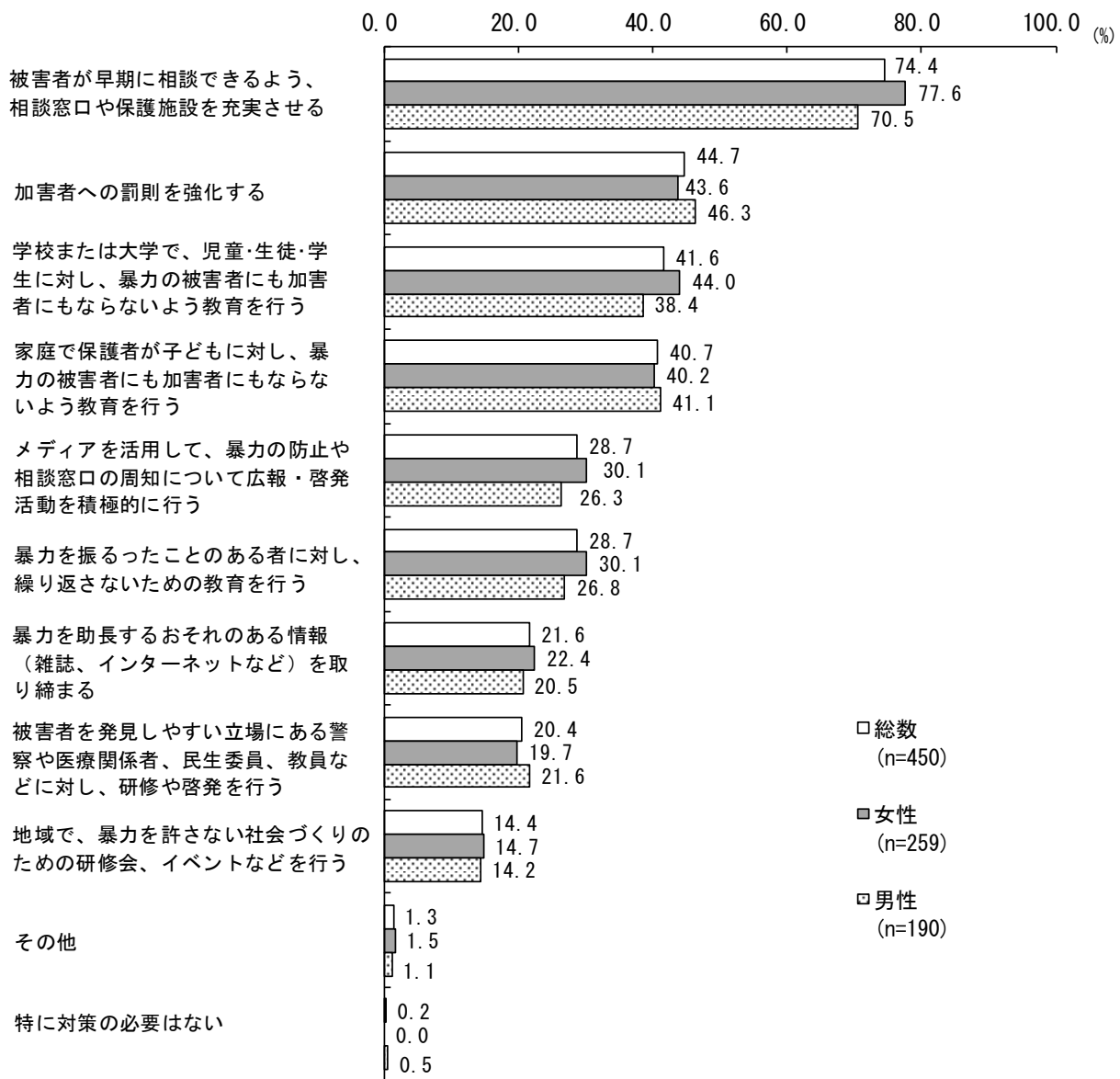
6 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと

問21 DVや性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」(女性77.6%、男性70.5%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(女性43.6%、男性46.3%)、「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(女性44.0%、男性38.4%)の順となった。

男女の差が大きいものとしては、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」(7.1ポイント差)と女性のポイントが多くなっている。

図21-1 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと(性別)

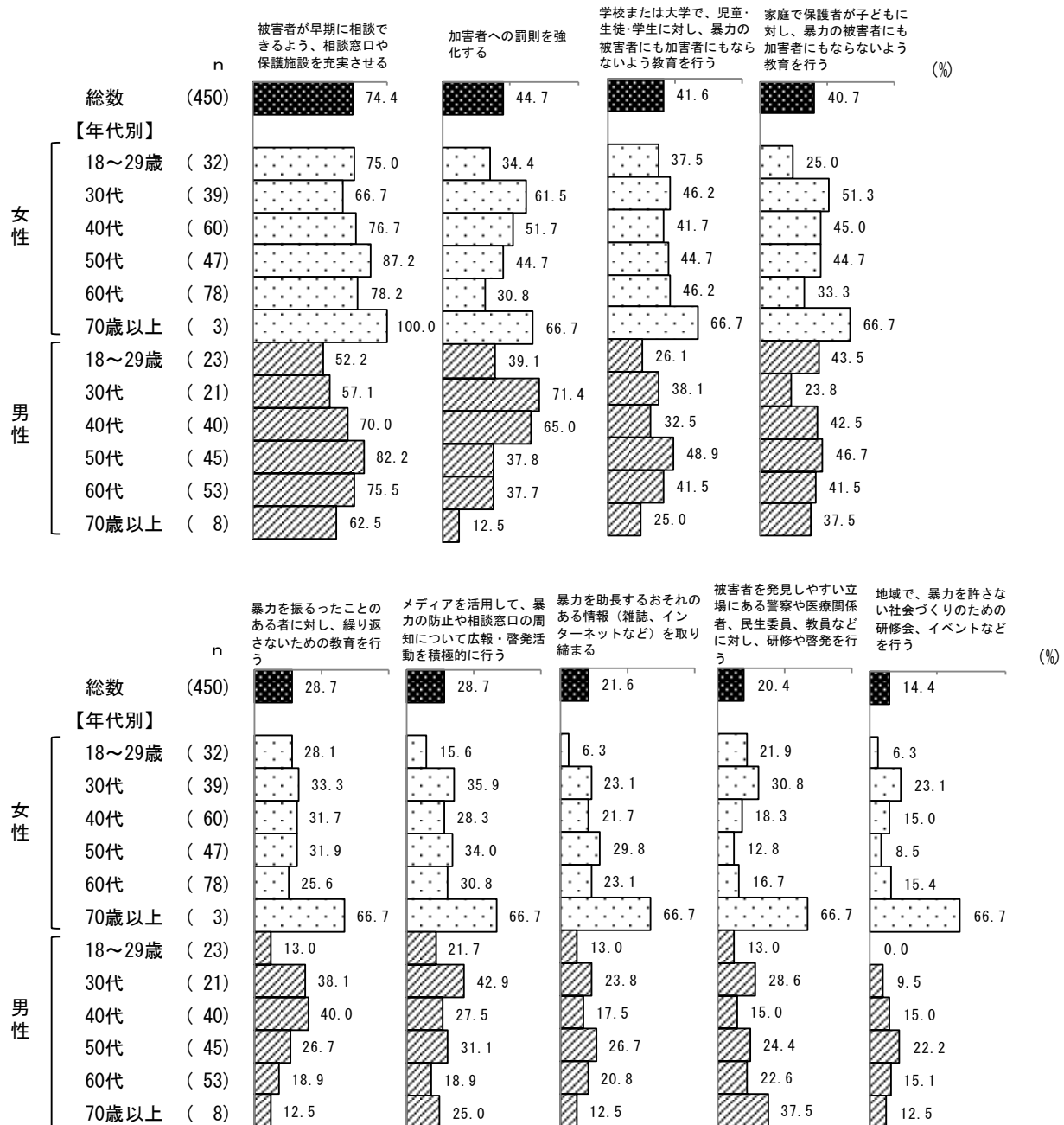


【年代別】

女性ではすべての年代で「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多い。

男性では、「加害者への罰則を強化する」が30代（71.4%）で最も多くなっている。

図21-2 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと（年代別）



VI 男女共同参画社会の実現に向けて

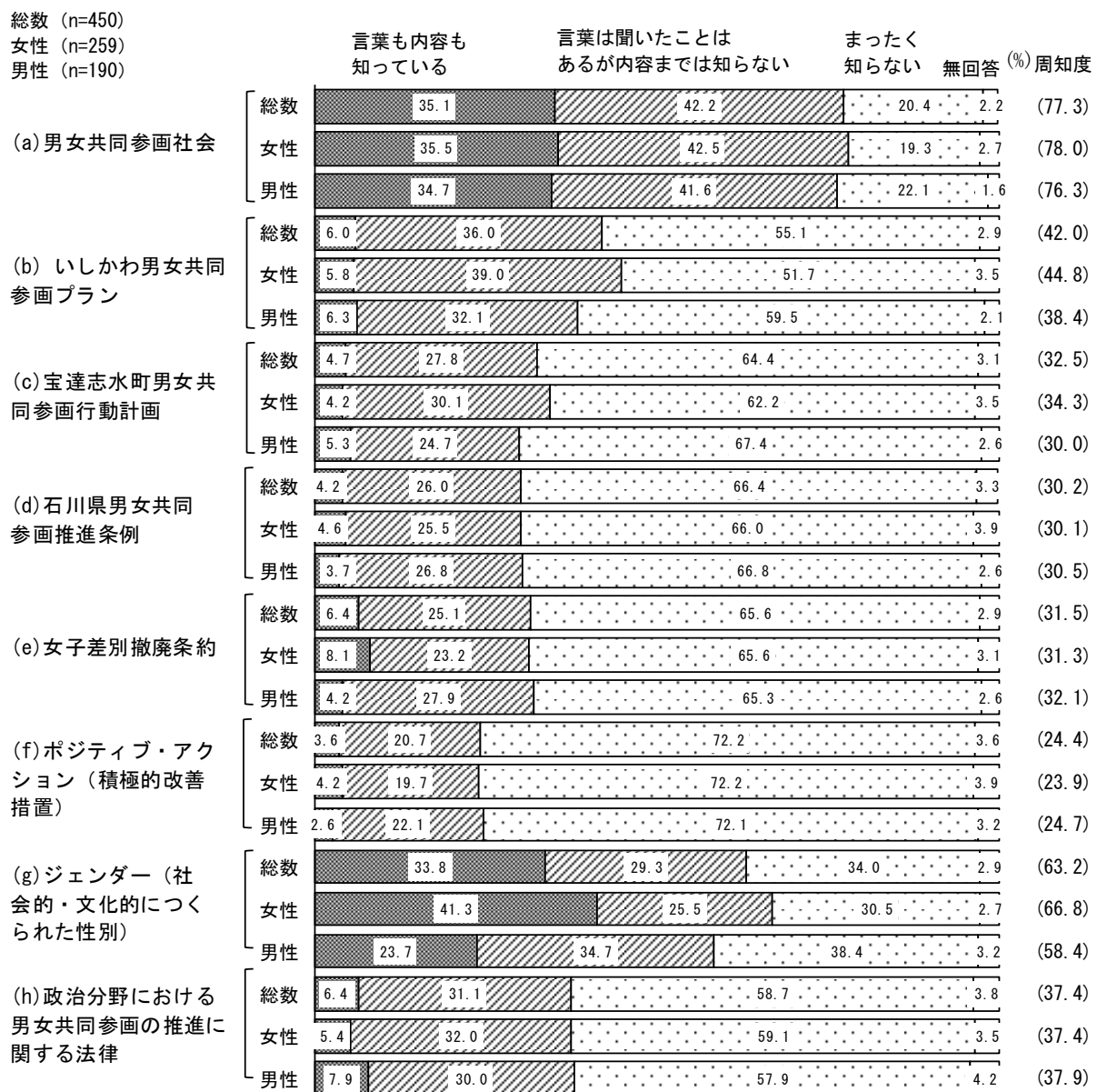
1 用語の周知度

問22 あなたは(a)～(o)それぞれの言葉についてどの程度ご存知ですか。該当する番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

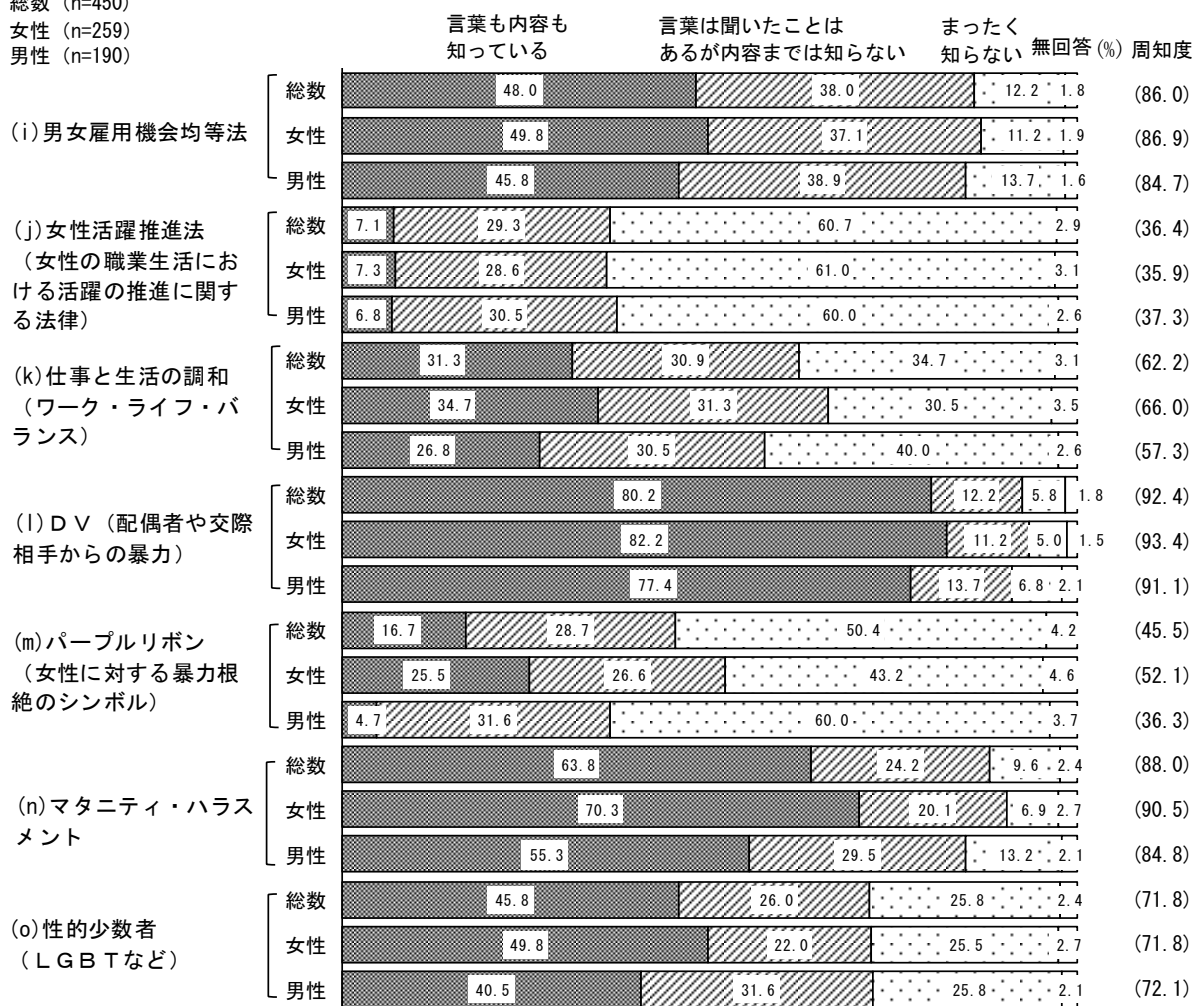
全体では、“(1) DV (配偶者や交際相手からの暴力)”が最も周知度が高く(女性93.4%、男性91.1%)、次いで“(n) マタニティ・ハラスメント”(女性90.3%、男性84.7%)、“(i) 男女雇用機会均等法”(女性86.9%、男性84.7%)となっており、8割を超えている。

※周知度:「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない」の合計

図22-1 用語の周知度 項目別一覧(性別)



総数 (n=450)
女性 (n=259)
男性 (n=190)

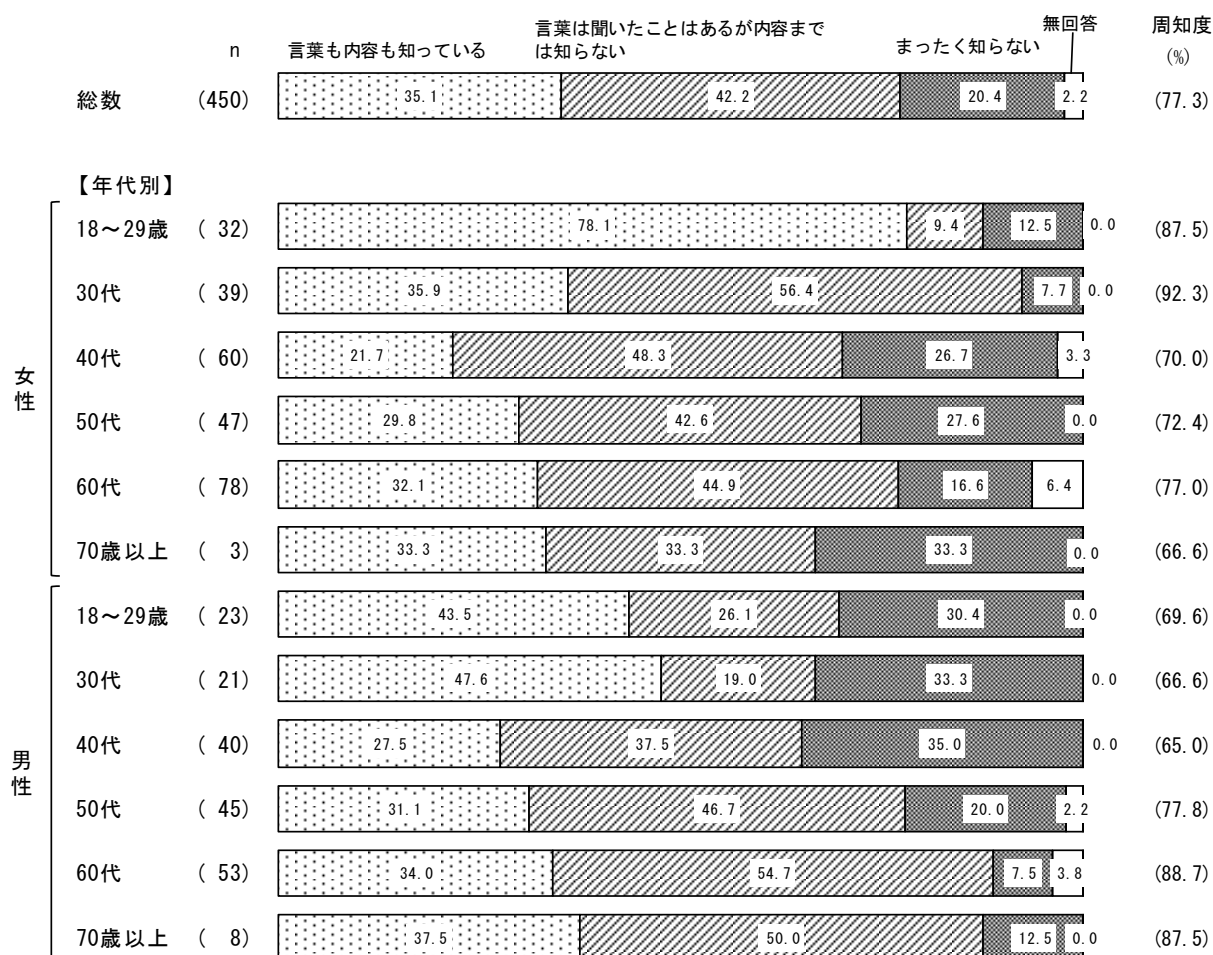


用語の周知度 (a) 男女共同参画社会

【年代別】

周知度は女性では、30代（92.3%）で最も高く、50代（72.3%）で最も低い。
男性では60代（88.7%）が最も多くなっており、40代（65.0%）で最も低い。

図22-2 用語の周知度 (a) 男女共同参画社会 (年代別)

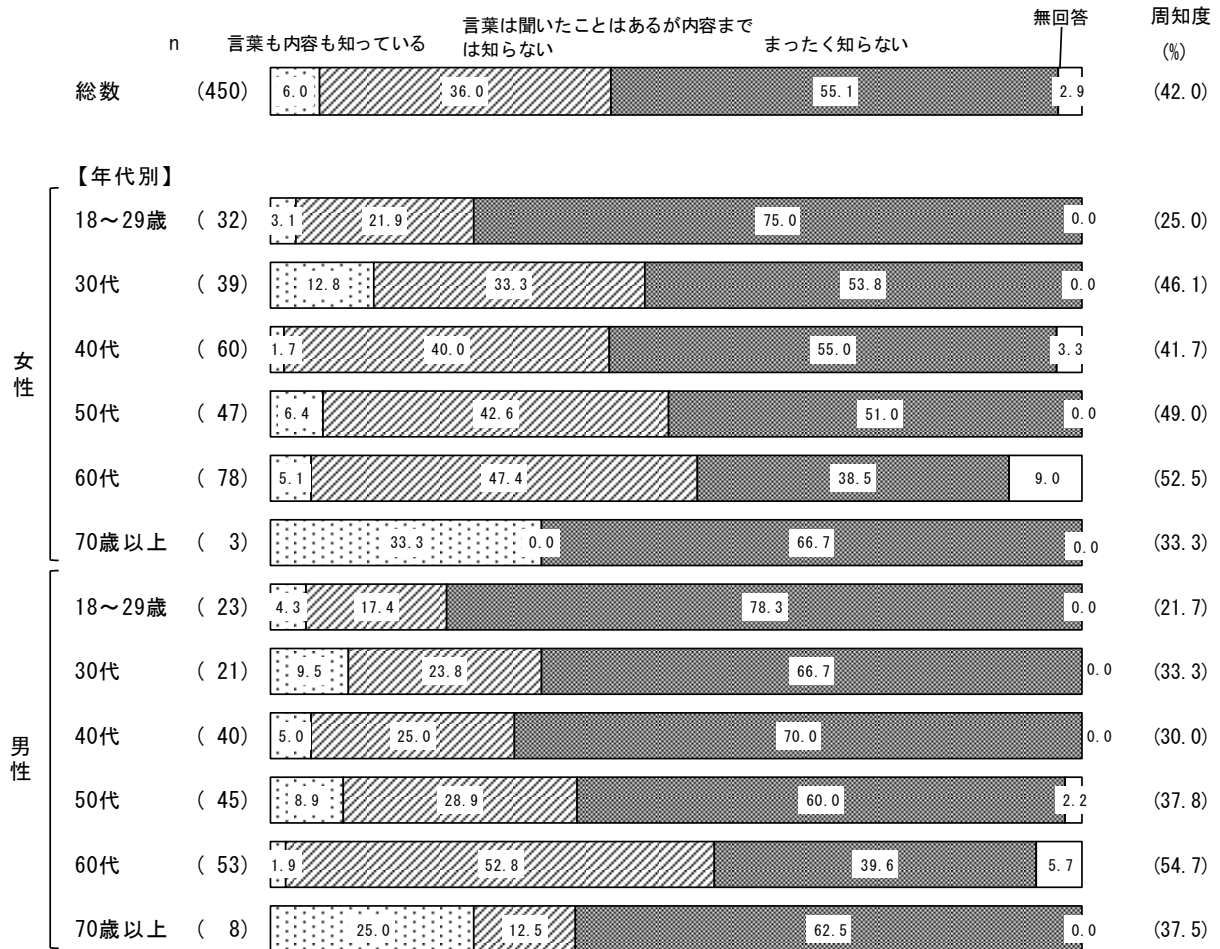


用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン

【年代別】

周知度は女性では、60代（52.6%）で最も高く、18～29歳（25.0%）で最も低い。
 男性では60代（54.7%）が最も多くなっており、18～29歳（21.7%）で最も低い。

図22-3 用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン (年代別)



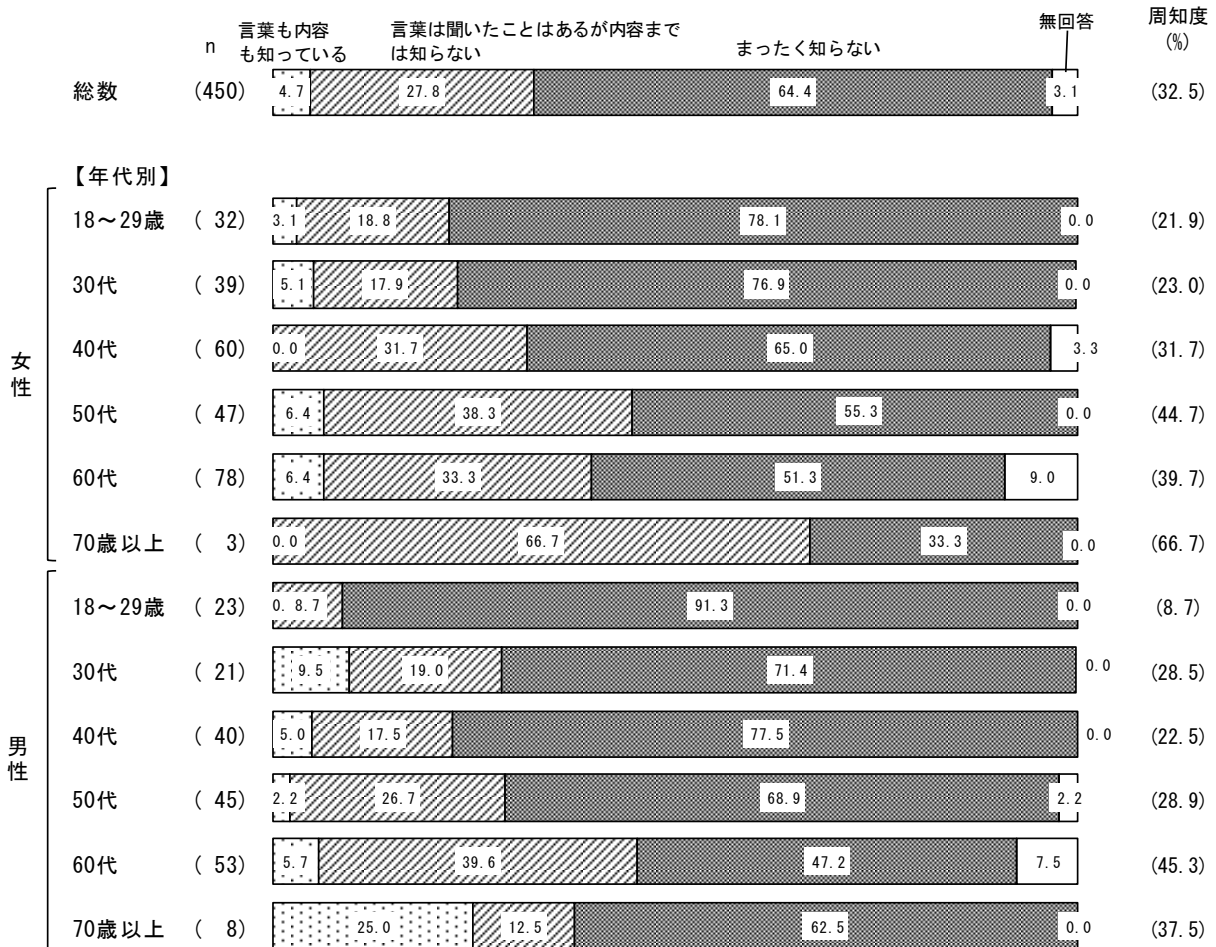
用語の周知度 (c) 宝達志水町男女共同参画行動計画

【年代別】

女性では50代 (44.7%)、60代 (39.7%) で3割を超えている。

男性では60代 (45.3%) で最も高く、18~29歳 (8.7%) で最も低くなっている。

図22-4 用語の周知度 (c) 宝達志水町男女共同参画行動計画 (年代別)



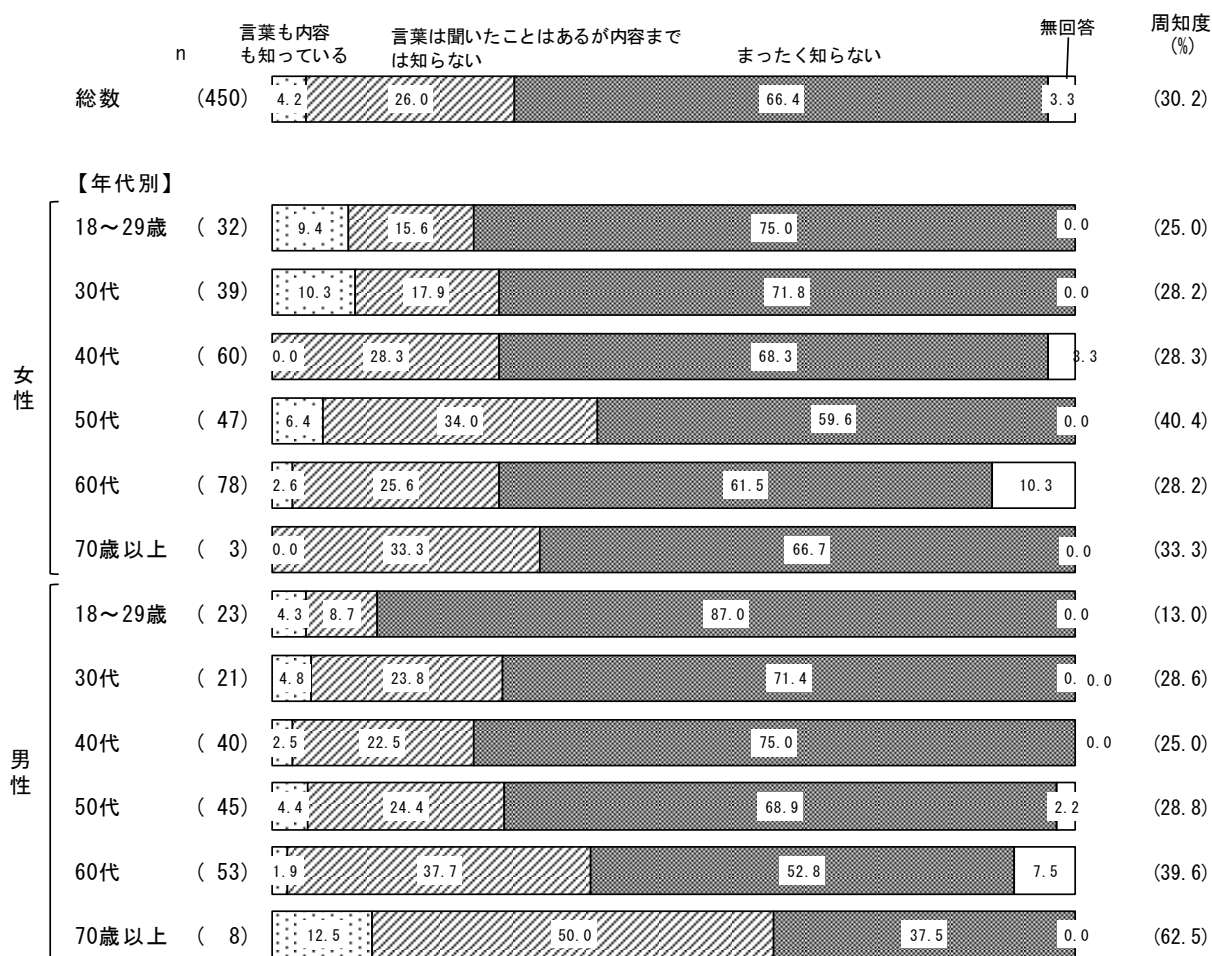
用語の周知度 (d) 石川県男女共同参画推進条例

【年代別】

女性では50代 (40.4%) で最も多くなっている。

男性では60代 (39.6%) で最も高く、18～29歳 (13.0%) で最も低くなっている。

図22-5 用語の周知度 (d) 石川県男女共同参画推進条例 (年代別)



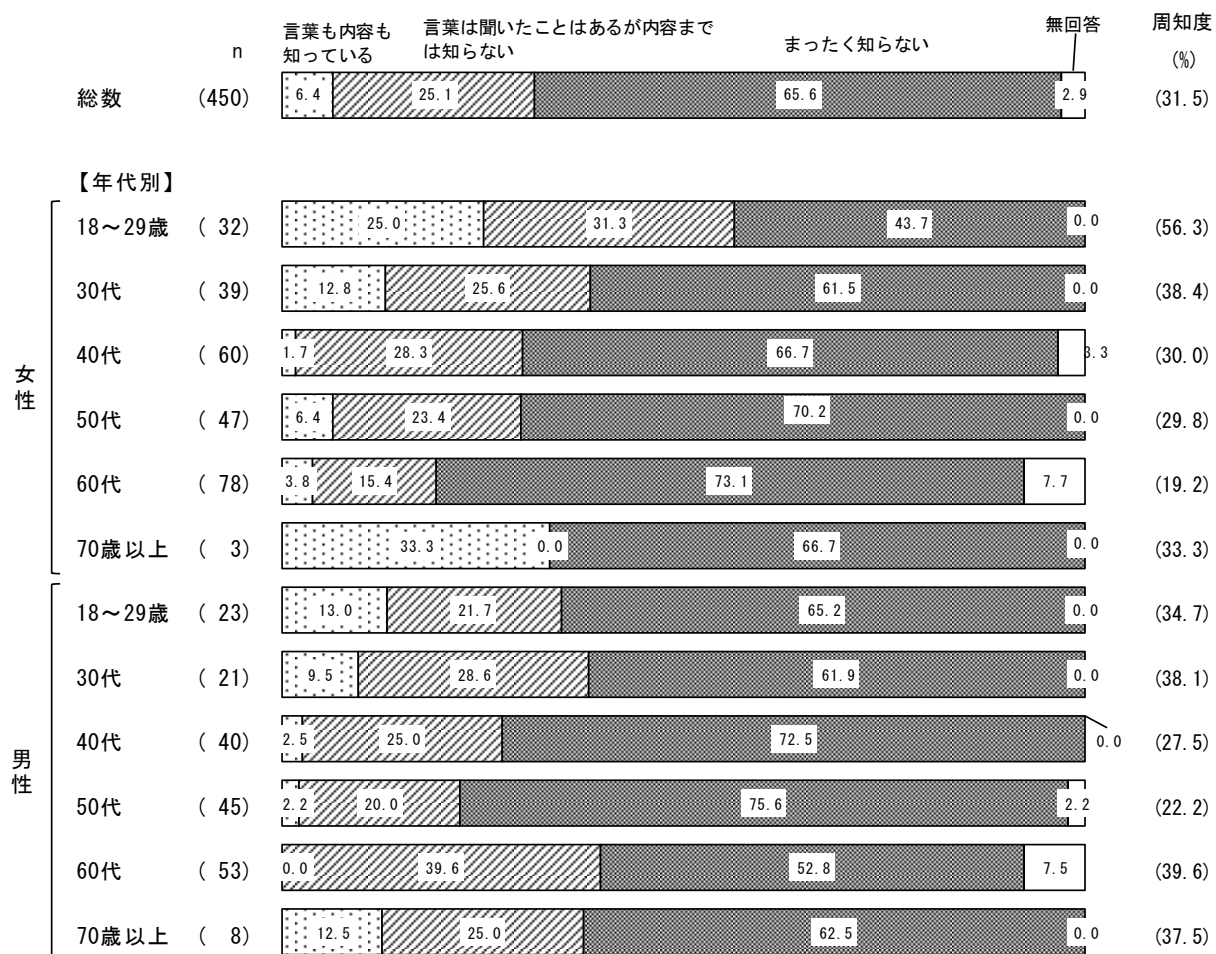
用語の周知度 (e) 女子差別撤廃条約

【年代別】

周知度は、女性では18～29歳（56.3%）で最も高くなっている。

男性では30代で（38.1%）で最も高くなっている。

図22-6 用語の周知度 (e) 女子差別撤廃条約 (年代別)



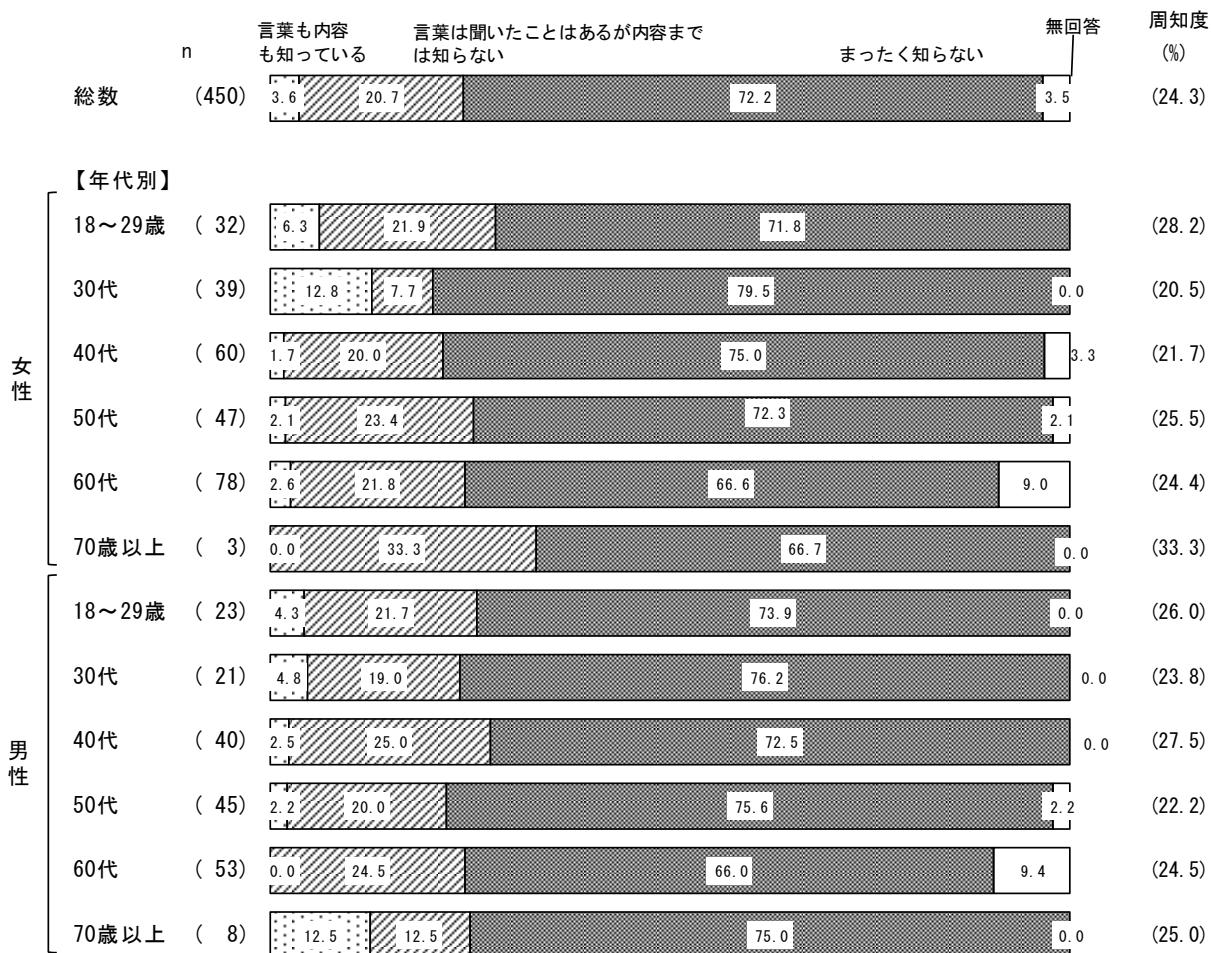
用語の周知度 (f) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)

【年代別】

女性では18～29歳 (28.2%) で最も高くなっている。

男性では40代で (27.5%) で最も高くなっている。

図22-7 用語の周知度 (f) ポジティブ・アクション (積極的改善措置) (年代別)



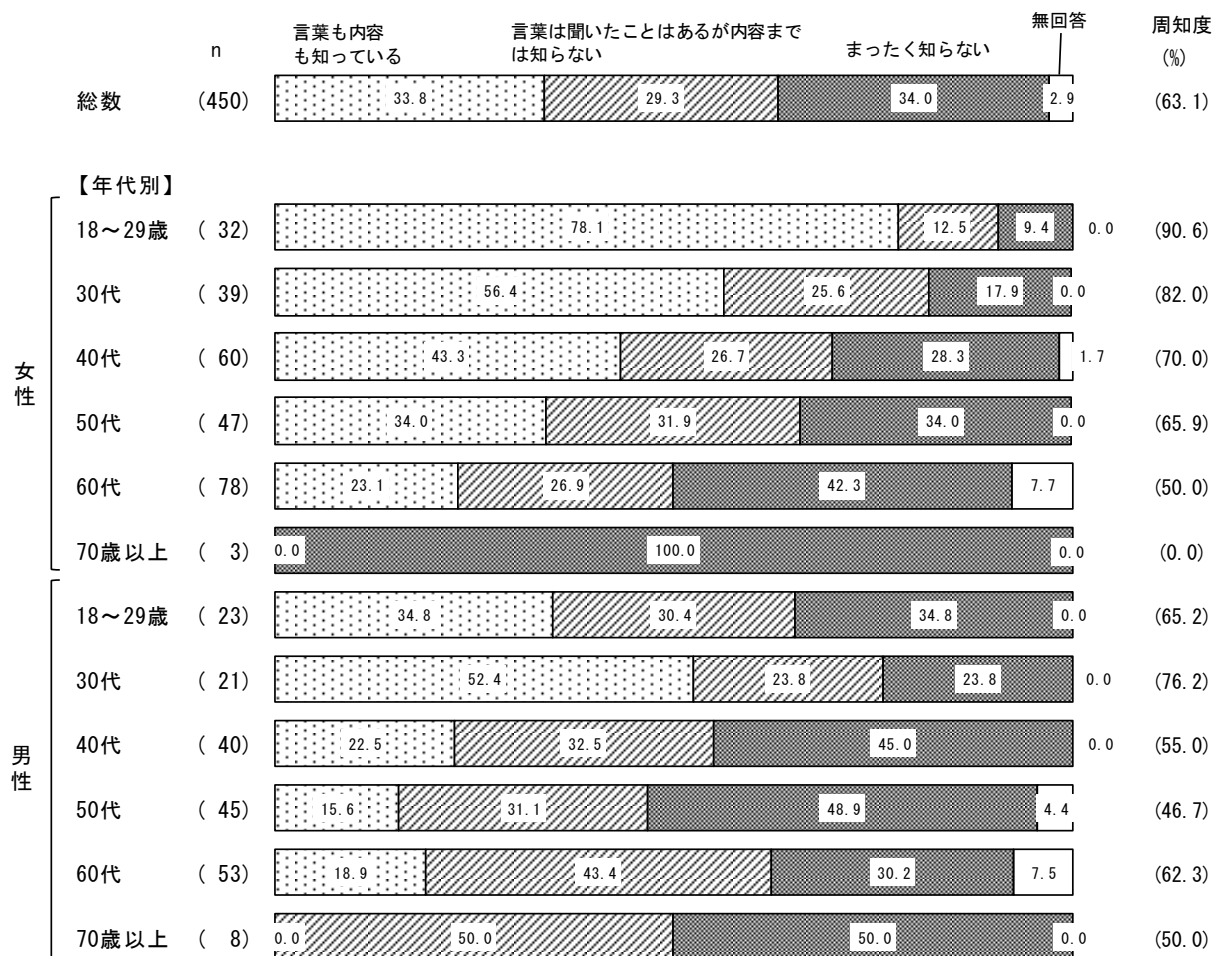
用語の周知度 (g) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)

【年代別】

女性では18～29歳 (90.6%) で最も高くなっている。

男性では30代で (76.2%) で最も高くなっている。

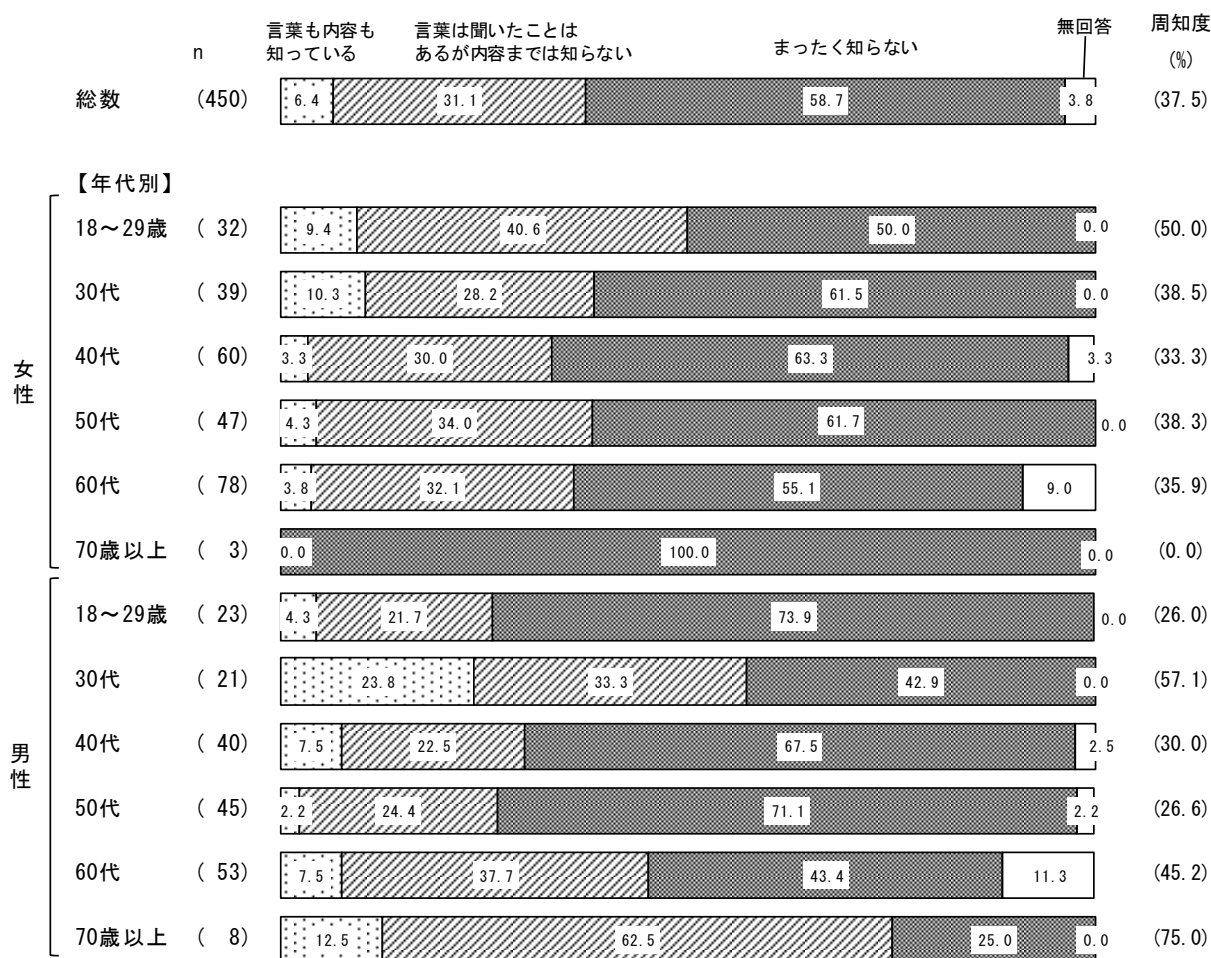
図22-8 用語の周知度 (g) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別) (年代別)



用語の周知度 (h) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

【年代別】
 女性では18～29歳（50.0%）で最も高くなっている。
 男性では30代で（57.1%）で最も高くなっている。

図22-9 用語の周知度 (h) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律 (年代別)



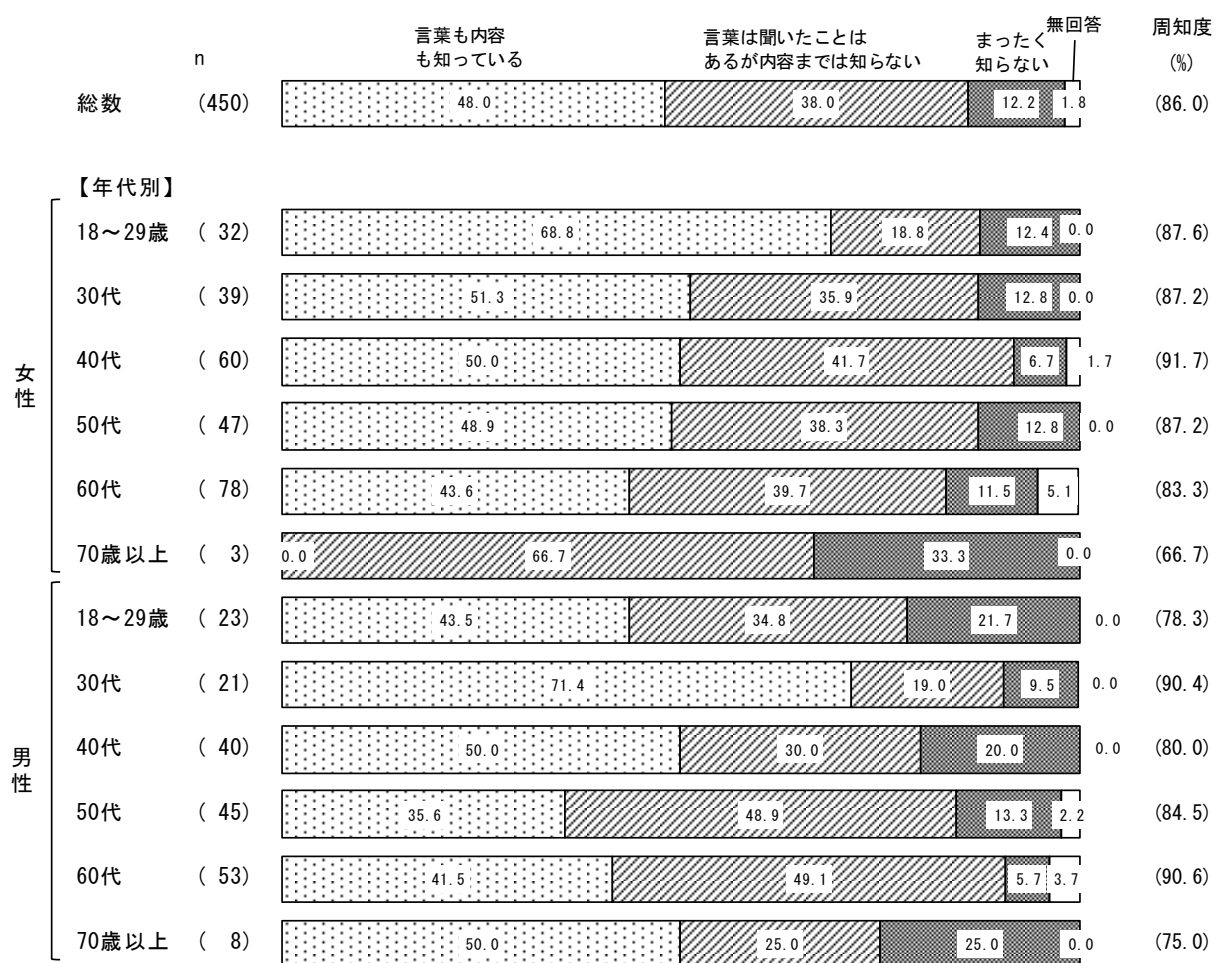
用語の周知度 (i) 男女雇用機会均等法

【年代別】

女性では40代 (93.2%) で最も多くなっている。

男性では60代 (90.6%) が最も多くなっている。

図22-10 用語の周知度 (i) 男女雇用機会均等法 (年代別)



用語の周知度 (j) 女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

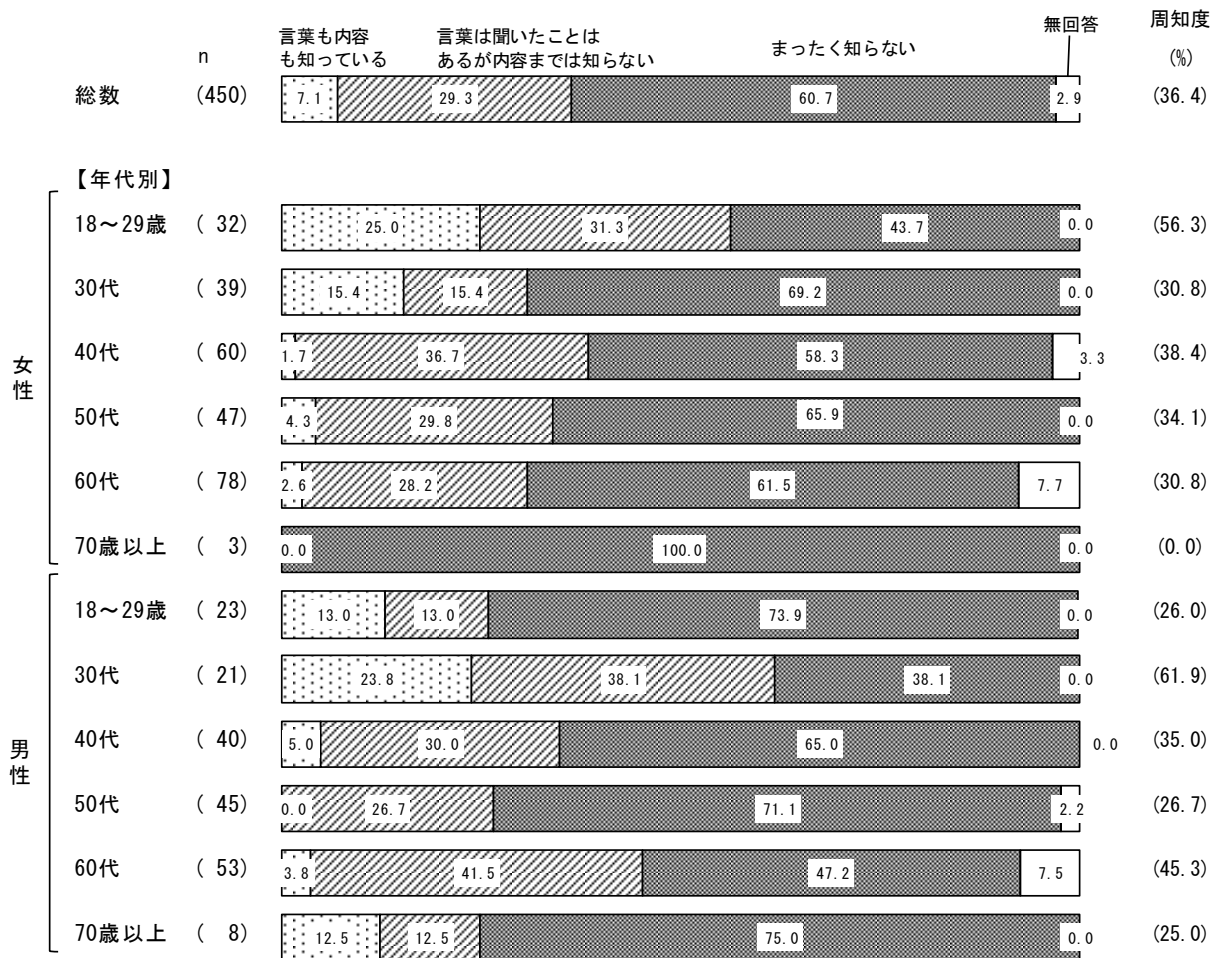
【年代別】

女性では18～29歳 (56.3%) で最も多くなっている。

男性では30代 (61.9%) が最も多くなっている。

図22-11 用語の周知度

(j) 女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律) (年代別)



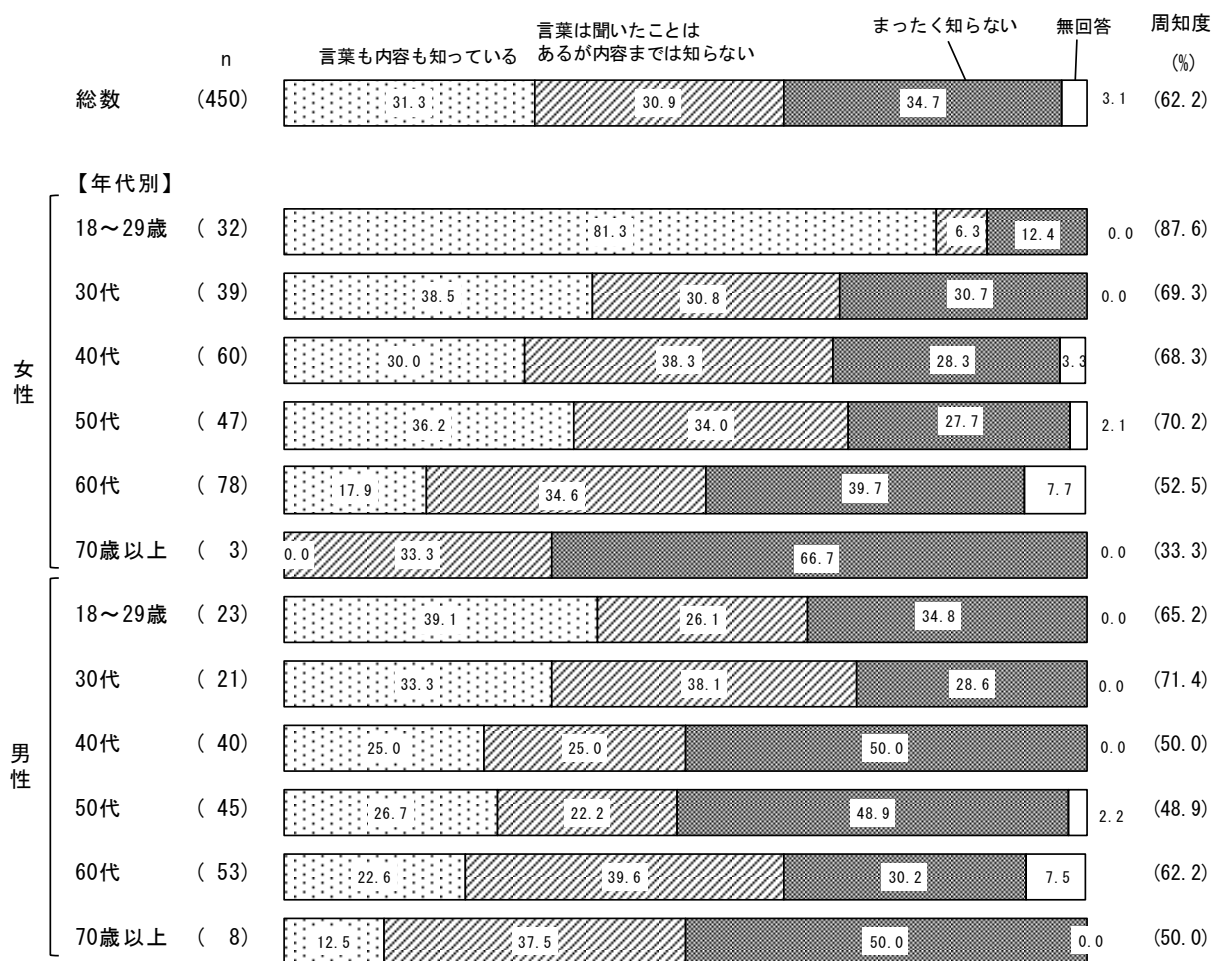
用語の周知度 (k) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)

【年代別】

女性では18～29歳 (87.6%) が最も多くなっている。

男性では30代 (71.4%) が最も多くなっている。

図22-12 用語の周知度 (k) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) (年代別)



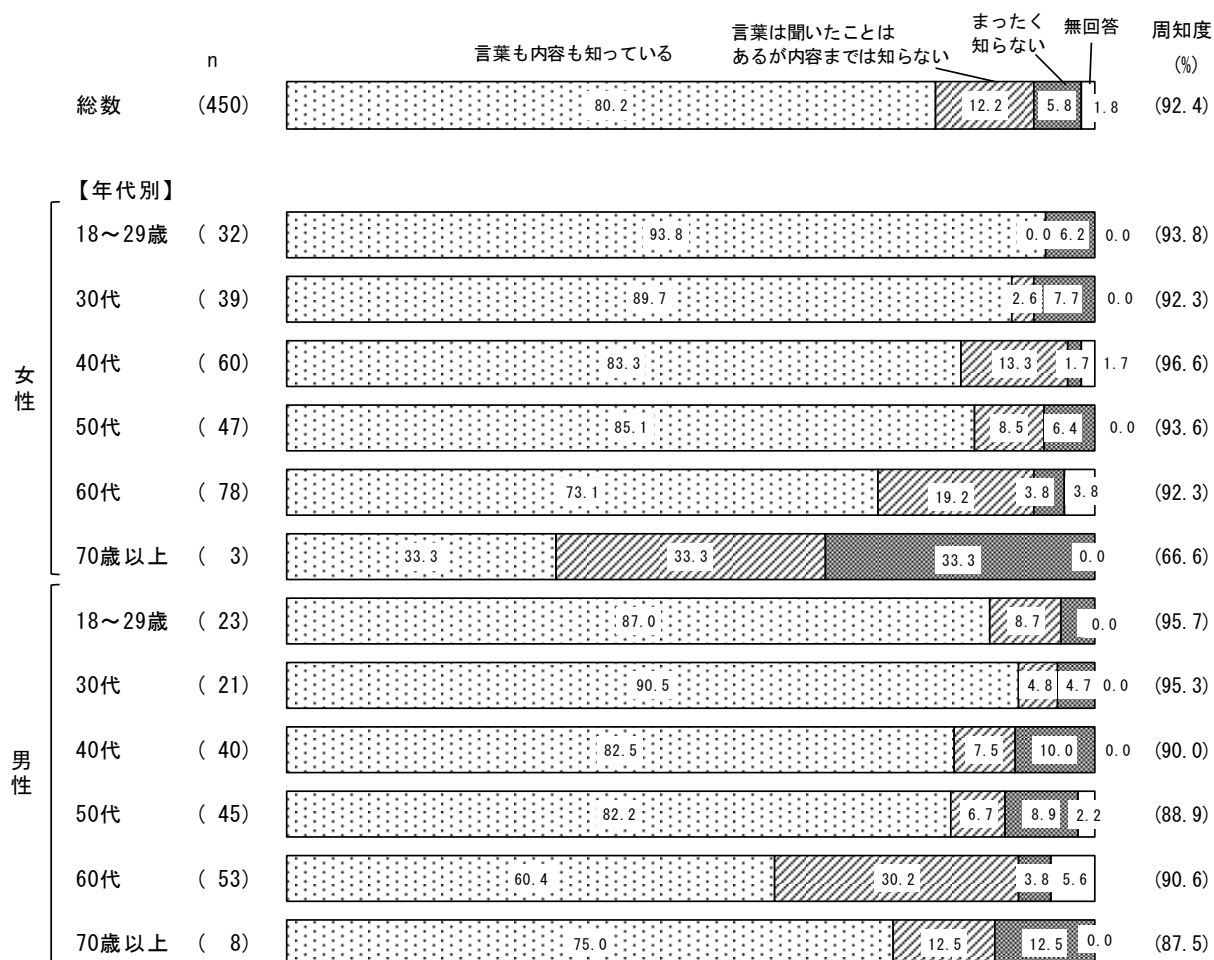
用語の周知度 (I) DV (配偶者や交際相手からの暴力)

【年代別】

女性では40代 (96.6%) が最も多くなっている。

男性では18~29歳 (95.7%) が最も多くなっている。

図22-13 用語の周知度 (I) DV (配偶者や交際相手からの暴力) (年代別)



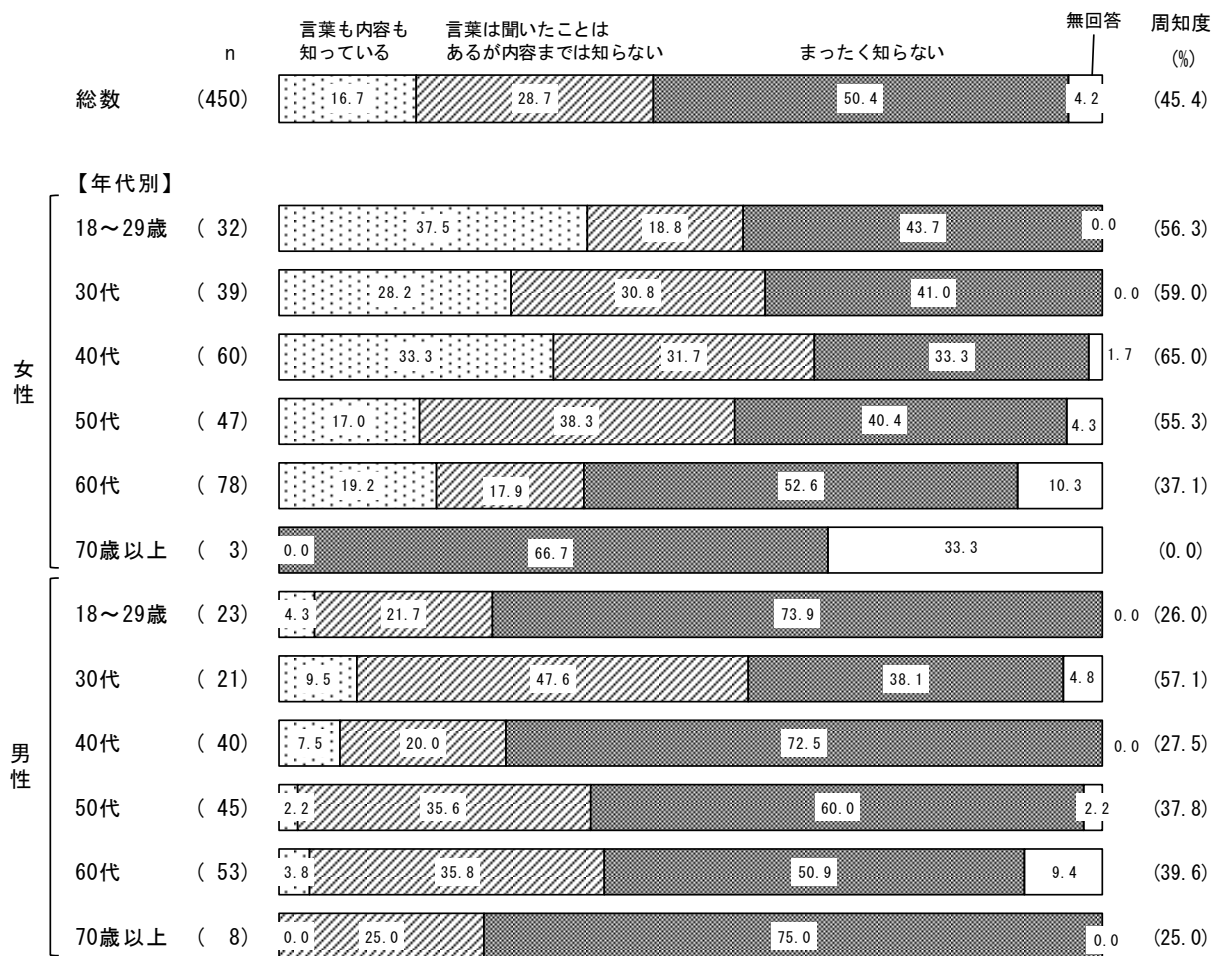
用語の周知度 (m) パープルリボン (女性に対する暴力根絶のシンボル)

【年代別】

女性では40代 (65.0%) が最も多くなっている。

男性では30代 (57.1%) が最も多くなっている。

図22-14 用語の周知度 (m) パープルリボン (女性に対する暴力根絶のシンボル) (年代別)



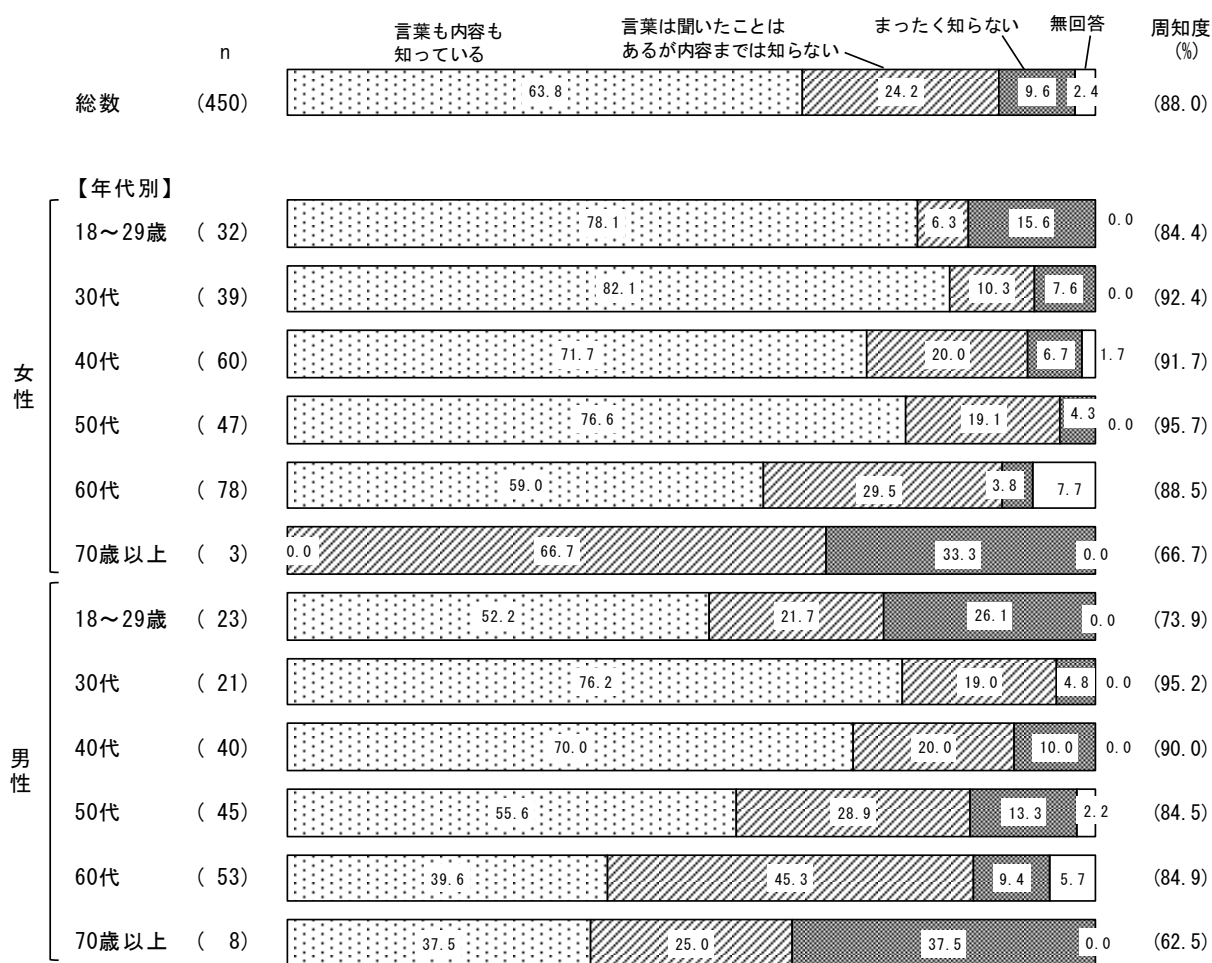
用語の周知度 (n) マタニティ・ハラスメント

【年代別】

女性では50代 (95.7%) が最も多くなっている。

男性でも50代 (95.2%) が最も多くなっている。

図22-15 用語の周知度 (n) マタニティ・ハラスメント (年代別)



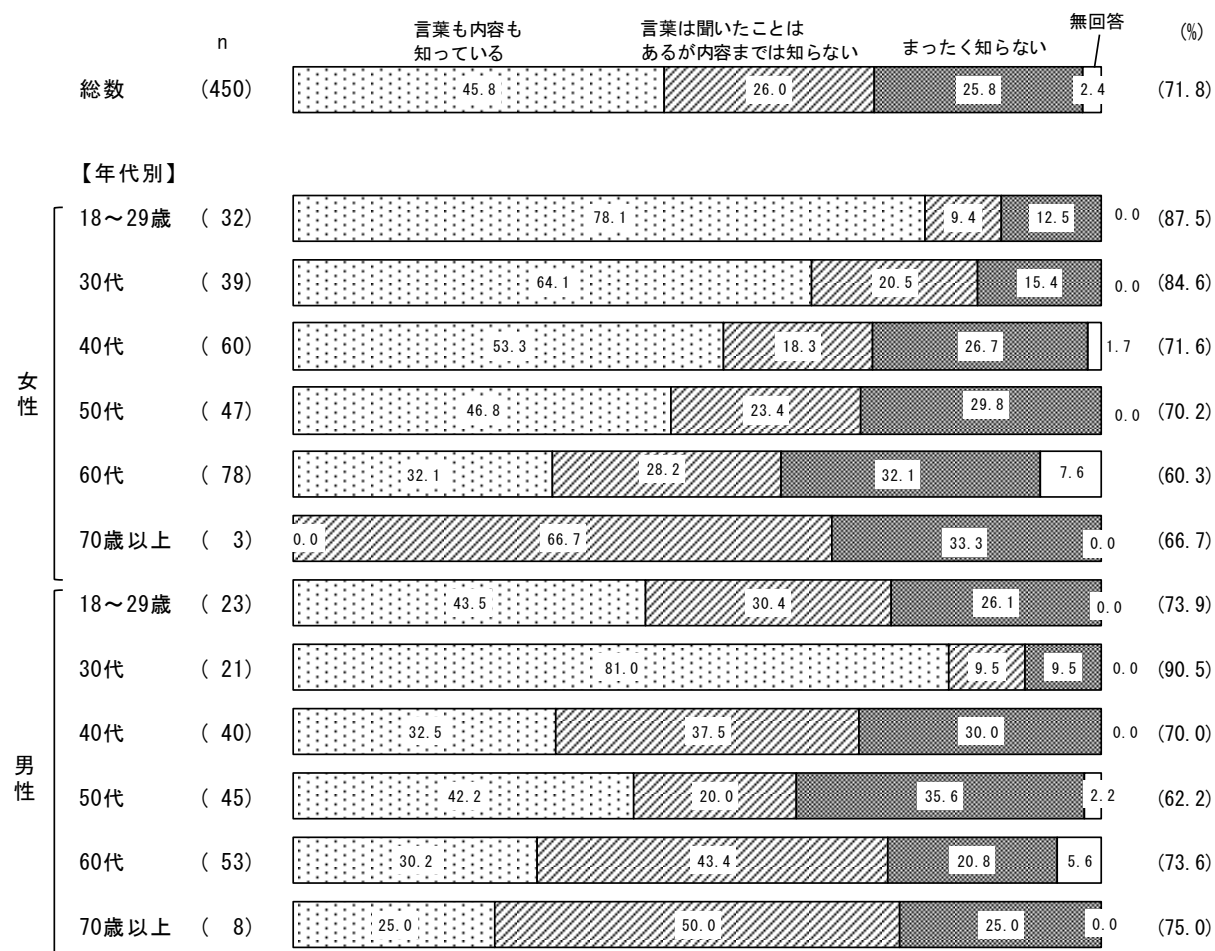
用語の周知度 (o) 性的少数者 (LGBTなど)

【年代別】

女性では18～29歳 (87.5%) が最も多くなっている。

男性では30代 (90.5%) が最も多くなっている。

図22-16 用語の周知度 (o) 性的少数者 (LGBTなど) (年代別)

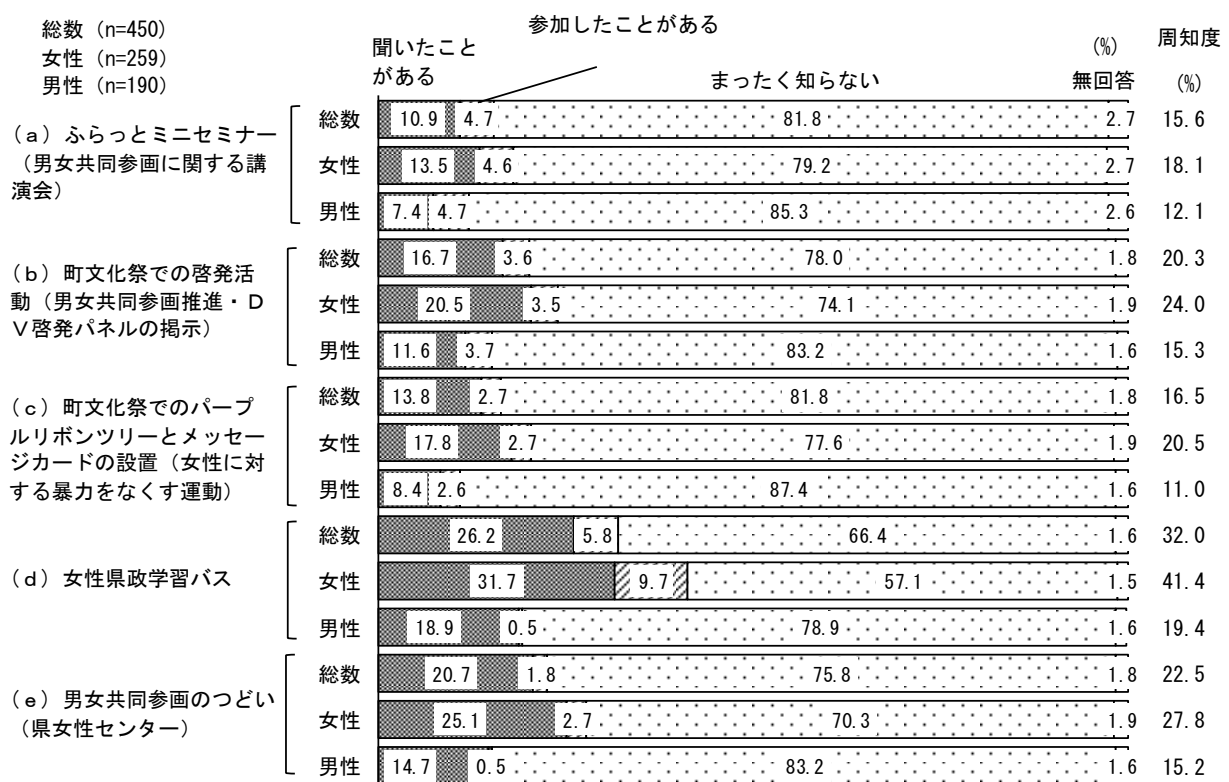


2 事業の周知度

問23 あなたは町や県の男女共同参画に関する取り組み(a)~(e)それぞれの事業についてご存知ですか。また、参加したことはありますか。該当する番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

全体では、“(d)女性県政学習バス”(女性41.4%、男性19.4%)の周知度が最も高く、次いで、“(e)男女共同参画のつどい(県女性センター)”(女性27.8%、男性15.2%)、“(b)町文化祭での啓発活動(男女共同参画推進・DV啓発パネルの掲示)”(女性24.0%、男性15.3%)の順となっている。

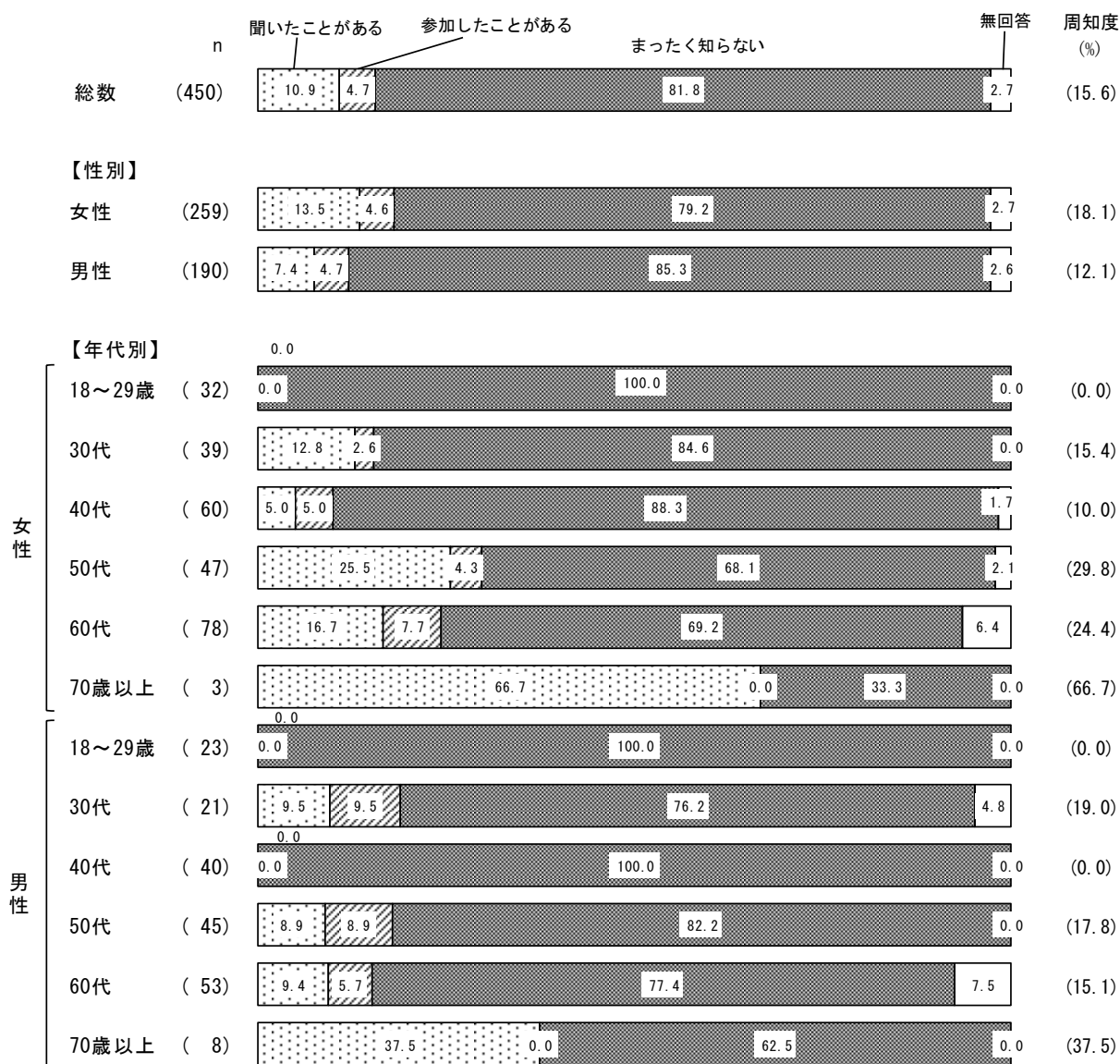
図23-1 事業の周知度 (性別)



事業の周知度 (a) ふらっとミニセミナー (男女共同参画に関する講演会)

【年代別】
 女性では50代 (29.8%) が最も多くなっている。
 男性では30代 (19.0%) が最も多くなっている。

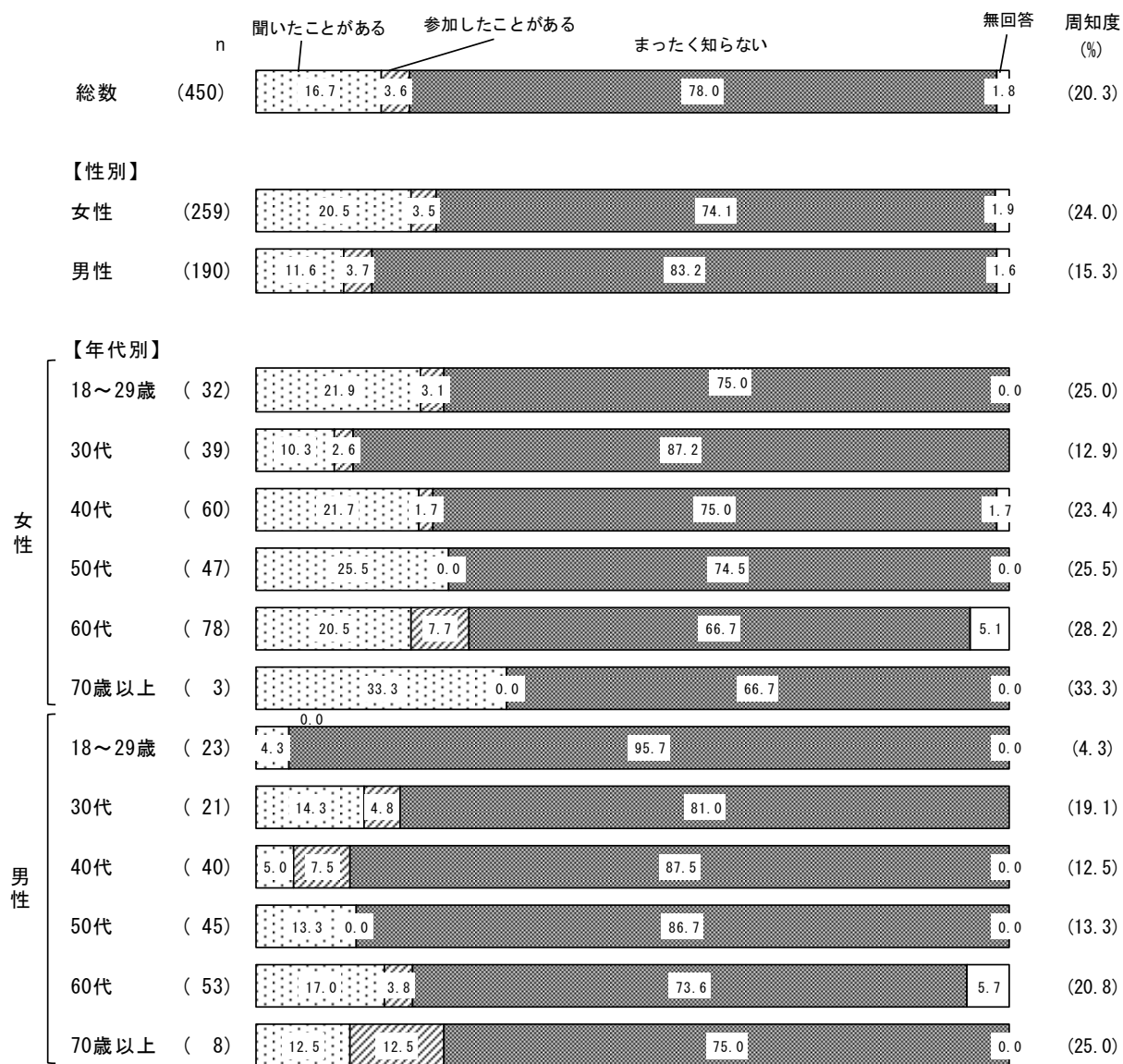
図23-2 事業の周知度 (a) ふらっとミニセミナー (男女共同参画に関する講演会) (年代別)



事業の周知度 (b) 町文化祭での啓発活動 (男女共同参画推進・DV啓発パネルの掲示)

【年代別】
 女性では60代 (28.2%) が最も多くなっている。
 男性では60代 (20.8%) が最も多くなっている。

図23-3 事業の周知度 (b) 町文化祭での啓発活動 (男女共同参画推進・DV啓発パネルの掲示) (年代別)



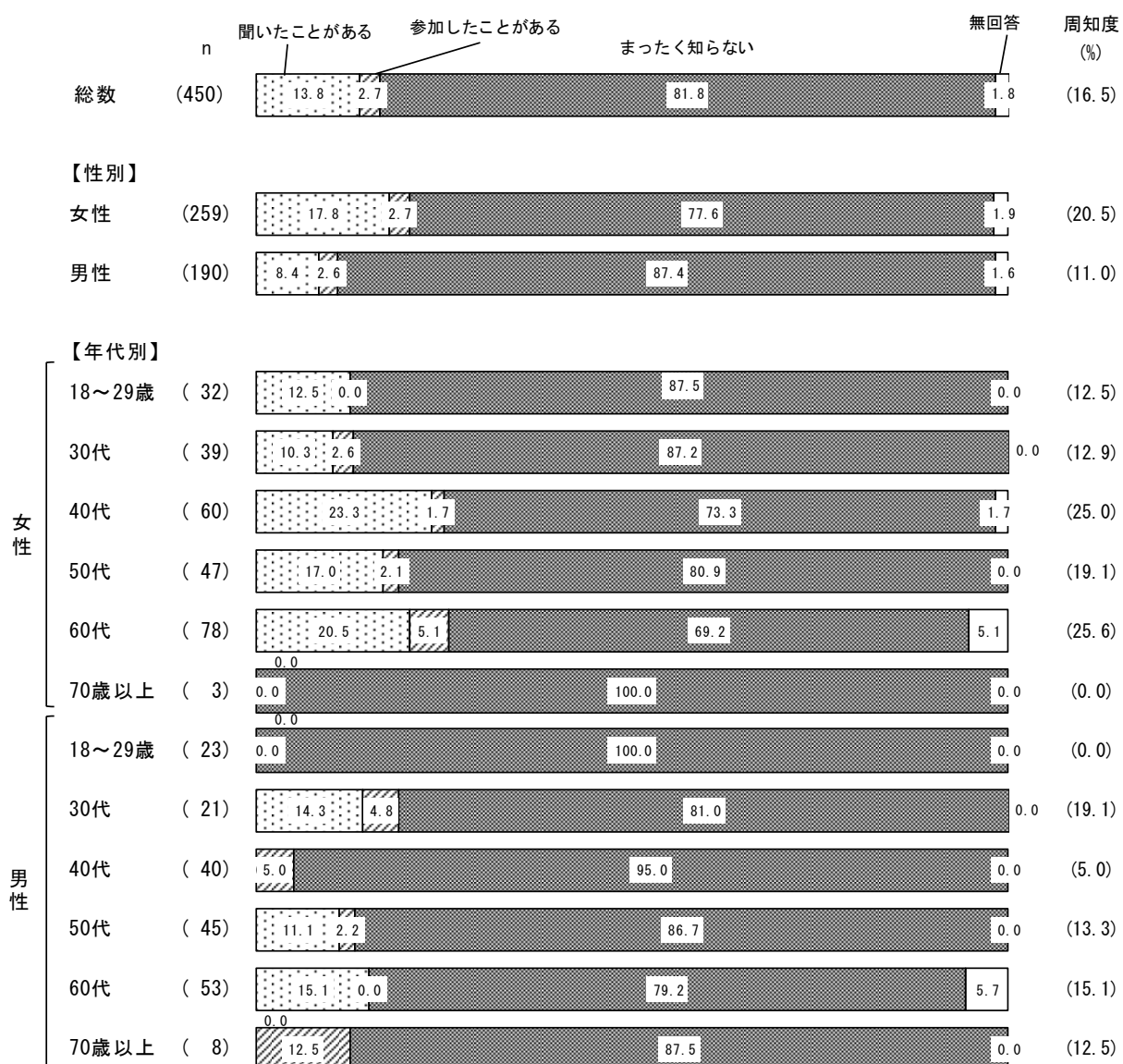
事業の周知度 (c) 町文化祭でのパープルリボンツリーとメッセージカードの設置 (女性
に対する暴力をなくす運動)

【年代別】

女性では60代 (25.6%) が最も多くなっている。

男性では30代 (19.0%) が最も多くなっている。

図23-4 事業の周知度 (c) 町文化祭でのパープルリボンツリーとメッセージカードの設置 (女性に対する暴力をなくす運動) (年代別)



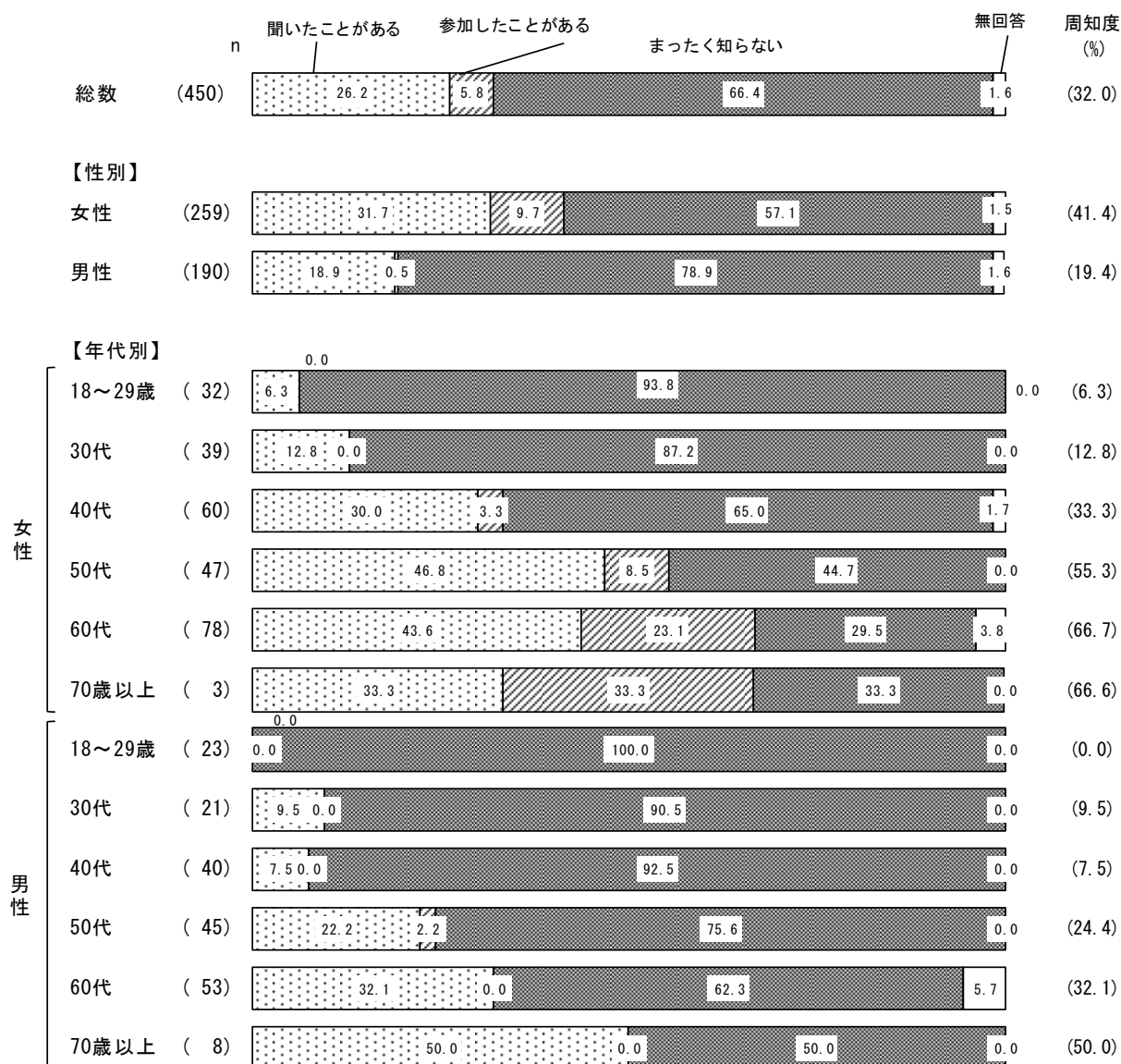
用語の周知度 (d) 女性県政学習バス

【年代別】

女性では60代（66.7%）が最も多くなっている。

男性では30代（32.1%）が最も多くなっている。

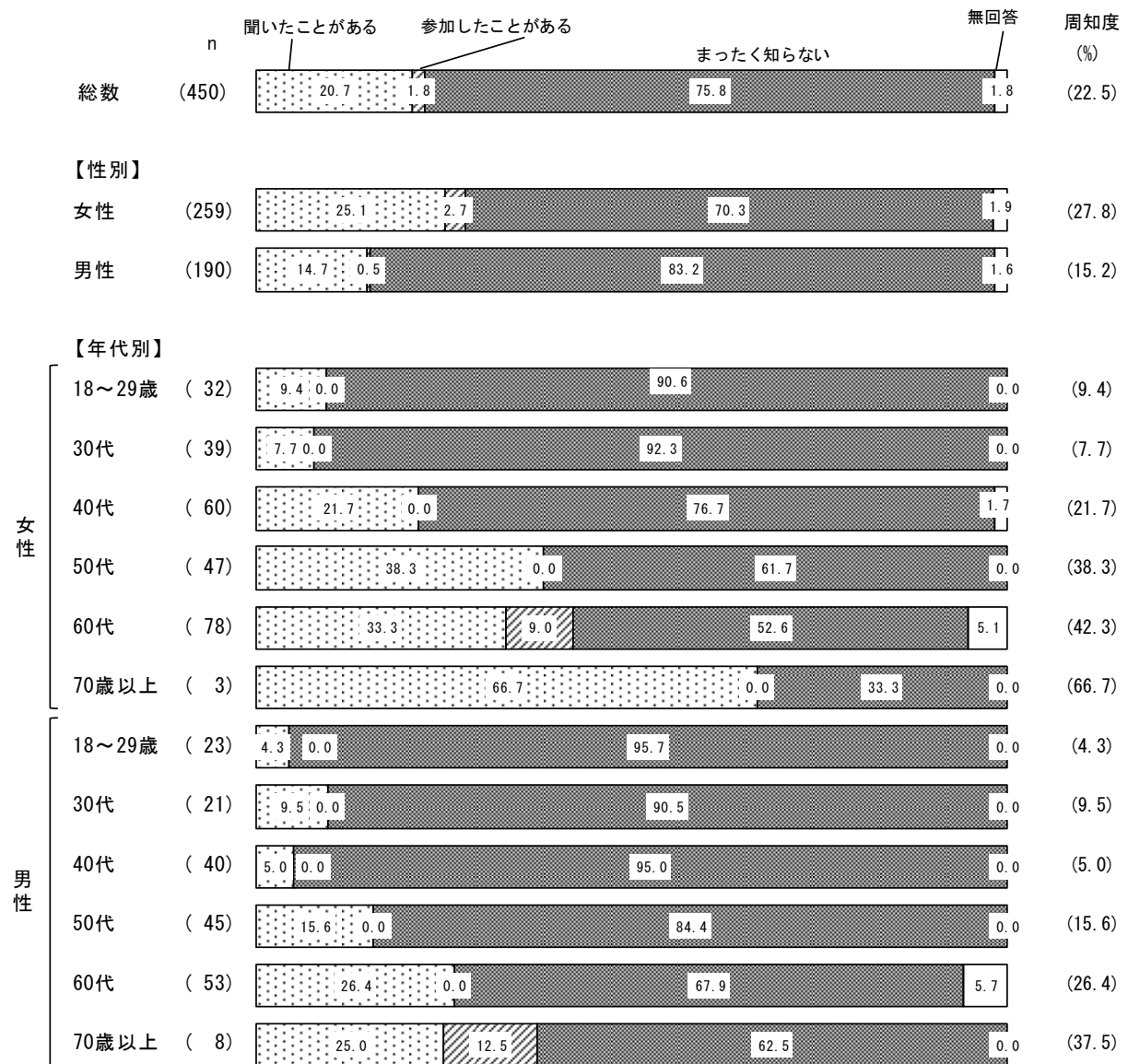
図23-5 事業の周知度 (d) 女性県政学習バス (年代別)



事業の周知度 (e) 男女共同参画のつどい (県女性センター)

【年代別】
 女性では60代 (42.3%) が最も多くなっている。
 男性では60代 (26.4%) が最も多くなっている。

図23-6 事業の周知度 (e) 男女共同参画のつどい (県女性センター) (年代別)



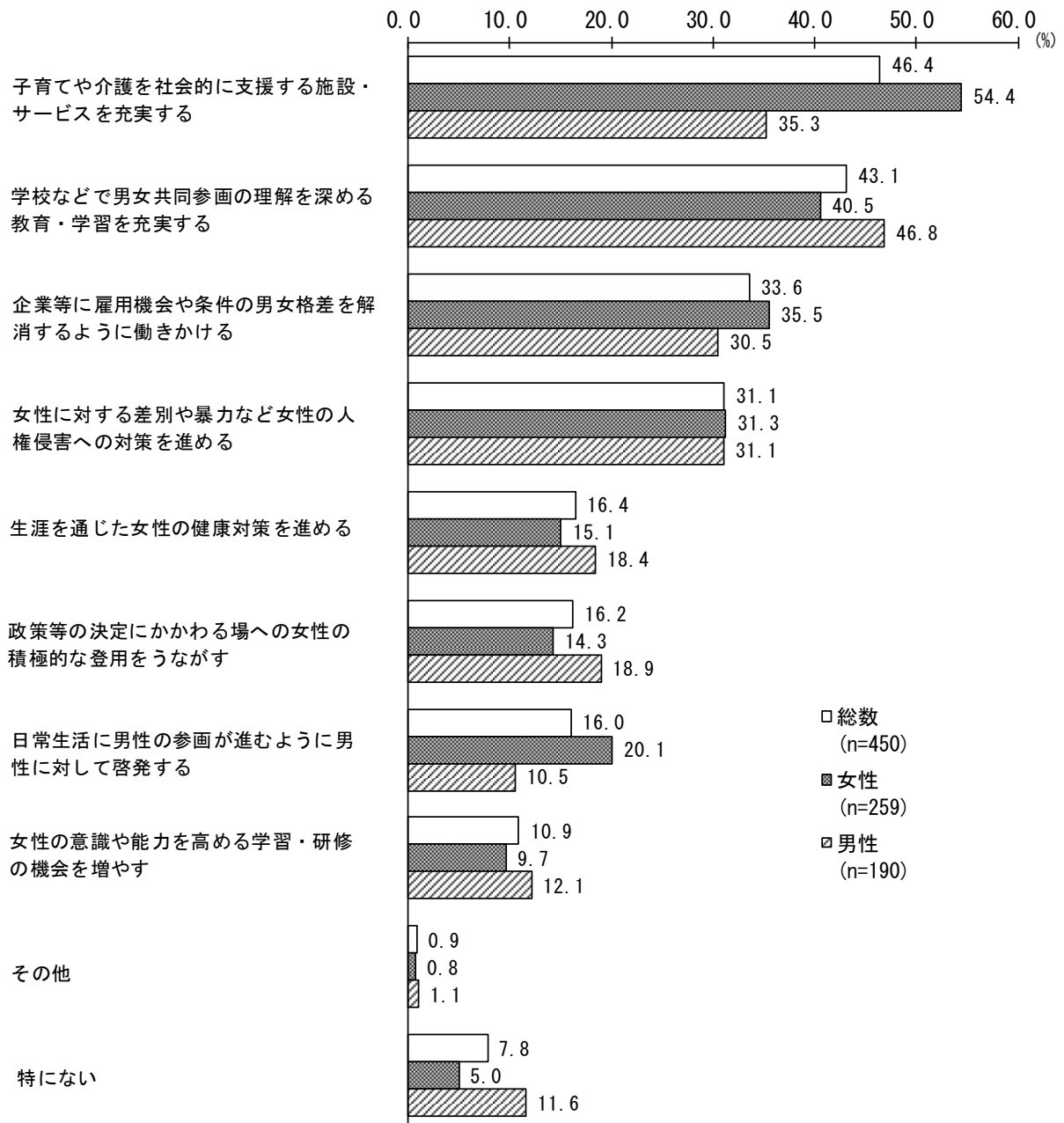
3 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

問24 あなたは町が「男女共同参画社会」の実現に向けて、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

全体では「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実する」(46.4%)が最も多く、次いで「学校などで男女共同参画の理解を深める教育・学習を充実する」(43.1%)が続いている。

男女の差があるものについては、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実する」は女性が19.1ポイント、「学校などで男女共同参画の理解を深める教育・学習を充実する」は男性が6.3ポイント多くなっている。

図24-1 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと 項目別一覧(性別)



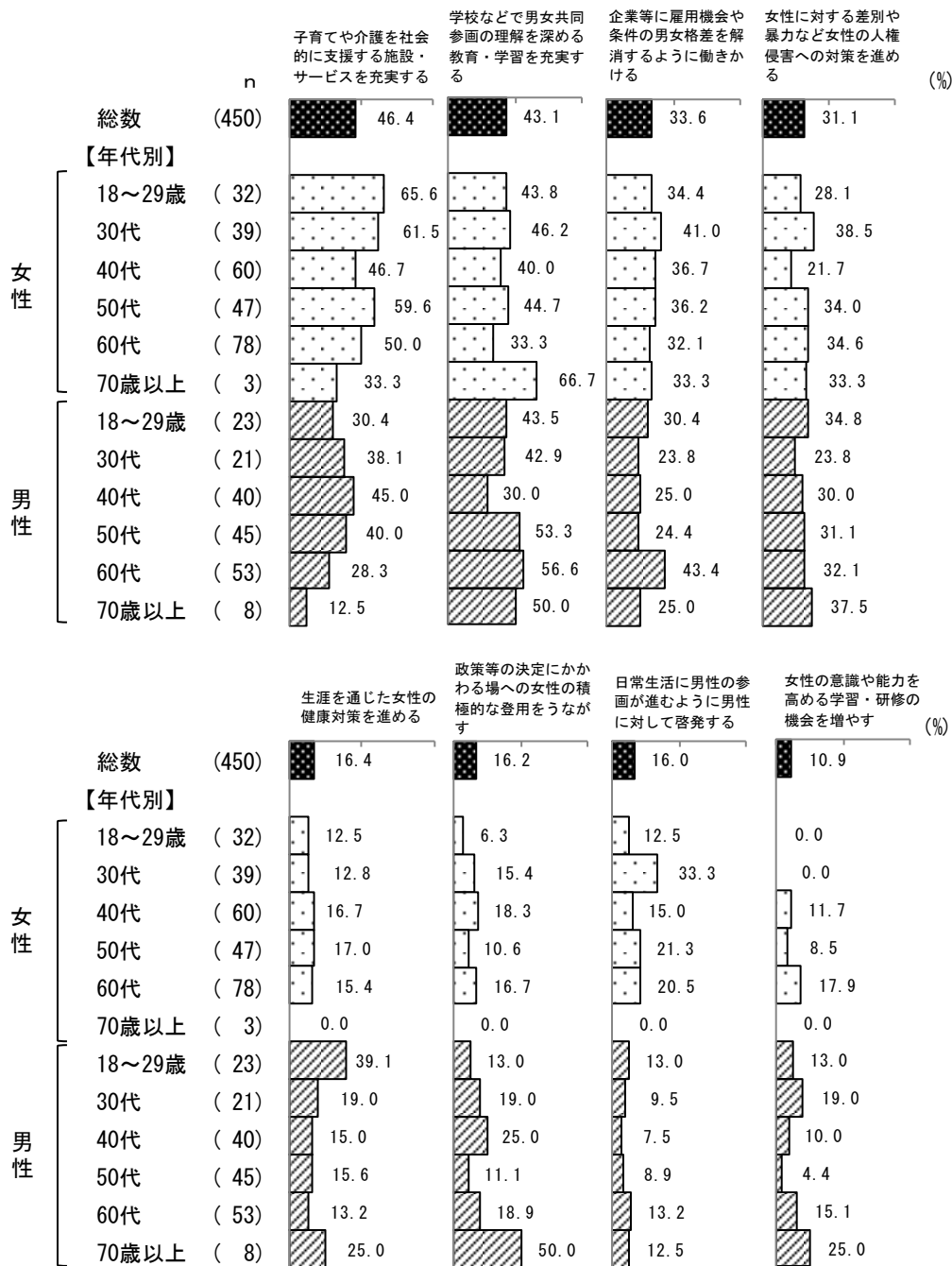
男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

【年代別】

女性では、全ての年代で「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実する」が最も多くなっている。

男性では、40代以外で「学校などで男女共同参画の理解を深める教育・学習を充実する」が最も多くなっている。

図 24-2 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと（年代別）



(令和2年度)

男女共同参画に関する町民意識調査

宝達志水町教育委員会 生涯学習課

〒929-1492 石川県羽咋郡宝達志水町子浦そ18番地1

TEL 0767-29-8320

